



Sun Update Connection System 1.0.8 管理ガイド



Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 819-7283-10
2006年6月

Sun Microsystems, Inc. (以下米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書に記述されている製品に含まれる技術に関連する知的財産権を所有します。特に、この知的財産権はひとつかそれ以上の米国における特許、あるいは米国およびその他の国において申請中の特許を含んでいることがあります。それらに限定されるものではありません。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

U.S. Government Rights Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

この配布には、第三者によって開発された素材を含んでいることがあります。

本製品に含まれる HG-MinchoL、HG-MinchoL-Sun、HG-PMinchoL-Sun、HG-GothicB、HG-GothicB-Sun、および HG-PGothicB-Sun は、株式会社リコーがリコービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。HeiseiMin-W3H は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴマーク、Solaris のロゴマーク、Java Coffee Cup のロゴマーク、docs.sun.com、Java および Solaris は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標、登録商標もしくは、サービスマークです。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn6 は、オムロン株式会社、オムロンソフトウェア株式会社で共同開発されたソフトウェアです。Copyright(C) OMRON Co., Ltd. 1995-2000. All Rights Reserved. Copyright(C) OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 1995-2002 All Rights Reserved.

「ATOK for Solaris」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK for Solaris」にかかる著作権、その他の権利は株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

「ATOK」および「推測変換」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK for Solaris」に添付するフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド』に添付のものを使用しています。

「ATOK for Solaris」に含まれる郵便番号辞書(7桁/5桁)は日本郵政公社が公開したデータを元に制作された物です(一部データの加工を行なっています)。

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK のグラフィカル・ユーザインタフェースを実装するか、またはその他の方法で米国 Sun Microsystems 社との書面によるライセンス契約を遵守する、米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

本書で言及されている製品や含まれている情報は、米国輸出規制法で規制されるものであり、その他の国の輸出入に関する法律の対象となることがあります。核、ミサイル、化学あるいは生物兵器、原子力の海洋輸送手段への使用は、直接および間接を問わず厳しく禁止されています。米国が禁輸の対象としている国や、限定はされませんが、取引禁止顧客や特別指定国民のリストを含む米国輸出排除リストで指定されているものへの輸出および再輸出は厳しく禁止されています。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法(外為法)に定められる戦略物資等(貨物または役務)に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Sun Update Connection System 1.0.8 Administration Guide

Part No: 819-4687-10

Revision A

目次

はじめに	7
1 Sun Update Connection System の概要	11
初めて Sun Update Connection System を使用する場合	11
導入プロセスの概要	12
Update Manager のユーザーインターフェースの比較	13
Solaris アップデート管理の概要	15
アップデートの種類	15
Solaris のアップデートへのアクセス	16
Solaris のアップデートを管理するツール	17
Sun Update Connection System の機能	22
Update Manager のグラフィカルユーザーインターフェース	22
Sun Update Connection Hosted Web アプリケーション	23
Sun Update Connection プロキシ	24
PatchPro 分析エンジン	25
ローカルモードのコマンド行インターフェース	26
アップデートリストの操作	27
Update Manager の概念	28
Update Manager ツール	28
Update Manager の登録	29
アップデート管理のプロセス	31
アップデートのソースの指定	34
アップデート適用ポリシーのカスタマイズ	35
Update Manager の設定プロパティの設定	36
2 Sun Update Connection System ソフトウェアのインストール	37
Sun Update Connection System ソフトウェアのインストール (作業マップ)	37
▼ Update Manager の機能アップデートをインストールする方法	38

▼ Update Manager クライアントソフトウェアをインストールする方法	39
▼ Sun Update Connection プロキシ 機能アップデートをインストールする方法	40
▼ プレビューリリース版から Sun Update Connection System Release 1.0.8 にアップデート する方法	41
Update Manager クライアントソフトウェアのアンインストール (作業マップ)	42
▼ Update Manager クライアントソフトウェアをアンインストールする方法	42
▼ Update Manager クライアントエージェントソフトウェアを停止して無効化する方 法	43
3 Update Manager によるシステムの登録	45
Update Manager によるシステムの登録 (作業マップ)	45
▼ システムを登録する方法	47
▼ Sun サブスクリプションキーを取得する方法	52
4 Update Manager GUI を使用した Solaris アップデートの管理	53
Update Manager GUI を使用した Solaris アップデートの管理 (作業マップ)	53
Update Manager GUI にアクセスする	54
▼ Update Manager アプリケーションへのアクセス方法 (GUI)	54
GUI を使用してアップデート管理環境を設定する (作業マップ)	56
▼ ネットワークプロキシを指定する方法 (GUI)	57
▼ アップデートソースを指定する方法 (GUI)	58
▼ サブスクリプションキーを指定する方法 (GUI)	59
▼ Sun Update Connection Hosted Web アプリケーションを使用してシステムを管理する方 法 (GUI)	60
GUI を使用したアップデートの管理 (作業マップ)	61
▼ アップデートのためにシステムを分析して利用可能なアップデートの一覧を表示する 方法 (GUI)	62
▼ システムにアップデートを適用する方法 (GUI)	62
▼ インストールしたアップデートを表示してシステムからアップデートを削除する方法 (GUI)	65
GUI を使用してアップデート管理環境を調整する (作業マップ)	66
▼ アップデートディレクトリの場所を変更する方法 (GUI)	66
▼ 毎日のアップデート分析を有効にする方法 (GUI)	67
▼ システムを別の Sun オンラインアカウントに割り当て直す方法 (GUI)	68
▼ GNOME デスクトップで通知アイコンとメニューを表示する方法 (GUI)	68

5 Sun Update Connection Hosted ブラウザインタフェースを使用した Solaris アップデートの管理	73
Sun Update Connection Hosted Web アプリケーションを使用した Solaris アップデートの管理方法 (作業マップ)	73
Sun Update Connection System へのアクセス (作業マップ)	75
▼ Sun Update Connection System Web サイトへのログイン方法 (ブラウザインタフェース)	76
▼ ユーザー名を忘れた場合の回復方法 (ブラウザインタフェース)	76
▼ パスワードを忘れた場合の回復方法 (ブラウザインタフェース)	77
▼ パスワードの変更方法 (ブラウザインタフェース)	78
▼ Sun オンラインアカウントの作成方法 (ブラウザインタフェース)	78
▼ Sun オンラインアカウント情報の変更方法 (ブラウザインタフェース)	80
Sun Update Connection System を使用したシステムの管理 (作業マップ)	80
▼ システムを表示する方法 (ブラウザインタフェース)	81
▼ システムの詳細を表示する方法 (ブラウザインタフェース)	82
▼ 1つまたは複数のシステムに適用できるアップデートを表示する方法 (ブラウザインタフェース)	82
▼ システムの設定を編集する方法 (ブラウザインタフェース)	82
▼ システムのチェックイン間隔を設定する方法 (ブラウザインタフェース)	83
▼ システム名を変更する方法 (ブラウザインタフェース)	84
▼ システムを削除する方法 (ブラウザインタフェース)	84
Sun Update Connection System を使用したアップデートの管理 (作業マップ)	85
▼ アップデートのインストール方法 (ブラウザインタフェース)	86
▼ 依存性のあるアップデートを、選択したアップデートとともにインストールする方法 (ブラウザインタフェース)	87
▼ アップデートをアンインストールする方法 (ブラウザインタフェース)	88
▼ アップデートの詳細を表示する方法 (ブラウザインタフェース)	88
ジョブの管理 (作業マップ)	89
▼ ジョブを表示する方法 (ブラウザインタフェース)	90
▼ ジョブの詳細を表示する方法 (ブラウザインタフェース)	90
▼ システムページからジョブを作成する方法 (ブラウザインタフェース)	91
▼ アップデートページからジョブを作成する方法 (ブラウザインタフェース)	92
▼ 実行中のジョブを追跡する方法 (ブラウザインタフェース)	93
▼ 完了したジョブをアーカイブする方法 (ブラウザインタフェース)	93
▼ ジョブのステータスを表示する方法 (ブラウザインタフェース)	94
▼ 保留中のジョブをキャンセルする方法 (ブラウザインタフェース)	94

6 Sun Update Connection プロキシの設定	95
Sun Update Connection プロキシの設定 (作業マップ)	95
Sun Update Connection プロキシの設定	96
Sun Update Connection プロキシが含まれるようにアップデート管理環境を設定する	97
設定の要件	97
コマンド行インタフェースを用いた Sun Update Connection プロキシの設定	98
▼ Sun Update Connection プロキシを初期設定する方法 (コマンド行)	98
A Sun Update Connection System のナビゲーション	105
概要ページ	105
システムの表	106
アップデートの表	107
ジョブの表	107
システムページ	108
システム	110
システム - 有効なアップデート	111
システム - すべてのジョブ	111
システム - インストール済みアップデート	112
データ列	113
アップデートページ	116
アップデート	117
アップデート - 関連システム	117
依存パッチと確認	118
アップデートのインストールが予定されたジョブの確認	118
データ列	118
ジョブページ	120
データ列	122
用語集	127
索引	131

はじめに

Sun Update Connection System 1.0.8 管理ガイドでは、SunSM Update Connection System の目的と機能について説明します。このソフトウェアには、Sun Update Connection Hosted Web アプリケーションの Sun Update Connection System Update Manager クライアントソフトウェア (以降「Update Manager」とする) と Sun Update Connection プロキシが含まれています。このマニュアルでは、これらすべての機能について説明します。

また、Sun Update Connection System ソフトウェアのインストール、登録、および使用方法についても説明します。Sun Update Connection System には、SolarisTM オペレーティングシステム上でアップデートを管理するための強固なパッチとアップデートツールが統合されています。

注 - Sun Update Connection System ソフトウェアとこのマニュアルでは、「パッチ」と「アップデート」という用語は、同じ意味で使用しています。

内容の紹介

このマニュアルは、6つの章、1つの付録、および用語集で構成されています。

第1章では、アップデート管理環境で Sun Update Connection System の使用を開始する方法を説明します。また、Solaris アップデートの概要やこのリリースの主な機能、およびアップデートを適用する前に知っておくべき概念についても説明します。

第2章では、Sun Update Manager クライアントソフトウェアのインストールおよびアンインストールの方法について説明します。また、Sun Update Connection System プロキシソフトウェアのインストール方法についても説明します。

第3章では、システムを登録して、Sun Update Connection System の機能を活用する方法について説明します。

第4章では、Sun Update Manager アプリケーションを用いてアップデートを管理する方法について説明します。

第5章では、Sun Update Connection Hosted Web アプリケーションを使用して、1つまたは複数のシステムでアップデートをリモート管理する方法について説明します。

第6章では、イントラネット上の Sun Update Connection プロキシ(「ローカルパッチサーバー」とも呼ばれる)の設定および使用方法について説明します。

付録 A では、ブラウザインタフェースと、インタフェースのナビゲート方法について説明します。

用語集は、このマニュアルで使用されている用語とその定義集です。

関連マニュアル

『Solaris 10 リファレンスマニュアル』には、`smpatch` コマンド、`sconadm` コマンド、および `patchsvr` コマンドに関する情報が記載されています。このマニュアル内の `smpatch(1M)` のマニュアルページ、`sconadm(1M)` のマニュアルページ、および `patchsvr(1M)` のマニュアルページを参照してください。

マニュアル、サポート、およびトレーニング

Sun のサービス	URL	内容
マニュアル	http://jp.sun.com/documentation/	PDF 文書および HTML 文書をダウンロードできます。
サポートおよびトレーニング	http://jp.sun.com/supporttraining/	技術サポート、パッチのダウンロード、および Sun のトレーニングコース情報を提供します。

表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用します。

表 P-1 表記上の規則

字体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	<code>.login</code> ファイルを編集します。 <code>ls -a</code> を使用してすべてのファイルを表示します。 <code>system%</code>
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	<code>system% su</code> <code>password:</code>

表 P-1 表記上の規則 (続き)

字体または記号	意味	例
<i>AaBbCc123</i>	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、 <code>rm filename</code> と入力します。
『』	参照する書名を示します。	『コードマネージャ・ユーザーズガイド』を参照してください。
「」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第5章「衝突の回避」を参照してください。 この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	<code>sun% grep '^#define \ XV_VERSION_STRING'</code>

コード例は次のように表示されます。

- C シェル

```
machine_name% command y|n [filename]
```

- C シェルのスーパーユーザー

```
machine_name# command y|n [filename]
```

- Bourne シェルおよび Korn シェル

```
$ command y|n [filename]
```

- Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザー

```
# command y|n [filename]
```

[] は省略可能な項目を示します。上記の例は、*filename* は省略してもよいことを示しています。

| は区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します (例: Shift キーを押します)。ただし、キーボードによっては Enter キーが Return キーの動作をします。

ダッシュ (-) は 2 つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、Ctrl-D は Control キーを押したまま D キーを押すことを意味します。

Sun Update Connection System の概要

SunSM Update Manager ソフトウェアは、システムアップデートのローカル管理を可能にする Sun Update Connection System ソフトウェアの一部です。このマニュアルでは、Sun Update Connection System Update Manager を Update Manager と称します。

この章の内容は次のとおりです。

- 11 ページの「初めて Sun Update Connection System を使用する場合」
- 15 ページの「Solaris アップデート管理の概要」
- 22 ページの「Sun Update Connection System の機能」
- 28 ページの「Update Manager の概念」

注 - Sun Update Connection System ソフトウェアとこのマニュアルでは、パッチとアップデートという用語を、同じ意味で使用しています。

初めて Sun Update Connection System を使用する場合

注 - Sun Update Connection System に精通しているユーザーが、Update Manager クライアントソフトウェアをインストールする場合は、[第 2 章](#)に進んでください。

Sun Update Connection System には、システムアップデートの管理用に 3 つのユーザーインタフェースが備わっています。Update Manager の 2 つのユーザーインタフェースのどちらかを使用して、システムアップデートをローカル管理できます。1 つは Sun Update Manager グラフィカルユーザーインタフェースで、もう 1 つは `smpatch` コマンド行インタフェースです。Sun Update Connection Hosted Web アプリケーションを使用して、使用しているシステム上の 1 つまたは複数のアップデートをリモート管理することもできます。

ここでは、次の項目について説明します。

- 12 ページの「導入プロセスの概要」

- 13 ページの「Update Manager のユーザーインターフェースの比較」

導入プロセスの概要

Update Manager または Sun Update Connection Hosted Web アプリケーションを用いてシステム上でアップデートを管理するには、まず、どのようなアップデート管理戦略を使用するかを決定します。

1. Solaris™ 10 システムに Sun Update Manager アプリケーションをインストールして起動します。
2. 次のうちから、自分のアップデート管理環境を最もよく表す状況を見つけてください。

- クライアントシステムがインターネットに直接接続されている。
この場合はすぐにシステムの登録プロセスを開始できます。
- クライアントシステムがネットワークプロキシを使用して、インターネットに接続されている。

この場合は、システムの登録プロセス中に、ネットワークプロキシのホスト名とポートを指定する必要があります。また必要に応じて、ネットワークプロキシのユーザー名とパスワードを指定します。

- 複数のクライアントシステムが、イントラネット上の Sun Update Connection プロキシからアップデートを取得できるように設定したい。

まず、システムが Sun Update Connection プロキシとして動作するように設定します。95 ページの「Sun Update Connection プロキシの設定 (作業マップ)」を参照してください。次に、登録プロセス中にプロキシからアップデートを取得するようにクライアントシステムを設定します。

3. 使用している Solaris システムを Update Manager に登録します。

登録プロセス中に、Sun オンラインアカウントを入力するように指示するメッセージが表示されます。Java Developer ConnectionSM、Online Support Center (OSC)、My Sun、SunSolveSM、Sun Store などのプログラムにアカウントが登録されている場合は、Sun オンラインアカウントがすでに付与されている場合があります。

自分の登録レベルおよびサブスクリプションに基づいて、アップデートを管理する際の方針を決定します。

- 未登録のシステム。smpatch add コマンドおよび smpatch remove コマンドを使用して、手動で Solaris セキュリティーアップデートをシステム上でローカルに取得し、管理します。
- サブスクリプションなしで登録されたシステム。Update Manager を使用して、Solaris セキュリティーアップデートのみをローカルで管理します。
- サブスクリプションで登録されたシステム、**Sun Update Connection System** で管理しているシステム。Sun Update Connection Hosted Web アプリケーションを使用して、すべての Solaris アップデートをリモート管理できます。サブスクリプション

は Sun Service Plan の一部です。Update Manager の GUI または `smpatch` コマンドを使用してアップデートをローカルで管理することは引き続き可能です。

4. Solaris システム上でアップデートを管理します。

Update Manager のユーザーインタフェースの比較

次の表に、GUI、コマンド行インタフェース (`smpatch`)、Sun Update Connection Hosted ブラウザインタフェースでサポートされる Sun Update Connection System 機能およびタスクを要約します。

表 1-1 Sun Update Connection System ユーザーインタフェースでサポートされる機能の比較

機能/タスク	グラフィカルユーザーインタフェース	コマンド行インタフェース	ブラウザインタフェース
システムにアップデートを適用できるか。	はい	はい	はい
リモートシステムでアップデート管理操作が可能か。	はい。リモートシステムで GUI を起動してローカルのシステムに表示することができます。 また、Sun Update Connection Hosted Web アプリケーションを使用して、システムをリモート管理することもできます。	はい。ただし、リモートモードの <code>smpatch</code> のみ。ローカルモードの <code>smpatch</code> はローカルシステムのみで実行できます。	はい
アップデートのためにシステムを分析できるか。	はい	はい	はい
システム上で予定されているアップデート分析を実行できるか。	はい	はい。cron を使用して <code>smpatch analyze</code> コマンドを実行します。	はい

表 1-1 Sun Update Connection System ユーザーインターフェースでサポートされる機能の比較
(続き)

機能/タスク	グラフィカルユーザーインターフェース	コマンド行インタフェース	ブラウザインタフェース
アップデートを個別にダウンロードできるか。	いいえ。 Download Only とマーク付けされているアップデートのみがダウンロードできます。このダウンロードは Sun Update Connection System にはインストールできません。	はい	いいえ。 Download Only とマーク付けされているアップデートのみがダウンロードできます。このダウンロードは Sun Update Connection System にはインストールできません。
アップデートの依存性を解決できるか。	はい	状況による。 smpatch add の場合は、アップデートの依存性は解決されません。ただし、smpatch update または smpatch analyze -i update-id の場合は、アップデートの依存性が解決されます。	はい
複数のアップデートを一度に削除できるか。	はい	いいえ。smpatch remove では、一度に1つのアップデートしか削除できません。	はい
システムがシングルユーザーモードのときに実行できるか。	いいえ	はい。ローカルモードの smpatch のみで、限られた操作を実行できます。	いいえ
Sun Update Connection プロキシからアップデートにアクセスできるか。	はい	はい	該当しない
アップデートリストで操作できるか。	いいえ	はい	いいえ
システムのアップデート管理環境を設定できるか。	はい	はい	はい
RBAC をサポートするか。	いいえ	はい	いいえ

Solaris アップデート管理の概要

アップデートの管理には、システムへの Solaris のアップデート (「パッチ」ともいう) の「適用」が含まれます。また、不要なアップデートや不完全なアップデートの削除なども含まれます。アップデートの削除は、アップデートの「バックアウト」ともいいます。

ここでは、次の項目について説明します。

- 15 ページの「アップデートの種類」
- 16 ページの「Solaris のアップデートへのアクセス」
- 17 ページの「Solaris のアップデートを管理するツール」

ディスクレスクライアントシステムにパッチを適用する方法については、『Solaris のシステム管理 (基本編)』の「ディスクレスクライアント OS サービスにパッチを適用する」を参照してください。

Solaris アップデートを使用する際に推奨する戦略および運用については、<http://docs.sun.com/app/docs/coll/1078.1> の『Solaris Patch Management Recommended Strategies』を参照してください。

アップデートの種類

「アップデート」とは、既存のソフトウェアの正しい実行を妨げている既存のファイルやディレクトリを置き換えたり更新したりする一連のファイルおよびディレクトリを指します。アップデートによって、システムに新しい機能が導入される場合もあります。このようなアップデートを、「機能アップデート」と呼びます。既存のソフトウェアは、アプリケーションバイナリインタフェース (ABI) に準拠する指定の「パッケージ」フォーマットに基づいています。

アップデートは、Update Manager アプリケーション、`smpatch` コマンドまたは `patchadd` コマンドを使用して Solaris システム上で管理することができます。

注 - システム上でアップデートを管理する際には、Update Manager GUI、`smpatch` コマンドおよび `patchadd` コマンドを同時に使用しないでください。Update Manager GUI の稼働中は、`smpatch` や `patchadd` で行なった変更内容が Update Manager で正しく反映されない場合があります。

署名付きアップデートと署名なしアップデート

「署名付きアップデート」とは、「デジタル署名」が適用されるアップデートを指します。検証済みのデジタル署名が付いたアップデートは、署名が適用されてからは変更されていません。署名付きアップデートのデジタル署名は、アップデートがシステムに「ダウンロード」されたあとに検証されます。

Solaris リリースのアップデートとパッチは、署名付きアップデートとしても、署名なしアップデートとしても利用できます。「署名なしアップデート」にはデジタル署名は付いていません。

署名付きアップデートは、Java™ アーカイブ形式 (JAR) ファイルに保存されており、Sun アップデートサーバーから入手できます。署名なしアップデートはディレクトリ形式で保存されており、同様に Sun アップデートサーバーから .zip ファイルとして入手できます。

Solaris のアップデートへのアクセス

Sun のユーザーは、SunSpectrumSM プログラムを利用しているかどうかにかかわらず、Sun アップデートサーバーからアップデートやパッチにアクセスできます。これらのアップデートやパッチは、毎日夜にアップデートされます。

Solaris のアップデートは、次の方法で取得できます。

- <http://sunsolve.sun.com> Web サイトからアクセスする
Sun Patch ポータルからアップデートにアクセスするには、システムがインターネットに接続されており、MozillaTM ソフトウェアなどの Web ブラウザソフトを実行できる必要があります。
- 第 4 章に取り上げられている Update Manager ツールを使用する
- 第 5 章に取り上げられている Sun Update Connection Hosted Web アプリケーションを使用する

アップデートクラスタから個々のアップデート、またはアップデートのセットにアクセスしたり、アップデートレポートを参照したりすることができます。Update Manager でシステムを「分析」して、必要なパッチを判断することもできます。また Update Manager では、アップデートをシステムにダウンロードして適用することもできます。

各アップデートには、アップデートに関する情報を記載した README ファイルが備わっています。Update Manager GUI から、各 README ファイルを表示、印刷、保存できます。

Solaris のアップデートのナンバリング

アップデートは、固有のアップデート ID によって識別されます。「アップデート ID」は、英数字の文字列で、アップデートのベースコードとリビジョン番号がハイフンでつながった形になっています。たとえば、118822-02 というアップデートは、SunOSTM 5.10 カーネルアップデートのアップデート ID です。

Solaris のアップデートを管理するツール

次のツールを使用して、アップデートを Solaris システムに適用できます。

- Sun Update Connection System ツール
 - Update Manager グラフィカルユーザーインターフェース (GUI)
 - Sun Update Connection Hosted Web アプリケーション
 - Update Manager コマンド行インターフェース (smpatch)
- patchadd コマンド
- Solaris Management Console (smc) のパッチツール (GUI、Solaris 9 以降)

ディスクレスクライアントシステムにパッチを適用する必要がある場合は、『Solaris のシステム管理 (基本編)』を参照してください。

Update Manager アプリケーションは、Sun Update Connection System ソフトウェア製品の一部です。Sun Update Connection Hosted Web アプリケーションも、このソフトウェア製品の一部です。

次の表は、さまざまな Solaris アップデート管理ツールの可用性を示したものです。

表 1-2 Solaris アップデート管理ツールの可用性

ツールの可用性	Update Manager および Sun Patch Manager 2.0	Sun Update Connection System	patchadd/patchrm コマンド	Solaris 2.6 および Solaris 7 のパッチ管理ツール
入手方法	Solaris 10 の場合 - Update Manager 機能アップデートを適用。 Solaris 8 または Solaris 9 の場合 - Sun Download Center Web サイトから、適切なバージョンの Patch Manager をダウンロード。	Sun Update Connection System Web サイトからツールを実行。	Solaris リリースに付属。	Sun Download Center からダウンロード。
利用可能な Solaris リリース	Solaris 10 の場合 - Update Manager。 Solaris 8 および Solaris 9 の場合 - Sun Patch Manager 2.0。	Solaris 10	Solaris 2.6、Solaris 7、Solaris 8、および Solaris 9 リリース	Solaris 2.6 および Solaris 7 リリース

表 1-2 Solaris アップデート管理ツールの可用性 (続き)

ツールの可用性	Update Manager および Sun Patch Manager 2.0	Sun Update Connection System	patchadd/patchrm コマンド	Solaris 2.6 および Solaris 7 のパッチ管理ツール
署名付きアップデートの適用	可。署名付きアップデートはダウンロード時に自動的に検証されます。	可	Solaris 9 12/03 以降 - 可。署名付きアップデートは、ダウンロード時に自動的に検証されます。	可。署名付きアップデートはダウンロード時に自動的に検証されます。
署名なしアップデートの適用	Update Manager の場合 - 不可。 Sun Patch Manager 2.0 の場合 - 可。ただし最初に解凍する必要があります。	可	可	不可
GUI の使用	Solaris 10 の場合 - Update Manager が稼働中のシステムでは可。 Solaris 9 の場合 - Patch Manager (smc) が稼働中のシステムでは可。 Solaris 8 の場合 - 不可。	Sun による Web アプリケーションのホスティング。	不可	不可
システムを分析し、適切なアップデートを決定して署名付きまたは署名なしアップデートをダウンロードする	可。ただし署名付きアップデートのみ。	可	不可	可。ただし署名付きアップデートのみ。
ローカルおよびリモートシステムのアップデートサポート	ローカルおよびリモート。 Solaris 8 の場合 - ローカル。	リモート	ローカル	ローカル
RBAC サポート	Update Manager の場合 - 不可。 smpatch の場合 - 可。	適用不可	可	不可

Solaris のアップデート管理

アップデートの適用中、`patchadd` コマンドで `/var/sadm/patch/update-id/log` ファイルに情報を記録します。

次の条件に当てはまる場合は、`patchadd` コマンドではアップデートを適用できません。

- パッケージが、システムに完全にインストールされていない。
- アップデートパッケージのアーキテクチャと、システムのアーキテクチャが異なっている。
- アップデートパッケージのバージョンと、インストールされたパッケージのバージョンが一致しない。
- 同じベースコードで上位のリビジョン番号を持つアップデートがすでに適用されている。
- アップデートによって、適用済みのアップデートが「旧バージョン化」する。
- 適用対象のアップデートと、システムにすでに適用されているアップデートの間に「互換性がない」。
- 適用対象のアップデートがほかのアップデートに依存しているが、そのアップデートがまだ適用されていない。

アップデートの適用に最適な方法の選択

さまざまな方法で、1つまたは複数のアップデートをダウンロードしたり、システムに適用したりできます。次の表で、自分のニーズに最適な方法を決定してください。

注 - この表で説明されている `smpatch` コマンドのバージョンは、Solaris 8 システムから使用可能になったものです。

表 1-3 アップデート方法の比較

コマンドまたはツール	説明	参照箇所
Update Manager GUI	<p>アップデートの管理に GUI の利便性が必要な場合は、このツールを使用します。</p> <p>この GUI の機能には次のようなものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ システムを分析して適切なアップデートを決定する ■ 1つまたは複数のアップデートでシステムをアップデートする ■ アップデートを削除する ■ 適用したアップデートの一覧を表示する ■ アップデート管理の環境を設定する ■ 自分のシステムで新しいアップデートが使用可能になった場合に通知する 	第 4 章
Sun Update Connection Hosted Web アプリケーション	<p>Sun でホスティングされているこの Web アプリケーションを使用すれば、使用しているすべての Solaris 10 システムのアップデートをリモート管理できます。</p>	第 5 章
smpatch update	<p>このコマンドは、システムを分析して適切なアップデートを決定し、そのアップデートをダウンロードおよび適用する際に使用します。</p> <p>このコマンドでは、<code>interactive</code> プロパティセットを含むアップデートは適用されません。</p> <p>Solaris 8 システムで利用可能なのはローカルモードの <code>smpatch</code> のみです。</p>	smpatch(1M) のマニュアルページ

表 1-3 アップデート方法の比較 (続き)

コマンドまたはツール	説明	参照箇所
smpatch analyze および smpatch update	<p>まず、smpatch analyze を使用してシステムを分析し、適切なアップデートを決定します。そのあと、smpatch update を使用して1つまたは複数のアップデートをシステムにダウンロードおよび適用します。</p> <p>このコマンドでは、interactive プロパティセットを含むアップデートは適用されません。</p> <p>Solaris 8 システムで利用可能なのはローカルモードの smpatch のみです。</p>	smpatch(1M) のマニュアルページ
smpatch analyze、smpatch download、および smpatch add	<p>まず、smpatch analyze を使用してシステムを分析し、適切なアップデートを決定します。次に、smpatch download を使ってそれらをダウンロードします。このコマンドでは、適用対象のアップデートの前提条件となるアップデートもすべてダウンロードされます。そのあと、smpatch add を使用して、1つまたは複数のアップデートをシステムに適用します。システムはシングルユーザーモードまたはマルチユーザーモードのどちらでも有効です。</p> <p>Solaris 8 システムで利用可能なのはローカルモードの smpatch のみです。</p>	smpatch(1M) のマニュアルページ
patchadd	<p>Solaris 2.6 リリース以降 - 署名なしアップデートをシステムに適用します。</p> <p>Solaris 9 12/03 リリース以降 - このコマンドを使用して、署名付きまたは署名なしアップデートをシステムに適用します。署名付きアップデートを適用するには、まずパッケージの「キーストア」を設定する必要があります。</p>	patchadd(1M) のマニュアルページ

smpatch コマンド行インタフェースまたは Update Manager グラフィカルユーザーインタフェースを使用してアップデートを適用する場合は、11 ページの「初めて Sun Update Connection System を使用する場合」を参照して、選択した方法に関連する情報を確認してください。

Sun Update Connection System の機能

このセクションでは、Sun Update Connection System の主な機能について説明します。

- 22 ページの「Update Manager のグラフィカルユーザーインタフェース」
- 23 ページの「Sun Update Connection Hosted Web アプリケーション」
- 24 ページの「Sun Update Connection プロキシ」
- 25 ページの「PatchPro 分析エンジン」
- 26 ページの「ローカルモードのコマンド行インタフェース」
- 27 ページの「アップデートリストの操作」

Update Manager ツールを使用するには、少なくとも Solaris 10 ソフトウェアのエンドユーザーシステムサポートソフトウェアグループをインストールする必要があります。

注 - 2006 年 3 月時点では、Sun のアップデートのうち Sun Update Manager アプリケーションで適用できないアップデートがいくつかあります。そのようなアップデートには、PatchPro の規格に準拠していないアップデートや、サードパーティーによる契約の制限を受けるアップデートなどがあります。

Solaris パッチおよび Sun Patch Manager 2.0 ソフトウェアについては、docs.sun.comSM サイトの Solaris 10 System Administrator Collection の『Solaris のシステム管理 (基本編)』を参照してください。

Update Manager のグラフィカルユーザーインタフェース

Update Manager では、グラフィカルユーザーインタフェースから、アップデートを用いてシステムを更新できます。GUI を使用すると、システムを分析したり、選択したアップデートを適用したり、アップデートを削除したり、アップデート管理環境を設定したりすることができます。

2006 年 6 月時点で、Update Manager GUI には、アップデート済みの GNOME Graphics Tool Kit (GTK+) の見た目と使い心地が備わっています。最新の Update Manager には、次の新機能が備わっています。

- 「ヘルプ」プルダウンメニューには、「アイコンの説明」オプションと「バージョン情報」オプションがあります。「アイコンの説明」ダイアログボックスには、Update Manager GUI で使用されるアイコンの一覧と説明が表示されます。「バージョン情報」ダイアログボックスには、Sun Update Connection System の現行リリースに関する情報が表示されます。

- インストール済みアップデート、有効なアップデート、README ファイルの「ファイル」プルダウンメニューには、「～の印刷」および「～の保存」オプションがあります。
- 「有効なアップデート」ウィンドウおよび「インストール済みアップデート」ウィンドウは、より分かりやすいように工夫が施されています。
- 「Sun Update Connection で管理」リンクは、「Update Manager」ウィンドウの右隅にあるアップデート表の上部に表示されます。
- 状態通知アイコンなど、多くの新しいアイコンが、Update Manager に統合されています。詳細については、第4章を参照してください。

Sun Update Connection Hosted Web アプリケーション

Sun Update Connection Hosted Web アプリケーションを使用すれば、登録済みの各システムのすべてのアップデートをリモートで監視および管理できます。この Web アプリケーションは Sun によってホスティングされています。

注 - Sun Update Connection Hosted Web アプリケーションで管理しているシステムも、引き続き Update Manager を使用してリモート管理できます。このツールに表示されるアップデートデータが、遅延により同期していない場合があります。

Sun Update Connection Hosted Web アプリケーションは Sun Web サイトでホスティングされています。このツールを使用してジョブを作成し、サービスにチェックインしながら、このジョブをシステム上で実行することができます。ジョブには、アップデートをインストールするものとアンインストールするものがあります。ホスティングされている Web アプリケーションを使用して、システムやジョブのアップデートステータスを表示することもできます。

Sun Update Connection Hosted Web アプリケーションには、次の機能が備わっています。

- 登録済みシステムの自動チェックイン。登録済みの各システムが Sun Update Connection System Web サイトに「チェックイン」または接続して、待機状態になっているアップデートのインストールおよびアンインストールジョブを実行します。チェックイン間隔はシステムごとに指定できます。
- ジョブの作成。1つまたは複数のシステムに対して、アップデートをダウンロードおよびインストールする「ジョブ」を作成します。
- ジョブの監視。すべてのアップデート関連ジョブの進捗状況を表示します。
- ジョブの管理。保留中のジョブのキャンセルや、完了したジョブのアーカイブ、および再起動が必要なアップデートのインストールを行うためのシステムの再起動のスケジューリングを行います。

Sun Update Connection Hosted Web アプリケーションの詳細については、第5章を参照してください。

Sun Update Connection プロキシ

「Sun Update Connection プロキシ」は、以前「ローカルパッチサーバー」と呼ばれていました。

このプロキシは、Sun Update Connection System ソフトウェアおよび Sun Patch Manager 2.0 ソフトウェアを使用するクライアントシステムをサポートします。Sun Update Connection System クライアントシステムには、Sun Patch Manager 2.0 に関連する古いバージョンのローカルパッチサーバーの機能との互換性はありません。

注 - Sun Update Connection プロキシはオプション機能で、Sun Service Plan に加入していれば、無料で取得できます。Sun Service Plan の取得方法については、Solaris オペレーティングシステムソフトウェアサポート

(<http://www.sun.com/service/support/software/solaris/>) にアクセスし、必要なレベルのサービスを選択します。

Solaris 8 オペレーティングシステム以降は、クライアントシステムからアップデートおよびアップデートデータにアクセスし、「アップデートの分析」や保守を行うことができます。アップデートデータはアップデートソースから提供されます。アップデートソースは、Sun アップデートサーバーや Sun Update Connection プロキシなどの「アップデートサーバー」（ローカルパッチサーバーともいう）の場合と、アップデートのローカルコレクションの場合があります。

イントラネット上の Sun Update Connection プロキシを使用してローカルシステムにアップデートを供給すれば、使用しているシステムと Sun アップデートサーバーの間のインターネットトラフィックを最小限に抑えることができます。このプロキシは、アップデートソースからダウンロードしたすべてのアップデートを「キャッシュ」します。

イントラネット上にこのタイプのプロキシを設定する方法については、98 ページの「コマンド行インタフェースを用いた Sun Update Connection プロキシの設定」を参照してください。

Sun Update Connection プロキシは、要求を受けるたびにアップデートソースからアップデートを取得します。アップデートを使用するまでは、そのアップデートをプロキシに保存しておく必要はありません。

Sun Update Connection プロキシとして動作させるシステムは、少なくとも、Solaris 10 が稼働しており、開発者システムサポートソフトウェアグループがインストールされている必要があります。さらに、Update Manager ソフトウェアがインストールされている必要もあります。

Sun Update Connection プロキシの利点

Sun Update Connection プロキシを使用することにより、セキュリティー上の問題、システム分析、アップデートダウンロード性能に関する問題が解決します。

たとえば、クライアントシステムを Sun Update Connection プロキシに接続してローカル管理すれば、クライアントシステムをインターネットに接続する必要がありません。さらに、これらのクライアントシステムを Update Manager ソフトウェアに登録する必要もありません。

別の例としては、このタイプのプロキシを使用することにより、アップデートに関連したパフォーマンスの問題が改善されます。Sun アップデートサーバーから各システムにアップデートやメタデータをダウンロードする代わりに、Sun Update Connection プロキシにアップデートを1度だけダウンロードするだけで済みます。アップデートデータをこのサーバーに格納すれば、アップデートデータはインターネットではなく、イントラネット経由でシステムへ転送され、分析されます。

イントラネット上に Sun Update Connection System プロキシの連鎖を設定できます。プロキシの連鎖の最後のリンクは、Sun アップデートサーバーまたはアップデートのローカルコレクションに指定できます。このプロキシの連鎖を使用することにより、システムからの主要な Sun Update Connection プロキシに対するアップデートのダウンロード要求は、連鎖内の別のプロキシに転送され、要求が実行されます。システムの主要な Sun Update Connection プロキシがアップデートを検出できない場合は、連鎖内の次のプロキシに対して同じ要求を行い、そのプロキシにアップデートが保存されているかどうかを確認します。アップデートが見つければ、システムにそのアップデートがダウンロードされます。アップデートが見つからない場合、アップデートが見つかるか、連鎖内の最後のプロキシに到達するまで、要求は連鎖内で次々と実行されます。

たとえば、Sun アップデートサーバーから直接アップデートを取得する Sun Update Connection プロキシが社内に設置されていると仮定します。社内の各部署には、会社のプロキシからアップデートを取得する Sun Update Connection プロキシが設置されています。

連鎖内の各 Sun Update Connection プロキシには、ダウンロード要求に基づいて、連鎖内の別のプロキシで検出されたアップデートが保存されます。したがって、クライアントのプロキシ上で最初に見つからなかったアップデートは、まずその Sun Update Connection プロキシにダウンロードおよび保存され、そのあとでクライアントシステムにダウンロードされます。プロキシの連鎖内には多数のシステムがあるため、システムを1つ進むごとに、クライアントシステムへのアップデートのダウンロードにかかる時間が長くなる場合があります。したがって、クライアントシステムで初めてダウンロードを要求すると、アップデートはインターネット経由でプロキシシステムにダウンロードされます。そのあとアップデートを要求すると、プロキシシステムからイントラネット経由でクライアントシステムへアップデートがダウンロードされます。

PatchPro 分析エンジン

Update Manager には、「PatchPro」の機能が備わっています。PatchPro はシステム上でアップデートの分析を行い、その結果必要なアップデートをダウンロードおよび適用します。これまで、この自動処理機能は Solaris 2.6、Solaris 7、Solaris 8、および Solaris 9 で別個の PatchPro 製品として、また、Sun Patch Manager 2.0 製品で使用可能でした。現在、PatchPro 機能は Update Manager ソフトウェアの一部になっています。

PatchPro は署名付きのアップデートを使用するため、Solaris のアップデートが変更されていないことを確認することによってアップデートの安全性が向上します。

注 - Update Manager には移行目的で `pprosetup` コマンドと `pprosv` コマンドが付属しています。しかし、これらのコマンドはできるだけ使用せず、代わりに `smpatch` コマンドを使用するようにしてください。

ローカルモードのコマンド行インタフェース

注 - Solaris 8 システムでは、`smpatch` をローカルモードでしか実行できません。

Solaris 9 以降では、`smpatch` コマンドをローカルモードとリモートモードの 2 つのモードで利用できます。「ローカルモード」は、ローカルシステム上でのみ実行できます。システムがシングルユーザーモードとマルチユーザーモードのいずれの場合でも実行できます。「リモートモード」を使用すると、リモートシステム上で処理を実行できます。ローカルモード、リモートモードのどちらも、適切な承認を持つユーザーまたは役割以外は使用できません。

デフォルトでは、`smpatch` はローカルモードで実行されます。ローカルモードでは Solaris WBEM サービスが使用されません。また、認証オプションも、リモートシステムを参照するオプションも使用できません。`smpatch` コマンドの実行速度は、リモートモードよりもローカルモードの場合のほうが高速です。

ユーザーが `-L` 以外のリモートオプションまたは認証オプションを指定した場合、リモートモードが使用されます。

ローカルモードでのシングルユーザーモードの操作

ローカルモードで `smpatch add` コマンドを使用すると、システムがシングルユーザーモードで動作しているときでも、アップデートを適用できます。この方法でアップデートを適用できるのは、該当するアップデートが `singleuser` アップデートプロパティと関連している場合か、稼働していないシステムにアップデートを適用する場合です。

システムがシングルユーザーモードの場合、アップデートの管理には、`smpatch add`、`smpatch order`、および `smpatch remove` コマンドのみを使用します。

シングルユーザーモードで動作するシステム上でアップデート管理環境を設定するには、コマンド `smpatch get`、`smpatch set`、`smpatch unset` を使用します。

シングルユーザーモードで動作するシステム上では、コマンド `smpatch analyze`、`smpatch download`、および `smpatch update` を使用しないでください。これらのコマンドが依存するネットワークサービスは、システムがシングルユーザーモードで動作している間は利用できません。

「アップデートの適用ポリシー」と一致しないアップデートは、システムに自動的に適用されません。このようなアップデートは、シングルユーザーモードで手動で適用する必要があります。

適用後すぐに再起動、または再構成のための再起動を行う必要のあるアップデートは、すぐには適用されません。このようなアップデートは、予定されたシステムシャットダウンの間に自動的に適用されます。

smpatch ライブアップグレードサポート機能

この新機能により、従来、システムを再起動してシングルユーザーモードに切り換えなければならなかったアップデートを区別する必要がなくなり、すべてのアップデートをマルチユーザーモードでインストールできるようになります。

ライブアップグレードサポートを有効にするには、`-b boot-env` オプションを指定して、`smpatch add`、`smpatch remove`、または `smpatch update` コマンドを実行します (`-b` はブート環境、値 `boot-env` は特定のブート環境名)。コマンドは、次のような構文になります。

```
smpatch -add -b boot-env
```

注-指定したブート環境に、現在のブート環境がコピーされます。選択したアップデートが指定のブート環境に適用されます。指定のブート環境が有効になり、リブートすると、現在のブート環境ではなく、新しくアップデートされたブート環境が実行されます。

オプションを指定して `smpatch` コマンドを実行すると、都合の良い時間にシステムの再起動を促すメッセージがコマンド行に表示されます。



注意-同じブート環境を指定して `smpatch` コマンドを再び実行すると、それ以前に実行したコマンドによる変更は無効になります。システムには最新の更新が適用されます。`smpatch -update` コマンドの場合は、完全なアップデートセットがインストールされるため、この問題は起こりません。

アップデートリストの操作

`smpatch` コマンドで、アップデートの「順序付け」リストを作成できます。このリストはテキストファイルで保存し、それを使用してアップデート操作を行うことができます。

「アップデートリスト」を使用すれば、ハードウェアとソフトウェアの設定が同じシステムに対して、同じアップデートのセットを適用できます。また、関連するすべてのセキュリティアップデートを含むアップデートリストファイルを作成し、そのリストを使用して1つまたは複数のシステムにセキュリティアップデートを適用することもできます。

アップデートの順序付けリストを含むファイルを作成するには、次のいずれかの方法で `smpatch` コマンドを実行します。

- システムの分析を実行する。 `smpatch analyze` コマンドを使用してシステムを分析し、アップデートの順序付けリストを生成してファイルに書き込みます。このファイルを編集して、不要なアップデートを削除することもできます。
- 特定のアップデートのリストを供給する。 `smpatch analyze` コマンドを使用し、特定のシステムに指定したアップデートのセットに基づいて、アップデートの順序付けリストを生成します。アップデートリストを「解決」するため、アップデートが依存しているアップデートがリストに追加されます。
- システムに保存されているアップデートのコレクションを指定する。 `smpatch order` コマンドを使用して、システムに保存されているアップデートのコレクションに基づき、アップデートの順序付けリストを作成します。

アップデートリストを変更したときに、そのアップデートがシステムで使用できる場合は、 `smpatch order` コマンドを使用すると、適切な適用順にアップデートが一覧されたリストを作成できます。アップデートが使用できない場合は、 `smpatch analyze` コマンドを使用すると、アップデートの順序付けリストを作成できます。



注意 - `smpatch add` コマンドを実行すると、アップデートの適用ポリシーやアップデートの依存性にかかわらず、アップデートリスト内のすべてのアップデートを適用しようとします。

アップデート一覧は、コマンド `smpatch add`、`smpatch analyze`、`smpatch download`、`smpatch order`、および `smpatch update` への入力として使用できます。

Update Manager の概念

Update Manager ソフトウェアを使用するには、次の概念をよく理解している必要があります。

- 28 ページの「Update Manager ツール」
- 29 ページの「Update Manager の登録」
- 31 ページの「アップデート管理のプロセス」
- 34 ページの「アップデートのソースの指定」
- 35 ページの「アップデート適用ポリシーのカスタマイズ」
- 36 ページの「Update Manager の設定プロパティの設定」

Solaris パッチおよび Sun Patch Manager 2.0 ソフトウェアに関する情報は、docs.sun.com サイトの Solaris 10 System Administrator Collection の『Solaris のシステム管理 (基本編)』に記載されています。

Update Manager ツール

Update Manager は、Solaris 10 システムのアップデートを管理するためのツールです。Update Manager では、以前の Sun Patch Manager 2.0 ソフトウェアで使用できた機能をさらに拡張しています。この新機能は、「Sun オンラインアカウント」を持ち、使用しているシステムを Sun に「登録」している場合のみ利用できます。

注 - `smpatch add` コマンドと `smpatch remove` コマンドを使用すれば、いつでも Sun から手動でダウンロードしたアップデートを管理することができます。この方法で管理するシステムは、登録の必要はありません。ただし、`smpatch analyze`、`smpatch download`、または `smpatch update` コマンドを使用する場合は、システムを登録する必要があります。

Update Manager の登録

Update Manager に登録したシステムだけが、Update Manager の機能を使用し、Sun Update Connection Hosted Web アプリケーションでリモート管理を行うことができます。

システムの登録方法については、47 ページの「システムを登録する方法」を参照してください。「サブスクリプションキー」の入手方法については、52 ページの「Sun サブスクリプションキーを取得する方法」を参照してください。

注 - Sun Update Connection プロキシのクライアントであるシステムをイントラネット上でローカル管理している場合は、そのクライアントシステムを登録する必要はありません。プロキシとして動作するシステムは、登録する必要があります。ただし、クライアントシステムが Sun Update Connection Hosted Web アプリケーションによってリモートでも管理されている場合は、そのクライアントシステムも登録する必要があります。

ソフトウェアサポートを含む Sun Service Plan に加入している場合は、次の操作を行うことができます。

- Update Manager アプリケーションを使用して、ローカルでアップデートを管理する
- Sun Update Connection Hosted Web アプリケーションを使用して、リモートでアップデートを管理する
- Sun アップデートサーバーにアクセスして、手動でアップデートを管理する
- `smpatch` コマンドを使用してアップデートを管理する

Solaris Service Plans の詳細は、<http://www.sun.com/service/solaris10/> Web サイトにアクセスしてください。

登録サービスのレベル

Update Manager を使用するには、本ソフトウェアをインストールしたシステムを登録する必要があります。登録と権限のレベルは、次の3つから選択できます。各レベルについては以降のセクションで説明します。

- サブスクリプションなしの登録
- サブスクリプション付きの登録
- サブスクリプション付きの登録、Sun Update Connection System で管理

注-未登録のシステムでは、セキュリティアップデートのみにアクセスできます。未登録のシステムでアップデートを管理するには、`smpatch add` コマンドおよび `smpatch remove` コマンドを使用します。

サブスクリプションなしの登録

システムの基本情報を Sun へ送信しているが、アップデート管理のサブスクリプションは購入していない状態です。このサービスレベルでは、Update Manager を使用してアップデートをローカル管理できます。管理には次のような操作が含まれます。

- インストール済みアップデートの一覧を表示する
- システム上のセキュリティアップデートを管理する
- 適切なアップデートを取得するためにシステムを分析する
- 適切なアップデートをインストールおよびアンインストールする
- アップデートの依存性を解決する
- アップデートのダウンロードおよびインストールのステータスを監視する
- システムに適合した新しいアップデートが使用可能になったときに通知を受信する

注-アップデート管理環境に Sun Update Connection プロキシが含まれており、システムがそのプロキシのクライアントである場合は、クライアントシステムを登録しなくても、Update Manager ソフトウェアを使用できます。ただし、プロキシとして動作させるシステムは登録する必要があります。

サブスクリプション付きの登録

システムの情報を Sun へ送信し、アップデート管理のサブスクリプションを購入した状態です。このサービスレベルでは、以前の(基本)サービスレベルで使用できた機能が拡張されています。Update Manager を使用して次の作業を実行できます。

- システムにあるすべての Solaris アップデートを管理する
- 自動ダウンロードおよびインストールを行うアップデートを選択する
- すべてのアップデート依存性に関する通知を受け取る
- Sun Update Connection Hosted Web アプリケーションでシステムをリモート管理するかどうかを決定する

注-アップデート管理環境に Sun Update Connection プロキシが含まれており、システムがそのプロキシのクライアントである場合は、クライアントシステムを登録しなくても、Update Manager ソフトウェアを使用できます。プロキシとして動作させるシステムは登録する必要があります。ただし、Sun Update Connection Hosted Web アプリケーションを使用してクライアントシステムをリモート管理する場合は、システムを登録する必要があります。

サブスクリプション付きの登録、Sun Update Connection System で管理

システム情報を送信して、サブスクリプションを購入し、Sun Update Connection Hosted Web アプリケーションを使用してアップデートをリモート管理することを意味します。このサービスレベルでは、以前の (中間) サービスレベルで使用できた機能が拡張されています。Sun Update Connection Hosted Web アプリケーションを使用して、次の作業を実行できます。

- すべての管理対象システムに関する情報を表示する
- すべてのアップデート管理アクティビティを示すレポートを表示する
- Sun でホスティングされている Web アプリケーションを使用して、システムのアップデートをリモート管理する
- システムのチェックイン時間を制御してアップデートの管理を自動で行う

アップデート管理のプロセス

Update Manager を使用すると、「**アップデート管理プロセス**」を実行することができます。これには次の作業が含まれます。

- システムを分析して適切なアップデートの一覧を取得する
- 適切なアップデートをシステムにダウンロードする
- 適切なアップデートをシステムに適用する
- システムのアップデート管理環境を設定する
- システムのアップデート管理環境を調整する
- システムからアップデートを削除する
- Sun Update Connection Hosted Web アプリケーションを使用して、システムをリモート管理する

Solaris アップデートを使用する際に推奨する戦略および運用については、<http://docs.sun.com/app/docs/coll/1078.1> の『Solaris Patch Management Recommended Strategies』を参照してください。

アップデートが正常に適用されると、ダウンロードしたアップデートは「**ダウンロードしたディレクトリ**」から削除されます。

システムに適用されるアップデートは、指定したポリシー、およびダウンロードしたアップデートに関連するアップデートプロパティによって異なります。

アップデート適用のポリシーに一致しないアップデートがあると、そのアップデートはすぐには適用されません。このようなアップデートは、予定されたシステムシャットダウンの間に適用されます。Update Manager では、これらのアップデートを「再起動が必要」なアップデートとして表示します。

interactive プロパティセットを含むアップデートについては、そのアップデートの README ファイルの指示に従って手動で適用してください。Update Manager では、これらのアップデートを「ダウンロードのみ」のアップデートとして表示します。

システムの分析

アップデートをシステムに適用する前に、必要なアップデートを決定します。Update Manager を使用してシステムのアップデート分析を行い、適切なアップデートの一覧を取得できます。

Update Manager では、分析モジュールおよび有効なアップデートの一覧を使用して Solaris システムの分析を行います。アップデートソースについては、[34 ページの「アップデートのソースの指定」](#)を参照してください。

分析結果に基づいて、適切なアップデートがシステムにダウンロードおよび適用されます。

場合により、あるアップデートが、別のアップデートを適用しないとシステムに適用できないことがあります。このことを、前者のアップデートが後者のアップデートに依存しているといいます。Update Manager でシステムを分析すると、Update Manager はアップデートの依存性をチェックして、自動的にすべてのアップデートを結果一覧に出力します。

注-分析によって生成されたアップデートの一覧は、Sun アップデートサーバーから取得した、すべての有効なアップデートに基づいています。ホストシステムまたはそのネットワーク構成に関する明示的な情報は、米国 Sun Microsystems 社またはその関係会社には送信されません。Sun のアップデートセットに必要な要求のみが転送されます。アップデートセットでホストシステムに適したアップデートをスキャンし、その結果が表示されます。必要に応じて、表示されたアップデートをダウンロードします。

システムへのアップデートのダウンロード

アップデートをシステムに適用する前に、Sun アップデートサーバーからアップデートをダウンロードする必要があります。

システム分析に基づいて Sun アップデートサーバーからアップデートをダウンロードすることも、特定のアップデートをダウンロード対象に指定することもできます。

Update Manager アプリケーションは、ダウンロード操作とインストール操作を結びつけて行います。したがって、アップデートのインストールを要求すると、アップデートはまずシステムにダウンロードされ、そのあとインストールされます。

「ダウンロードのみ」のマークが付いた一部のアップデートは、Update Manager アプリケーションではインストールできません。「ダウンロードのみ」のアップデートのインストールを要求すると、そのアップデートはシステムにダウンロードされますが、インストールはされません。アップデートをインストールするには、アップデートの README ファイルのインストール手順に従う必要があります。

システムへのアップデートの適用

Update Manager を使用してシステムにアップデートを適用できます。

`smpatch add` コマンドを使用して特定のアップデートを適用すると、指定のアップデートのみが適用されます。`smpatch add` コマンドでは、「**アップデートの依存性**」は解決されません。適用しようとしたアップデートが依存するアップデートが存在しない場合、アップデートは適用されません。アップデートの依存性の問題を解決するには、`smpatch analyze` コマンドまたは `smpatch update` コマンドを使用します。

Update Manager GUI を使用して、アップデートの一覧から選択したアップデートを適用すると、それぞれのアップデートが(必要に応じて)ダウンロードされてから適用されます。

一覧になっているアップデートをインストールしようとする、Update Manager ではまず分析を行い、依存性のあるアップデートをインストールする必要があるかどうかを判断します。

システムからのアップデートの削除

システムに適用されていたアップデートを削除(またはバックアウト)します。Update Manager では、アップデートを削除することができます。



注意 - Update Manager が正常に動作しなくなるため、Update Manager 機能アップデートはシステムから削除しないでください。

アップデートを削除すると、そのアップデートによって変更されていたファイルが Solaris アップデートツールによってすべて復元されます。ただし次の条件に一致する場合を除きます。

- アップデートが `patchadd -d` コマンドを使用して適用されている場合。このコマンドは `patchadd` コマンドに、アップデートまたは置換されるファイルのコピーを保存しないように指示します。
- `-d` オプションが指定されていない `patchadd` コマンドによってアップデートが適用され、それによって生成されたバックアウトファイルが削除されている場合。
- アップデートが、より新しいアップデートによって古くなっている場合。
- アップデートが別のアップデートのために必要である場合。

アップデートの削除処理の間、`patchrm` コマンドによって、`/tmp/backoutlog.process-id` ファイルに、バックアウトプロセスのログが記録されます。アップデートが正常に削除されると、このログファイルは自動的に削除されます。

Update Manager GUI を使用して、適用したアップデートの一覧から1つまたは複数のアップデートを選択して削除することができます。ただし、`smpatch remove` コマンドで一度に削除できるアップデートは1つだけです。

注-ほかのアップデートが依存するアップデートを削除しようとしても、削除されません。これに依存するアップデートをすべて削除すれば、そのアップデートを削除できます。

ほかのアップデートが依存しているアップデートを削除しようとする、そのアップデートと同時に削除する必要のあるアップデートの一覧が表示されます。最初に選択したアップデートを削除するには、これらのアップデートの削除に同意する必要があります。

Sun Update Connection Hosted Web アプリケーションを使用したシステムの管理

登録プロセス中または登録完了後に、Sun Update Connection Hosted Web アプリケーションを使用して Solaris 10 システムを管理するよう要求できます。このホスティングされている Web アプリケーションを使用すれば、システム上のすべてのアップデートを管理できます。詳細については、第 5 章を参照してください。

Sun Update Connection Hosted Web アプリケーションでシステムを管理している場合も、引き続き、Update Manager を使用してローカルのシステムのアップデートを管理できます。

アップデートのソースの指定

Update Manager を使用する場合は、クライアントシステムと Sun Update Connection プロキシから Solaris アップデートおよびアップデートデータにアクセスするようにしてください。クライアントシステムでもプロキシでも、次のソースからアップデートを取得することができます。

- アップデートサーバー。Solaris のアップデートおよびアップデートデータへのアクセスを提供するサーバー。イントラネット上の Sun Update Connection プロキシ、またはインターネットからアクセス可能な Sun アップデートサーバーをアップデートサーバーとして指定できます。
- アップデートのローカルコレクション。ローカルシステムで使用可能なディレクトリに保存されているアップデートおよびアップデートデータのコレクション。このディレクトリには、ローカルディレクトリや共有ネットワークディレクトリ、ローカルシステムにマウントされた CD などがあります。

クライアントシステムおよび Sun Update Connection System プロキシのアップデートのデフォルトソースは Sun アップデートサーバーです。したがって、Sun アップデートサーバーからアップデートを取得するクライアントシステムや Sun Update Connection プロキシは、直接または「ネットワークプロキシ」経由のいずれかでインターネットに接続します。

Sun Update Connection System プロキシと別のアップデートソースを組み合わせることによって、このようなアップデート管理の環境を設定することができます。

クライアントがアクセスするアップデートおよびアップデートデータのソースは次のとおりです。

- **Sun アップデートサーバー**。この設定では、クライアントシステムが直接またはネットワークプロキシ経由でインターネットに接続している必要があります。このようなクライアントシステムは、Update Manager で登録する必要があります。
- イン트라ネット上の **Sun Update Connection** プロキシ (**Sun** アップデートサーバーを経由)。この設定では、Sun Update Connection プロキシのみが、直接またはネットワークプロキシ経由でインターネットに接続している必要があります。プロキシとして動作するシステムは Update Manager で登録する必要がありますが、プロキシのクライアントシステムを登録する必要はありません。
- ローカルシステム上のアップデートのコレクションこの設定を使用する場合は、クライアントシステムをインターネットに接続する環境は必要ありません。これらのクライアントシステムも、Update Manager で登録する必要はありません。
- **Sun Update Connection** プロキシ (ローカルシステム上のアップデートのコレクション経由)。この設定を使用する場合は、クライアントシステムと Sun Update Connection プロキシをインターネットに接続する必要はありません。また、プロキシとして動作するシステムおよびクライアントシステムも、Update Manager で登録する必要はありません。

クライアントシステムのアップデートソースを指定する方法については、58 ページの「[アップデートソースを指定する方法 \(GUI\)](#)」を参照してください。

プロキシのアップデートソースを指定する方法については、102 ページの「[Sun Update Connection プロキシの設定を変更する方法 \(コマンド行\)](#)」を参照してください。

アップデート適用ポリシーのカスタマイズ

Update Manager は、次の種類のアップデートをシステムに適用します。

- すぐに適用され、システムの再起動も必要としない標準のアップデート
- システムの再起動を必要とするアップデート
- 手動で適用する必要のあるアップデート

標準のアップデートには、standard アップデートプロパティが関連付けられています。「再起動が必要」とマーク付けされているアップデートには、rebootafter、reconfigafter、rebootimmediate、reconfigimmediate、およびsingleuser アップデートプロパティが関連付けられています。「ダウンロードのみ」とマーク付けされているアップデートには、interactive アップデートプロパティが関連付けられています。「ダウンロードのみ」アップデートは、システムにダウンロードされるだけなので、アップデートの README ファイルに記載されている手順に従って、手動で適用する必要があります。

smpatch update コマンドを使用してシステムをアップデートすると、アップデート適用ポリシーをカスタマイズすることができます。

このポリシーの詳細については、smpatch(1M) のマニュアルページを参照してください。

Update Manager の設定プロパティの設定

smpatch set コマンドでは、次のパラメータでアップデート管理環境を設定します。

注-patchpro.patchset 以外のパラメータは、Update Manager GUI で「ファイル」メニューから「設定」を選択し、適切な値を指定する方法でも変更できます。

- patchpro.patchset - 使用するアップデートセットの名前。デフォルト名は current です。
「コレクションの表示」メニューからアップデートのセットを選択します。
- patchpro.download.directory - ダウンロードしたアップデートの保存先ディレクトリのパス。このディレクトリからアップデートが適用されます。デフォルトのパスは /var/sadm/spool です。
- patchpro.backout.directory - アップデート「バックアウトデータ」の保存先ディレクトリのパス。アップデートを削除すると、このディレクトリからもデータが取得されます。バックアウトデータはデフォルトで、パッケージのディレクトリ内に保存されます。
- patchpro.patch.source - アップデートコレクションを指す URL。デフォルトの URL は Sun アップデートサーバー (<https://getupdates.sun.com/solaris/>) です。
- patchpro.proxy.host - ネットワークプロキシのホスト名。デフォルトでは、インターネットへの直接接続が前提となっているため、ネットワークプロキシは指定されていません。
- patchpro.proxy.port - ネットワークプロキシが使用するポート番号。デフォルトでは、インターネットへの直接接続が前提となっているため、ネットワークプロキシは指定されていません。デフォルトのポートは 8080 です。
- patchpro.proxy.user - ネットワークプロキシが認証に使用するユーザー名。
- patchpro.proxy.passwd - ネットワークプロキシが認証に使用するパスワード。
- patchpro.install.types - アップデートを適用する際のポリシー。この値には、アップデート操作 (smpatch update) によって適用することが許可されている 0 または 1 つ以上のアップデートプロパティが、コロンで区切られて一覧表示されます。
 - デフォルトでは、smpatch update コマンドによって、standard、rebootafter、および reconfigafter プロパティを持つアップデートが適用されます。35 ページの「[アップデート適用ポリシーのカスタマイズ](#)」を参照してください。
 - Update Manager GUI では常に、standard プロパティを持つアップデートが適用されます。このポリシーは変更できません。

Sun Update Connection System ソフトウェアのインストール

この章では、Solaris システムへの Sun Update Connection System ソフトウェアのインストール方法について説明します。Update Manager クライアントソフトウェアや任意の Sun Update Connection プロキシソフトウェアなどをインストールできます。また、Update Manager クライアントソフトウェアをアンインストールする方法についても説明します。

Update Manager クライアントソフトウェアをインストールする作業は、導入プロセスの一部に当たります。全体的なプロセスの概要については、12 ページの「導入プロセスの概要」を参照してください。

この章で説明する内容は次のとおりです。

- 37 ページの「Sun Update Connection System ソフトウェアのインストール (作業マップ)」
- 42 ページの「Update Manager クライアントソフトウェアのアンインストール (作業マップ)」

Sun Update Connection System ソフトウェアのインストール (作業マップ)

Sun Update Connection System ソフトウェアは、Solaris 10 オペレーティングシステムを実行するシステムでサポートされます。

Update Manager ツールを使用するには、最低でも、Solaris 10 ソフトウェアの End User Software Group をインストールする必要があります。また、/var 用のディスク容量として、160M バイトの空き容量が必要です。

システムに初期の Solaris 10 リリースがインストールされている場合は、Update Manager クライアントソフトウェアをインストールする必要があります。Solaris 10 ソフトウェアの以降のリリースには、Update Manager クライアントソフトウェアが含まれています。

次の表は、使用しているシステムへの Sun Update Connection System ソフトウェアのインストール方法を示したものです。

作業	説明	参照先
(省略可能) Update Manager クライアントソフトウェアをインストールする。	Update Manager クライアントソフトウェアは、次のいずれかの方法によってインストールできます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ <code>smpatch update</code> コマンドを使用して、Update Manager 機能アップデートをインストールする。 ■ Sun Download Center から Sun Update Connection System ソフトウェアをダウンロードし、インストールスクリプトを実行して Update Manager クライアントソフトウェアをインストールする。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 38 ページの「Update Manager の機能アップデートをインストールする方法」 ■ 39 ページの「Update Manager クライアントソフトウェアをインストールする方法」
(省略可能) Sun Update Connection プロキシソフトウェアをインストールする。	<code>smpatch update</code> コマンドを使用して、プロキシの機能アップデートをインストールできます。	40 ページの「Sun Update Connection プロキシ機能アップデートをインストールする方法」
(省略可能) プレビューリリース版から Sun Update Connection System Release 1.0.8 へアップグレードする。	Update Manager のプレビューリリース版から Sun Update Connection System 1.0.8 にアップグレードします。	41 ページの「プレビューリリース版から Sun Update Connection System Release 1.0.8 にアップデートする方法」

▼ Update Manager の機能アップデートをインストールする方法

使用しているシステムで、最低でも Solaris 10 オペレーティングシステムのエンドユーザーシステムサポートソフトウェアグループが稼動していることを確認します。



注意 - ソフトウェアは Sun から取得する必要があるため、Update Manager の機能アップデートをインストールするには、まずシステムをインターネットに接続する必要があります。

- 1 使用しているシステムに該当する Update Manager の機能アップデートを特定します。機能アップデートは、使用している Solaris システムのプラットフォームのタイプに基づいて選択してください。
 - SPARC の場合: アップデート 121118 の最新リビジョン
 - x86 の場合: アップデート 121119 の最新リビジョン
- 2 スーパーユーザーになります。

- 3 `smpatch update` コマンドを使用すると、使用しているシステムに該当する機能アップデートが自動的にダウンロードされ、適用されます。

たとえば、次のコマンドを使用した場合、Update Manager の機能アップデートは SPARC ベースのシステムに適用されます。

```
# smpatch update -i 121118
```

`smpatch update` コマンドに `-i` オプションを付けてアップデートを指定すると、そのアップデートの最新バージョンがインストールされます。

処理が完了したら GUI にアクセスして、アップデート管理環境の設定とシステム登録を行う必要があります。54 ページの「Update Manager GUI にアクセスする」を参照してください。

▼ Update Manager クライアントソフトウェアをインストールする方法

使用しているシステムで、最低でも Solaris 10 オペレーティングシステムのエンドユーザーシステムサポートソフトウェアグループが稼動していることを確認します。



注意-ソフトウェアは Sun から取得する必要があるため、Sun Update Manager クライアントソフトウェアをインストールするには、まずシステムをインターネットに接続する必要があります。

- 1 Sun Download Center には、<http://www.sun.com/download> からアクセスできます。
 - a. 「Downloads A-Z」タブをクリックします。
 - b. 「Sun Update Connection System 1.0.8」をクリックします。
 - c. 「Download」をクリックすると、ダウンロードの処理が始まります。
ダウンロード処理で表示される手順に従って操作してください。
 - d. システムのローカルディレクトリに、ソフトウェアをダウンロードします。

注-patchadd のバグ 6188748 があるため、NFS からはディレクトリをマウントしないでください。

ソフトウェアは、使用している Solaris システムのプラットフォームのタイプに基づいて選択してください。

- SPARC の場合: updateConnection-sparc.zip
- x86 の場合: updateConnection-i386.zip

- 2 スーパーユーザーになります。

- 3 ファイルをダウンロードしたディレクトリに移動します。
たとえば、/tmp にファイルをダウンロードした場合は、/tmp に移動します。
- 4 ダウンロードしたファイルを解凍します。
 - SPARC ベースのシステムの場合は、次のように入力します。

`unzip updateConnection-sparc.zip`
 - x86 ベースのシステムの場合は、次のように入力します。

`unzip updateConnection-i386.zip`
- 5 **Sun Update Connection System 1.0.8 機能アップデートをインストールします。Update Manager クライアントソフトウェアが含まれています。**

`./updateConnection/installUpdateConnection`

処理が完了したら GUI にアクセスして、アップデート管理環境の設定とシステム登録を行う必要があります。54 ページの「Update Manager GUI にアクセスする」を参照してください。

▼ Sun Update Connection プロキシ 機能アップデートをインストールする方法



注意 - ソフトウェアは Sun から取得する必要があるため、プロキシソフトウェアをインストールするには、まずシステムをインターネットに接続する必要があります。

使用しているシステムで、最低でも Solaris 10 オペレーティングシステムのエンドユーザーシステムサポートソフトウェアグループが稼動していることを確認します。

注 - Sun Update Connection プロキシはオプション機能で、Sun Service Plan に加入していれば、無料で取得できます。Sun Service Plan の取得方法については、Solaris オペレーティングシステムソフトウェアサポート (<http://www.sun.com/service/support/software/solaris/>) にアクセスし、必要なレベルのサービスを選択します。

- 1 使用しているシステムに該当する Sun Update Connection プロキシの機能アップデートを特定します。
機能アップデートは、使用している Solaris システムのプラットフォームのタイプに基づいて選択してください。
 - SPARC の場合: アップデート 119788 の最新リビジョン
 - x86 の場合: アップデート 119789 の最新リビジョン

- 2 スーパーユーザーになります。
- 3 `smpatch` コマンドを使用して、使用しているシステムに該当する機能アップデートを適用します。

`smpatch update` コマンドを使用すると、機能アップデートは自動的にシステムにダウンロードされて適用されます。

たとえば、次のコマンドを使用した場合、プロキシの機能アップデートは x86 ベースのシステムに適用されます。

```
# smpatch update -i 119789
```

`smpatch update` コマンドに `-i` オプションを付けてアップデートを指定すると、そのアップデートの最新バージョンがインストールされます。

処理が完了したら、プロキシを設定する必要があります。95 ページの「[Sun Update Connection プロキシの設定\(作業マップ\)](#)」を参照してください。

▼ プレビューリリース版から Sun Update Connection System Release 1.0.8 にアップデートする方法

Sun Update Connection System ソフトウェアのプレビューリリース版がインストールされている場合は、プレビューリリース版のプロモーション期間の終了後、Sun Update Connection System ソフトウェアにアップグレードする必要があります。このアップグレードを実行するには、Sun Update Connection System 1.0.8 の新しい機能アップデートをインストールします。プレビューリリース版を使用している場合、この機能アップデートは、Sun Update Connection System のユーザーインターフェースに有効なアップデートとして表示されます。38 ページの「[Update Manager の機能アップデートをインストールする方法](#)」を参照してください。

Sun Update Connection プロキシも設定している場合は、プロキシシステム上のソフトウェアをアップグレードする必要があります。この場合、Sun Update Connection System の機能アップデートおよびプロキシソフトウェアの機能アップデートの両方をインストールする必要があります。プロキシの機能アップデートは、Sun とサポートサービス契約を結んでいる場合に限り、システムで利用できるアップデートのリストに表示されません。40 ページの「[Sun Update Connection プロキシ機能アップデートをインストールする方法](#)」を参照してください。

- ▶ 使用しているシステムに該当する機能アップデートをインストールします。
このソフトウェアの機能アップデートの ID は、次のとおりです。
 - 121118-07: Sun Update Connection System 1.0.8 (SPARC)
 - 121119-07: Sun Update Connection System 1.0.8 (x86)
 - 119788-07: Sun Update Connection プロキシ (SPARC)
 - 119789-07: Sun Update Connection プロキシ (x86)

Update Manager クライアントソフトウェアのアンインストール(作業マップ)

次の表は、使用しているシステムから Update Manager クライアントソフトウェアをアンインストールする方法を示したものです。

作業	説明	参照先
(省略可能) Update Manager クライアントソフトウェアをアンインストールする。	patchrm コマンドを使用して、Update Manager クライアントソフトウェアをアンインストールします。	42 ページの「Update Manager クライアントソフトウェアをアンインストールする方法」
(省略可能) Update Manager クライアントエージェントを停止して無効化する。	システムから Update Manager クライアントソフトウェアをアンインストールするには、その前に、使用しているシステムのクライアントエージェントを停止します。	43 ページの「Update Manager クライアントエージェントソフトウェアを停止して無効化する方法」

▼ Update Manager クライアントソフトウェアをアンインストールする方法

Update Manager クライアントソフトウェアをアンインストールする前に、Update Manager アプリケーションおよび smpatch コマンドが実行されていないことを確認します。

- 1 スーパーユーザーになります。
- 2 (省略可能) Sun Update Connection プロキシソフトウェアがインストールされている場合は、プロキシソフトウェアの prebackout ロックファイルを削除し、patchrm を使用してアップデートを削除します。

- SPARC ベースのシステムの場合は、次のように入力してください。

```
# rm /var/sadm/patch/119788-07/prebackout
# patchrm 119788-07
```

- x86 ベースのシステムの場合は、次のように入力してください。

```
# rm /var/sadm/patch/119789-07/prebackout
# patchrm 119789-07
```

- 3 Sun Update Connection System ソフトウェアの prebackout ロックファイルを削除します。

- SPARC ベースのシステムの場合は、次のように入力します。

```
# rm /var/sadm/patch/121118-07/prebackout
```

- x86 ベースのシステムの場合は、次のように入力します。

```
# rm /var/sadm/patch/121119-07/prebackout
```

- 4 (省略可能) patchrm -R コマンドを使用して、ディスククライアントにある **Update Manager** の機能アップデートをアンインストールするには、まずディスククライアントにログインし、**Sun Update Manager** クライアントエージェントを停止して無効化する必要があります。

```
# /usr/lib/cc-cfw/framework/lib/cc-client-adm stop  
# /usr/lib/cc-cfw/framework/lib/cc-client-adm disable
```

- 5 patchrm コマンドを使用して、**Update Manager** の機能アップデートを削除します。

- SPARC ベースのシステムの場合は、次のように入力します。

```
# patchrm 121118-07# patchrm 119574-02
```

- x86 ベースのシステムの場合は、次のように入力します。

```
# patchrm 121119-07  
# patchrm 119575-02
```

▼ **Update Manager** クライアントエージェントソフトウェアを停止して無効化する方法

このエージェントは、Update Manager ソフトウェアをインストールするときに同時にインストールされます。Update Manager の登録ウィザードでシステムを登録すると、エージェントが有効になります。

ほとんどの場合、pkgrm コマンドを使用すれば、安全にエージェントを無効化することができます。そのあと、SUNWccinv パッケージを削除します。ただし、ディスククライアントまたはシステムのクラスタにこのパッケージをインストールしている場合は、手でエージェントを無効化してから、SUNWccinv パッケージを削除する必要があります。

- 1 スーパーユーザーになります。
- 2 インベントリエージェントを停止し、無効化します。

```
# /usr/lib/cc-cfw/framework/lib/cc-client-adm stop  
# /usr/lib/cc-cfw/framework/lib/cc-client-adm disable
```


Update Manager によるシステムの登録

この章では、Update Manager を使用してシステムを登録したり、登録ウィザードからの別の作業を実行したりする方法について説明します。sconadm コマンドを使用してコマンド行から登録することもできます。sconadm(1M) のマニュアルページを参照してください。

Update Manager によるシステムの登録 (作業マップ)

Update Manager を使用してシステムを登録すると、Update Manager を使用して Solaris 10 システムのセキュリティーアップデートを管理できるようになります。登録は無料で、システムの基本的な情報を Sun に送信するだけで完了します。登録処理は、初めて Update Manager GUI にアクセスすると開始されます。

sconadm コマンドを使用してコマンド行から登録することもできます。sconadm(1M) のマニュアルページを参照してください。

各種の登録レベルについては、29 ページの「Update Manager の登録」を参照してください。

次の表に、Update Manager 登録ウィザードを使用する場合に実行できる作業を示します。

作業	説明	参照先
(省略可能) Update Manager を使用してシステムを登録する。	システムが Sun アップデートサーバーからアップデートやアップデートデータを取得したり、Sun Update Connection Hosted Web アプリケーションを使用してシステムをリモート管理する場合は、Update Manager でシステムを登録する必要があります。	47 ページの「システムを登録する方法」
(省略可能) Sun サブスクリプションキーを取得する。	<p>セキュリティ関連以外のアップデートを使用する場合や、Sun Update Connection Hosted Web アプリケーションを使用してシステムをリモート管理する場合は、Sun サブスクリプションキーでシステムを登録する必要があります。</p> <p>サブスクリプションキーは、ソフトウェアサポートのユーザーであれば利用できます。</p>	52 ページの「Sun サブスクリプションキーを取得する方法」
(省略可能) 登録後に、使用するネットワークプロキシを指定する。	<p>ネットワークプロキシ経由でシステムをインターネットに接続する場合、Sun アップデートサーバーへのアクセスに使用するネットワークプロキシを指定する必要があります。</p> <p>デフォルトでは、ネットワークプロキシは指定されていません。</p>	47 ページの「システムを登録する方法」の手順 5
(省略可能) 登録後に、システムが取得するアップデートのローカルソースを指定する。	<p>使用しているシステムで、Sun Update Connection プロキシやローカルシステム上のアップデートコレクションなどのローカルソースからアップデートを取得したい場合があります。</p> <p>システムがインターネットに接続していない場合は、ローカルのアップデートソースを指定する必要があります。</p> <p>デフォルトでは、システムは Sun からアップデートを取得します。</p>	47 ページの「システムを登録する方法」の手順 4

▼ システムを登録する方法

注-システムを登録するには、インターネット接続が必要です。Java Developer Connection、OSC、MySun、SunSolve、および SunStore などのプログラムでアカウントを登録した場合、すでに Sun オンラインアカウントを所有している可能性があります。

各種の登録レベルについては、29 ページの「Update Manager の登録」を参照してください。

sconadm コマンドを使用してコマンド行から登録することもできます。sconadm(1M) のマニュアルページを参照してください。

1 Update Manager アプリケーションを起動します。

- GNOME ユーザーの場合、次のいずれかの方法で Update Manager アプリケーションを起動します。
 - GNOME パネルの通知領域で、Update Manager の通知アイコンをクリックします。このアイコンは、疑問符の付いた青い円形です。このアイコンは、システムが登録されていないことを示しています。この方法では、ソフトウェアをインストールしてもすぐには起動しません。GNOME デスクトップからログアウトして、ログインし直す必要があります。
 - Sun Java Desktop System の「起動」メニューから「アプリケーション」を選択します。
 - 「アプリケーション」メニューから「ユーティリティ」を選択します。次に、「ユーティリティ」メニューから「Update Manager」を選択します。
 - シェルプロンプトで、`/usr/bin/updatesnap` コマンドを実行します。
- CDE ユーザーの場合、次のいずれかの方法で Update Manager アプリケーションを起動します。
 - 「アプリケーションマネージャ」ウィンドウで、Update Manager アイコンをダブルクリックします。
 - シェルプロンプトで、`/usr/bin/updatesnap` コマンドを実行します。「認証が必要です」ダイアログボックスが表示されます。

2 Update Manager GUI にログインします。

この操作中に Update Manager アプリケーションを終了するには、「キャンセル」をクリックします。

- a. 権限を持つユーザーのユーザー名を指定して「OK」をクリックします。デフォルトで、ユーザー名は root です。
 - 「認証が必要です」ダイアログボックスが表示されます。

- b. 権限を持つユーザーのパスワードを指定して「OK」をクリックします。
Update Manager 登録ウィザードが表示されます。

3 「ようこそ」画面で、**Update Manager** を使用してシステムでアップデートを管理する方法を指定します。

Update Manager を使用すると、アップデートはシステムで自動的に管理されますが、ユーザーが手動でアップデートを管理することもできます。

- Update Manager GUI または `smpatch CLI` を使用してシステムのアップデートを管理するには、「登録してアップデートを管理」をクリックします。
「Sun オンラインアカウント」画面が表示されます。
- Sun アップデートサーバーからアップデートをダウンロードし、`smpatch add` コマンドおよび `smpatch remove` コマンドを使用してアップデートを管理するには、「手動でアップデートを適用」をクリックします。
「完了」をクリックして、登録ウィザードを終了します。
これで、アップデートをシステム上で手動で管理できます。 `smpatch add` コマンドおよび `smpatch remove` コマンドを使用してアップデートを管理する方法については、`smpatch(1M)` のマニュアルページを参照してください。

4 (省略可能) システムがインターネットに接続されていない場合は、アップデートのローカルソースを指定します。

Update Manager アプリケーションを使用して、アップデート用にこのローカルソースを指定する方法については、58 ページの「[アップデートソースを指定する方法 \(GUI\)](#)」を参照してください。

- a. 「ローカルソースからアップデートを取得するようにシステムを設定」をクリックします。
「アップデートにローカルソースを使用」画面が表示されます。
- b. 「ローカルソースからアップデートを取得するようにシステムを設定」をクリックします (**Sun Update Connection** プロキシ)。

c. パッチソース URL のフィールドに、ローカルのアップデートソースの URL を入力します。

Sun Update Connection プロキシ URL は、次の形式です。

```
http://server-name:3816/solaris/
```

- d. 「完了」をクリックすると、これらのアップデートソースの値が設定され、「Sun オンラインアカウント」画面に戻ります。
設定したアップデートソース値の登録情報を破棄するには、「キャンセル」をクリックします。次に「登録を中止」をクリックすると、「Sun オンラインアカウント」画面に戻ります。

- 5 (省略可能) インターネットに接続する際にシステムが使用するネットワークプロキシを指定します。

Update Manager アプリケーションを使用してこのネットワークプロキシ情報を指定する方法については、57 ページの「ネットワークプロキシを指定する方法 (GUI)」を参照してください。

システムが直接インターネットに接続されている場合は、ネットワークプロキシ情報を指定する必要はありません。

- a. 「ネットワークプロキシの設定」をクリックします。
「ネットワークプロキシの設定」画面が表示されます。
- b. 「ネットワークプロキシを有効にしますか?」をクリックします。
- c. 「プロキシのホスト名」フィールドにプロキシのホスト名を入力します。
- d. 「プロキシのポート」フィールドにプロキシのポート番号を入力します。
- e. (省略可能) プロキシの認証にユーザー名とパスワードが必要な場合は、「プロキシ認証を使用」をクリックして、次の手順に従います。
 - i. 「プロキシのユーザー名」フィールドにプロキシユーザー名を入力します。
 - ii. 「プロキシのパスワード」フィールドにプロキシユーザーのパスワードを入力します。
 - iii. これらのネットワークプロキシの値を設定してダイアログボックスを閉じるには、「OK」をクリックします。
設定したこれらのネットワークプロキシの値を破棄してダイアログボックスを閉じるには、「キャンセル」をクリックします。
- f. **Sun** オンラインアカウントを指定します。
 - すでに **Sun** オンラインアカウントを取得している場合は、**Sun** オンラインアカウントのユーザー名とパスワードを入力してログインし、「次へ」をクリックして、手順 8 へ進みます。
「利用規約とソフトウェアライセンス」画面が表示されます。
 - ユーザー名またはパスワードを忘れた場合は、「ユーザー名またはパスワードを忘れた場合」をクリックします。
Sun オンラインアカウント情報を取得したら、登録処理を再度開始します。
 - **Sun** オンラインアカウントを取得していない場合は、アカウントを登録します。

6 (省略可能) 「Sun オンラインアカウントの作成」をクリックします。

「Sun オンラインアカウントの作成」画面が表示されます。このページには Sun プライバシーポリシーが表示されており、また、Sun オンラインアカウントの取得に必要な情報を入力するテキストフィールドがあります。

a. Sun プライバシーポリシーの内容を確認します。

b. 登録フォームにアカウント情報を入力して、「次へ」をクリックします。

無効な情報が入力されている場合、訂正を指示するダイアログボックスが表示されません。

「Sun オンラインアカウントの作成」 ページの 2 ページ目が表示されます。

c. 2 ページ目の登録フォームを入力して「次へ」をクリックします。

ここでは、会社名、国名または地域名、および Sun との通信に使用する言語を入力する必要があります。このフォームのほかの値は省略可能です。

「利用規約とソフトウェアライセンス」画面が表示されます。

7 (省略可能) すべてのアップデートにアクセスするか、セキュリティアップデートのみにアクセスするかを決定します。

■ すべてのアップデートにアクセスする場合は、「キー」フィールドにサブスクリプションキーを指定します。

サポートの契約番号が、サブスクリプションキーになっている場合があります。サブスクリプションキーを取得していない場合は、次のいずれかのソフトウェアサポートプランに登録してください。

■ Solaris 10 サービスプランの詳細について

は、<http://www.sun.com/service/solaris10/> にアクセスしてください。

■ 一般的な Solaris サポートプランの詳細について

は、<http://www.sun.com/service/support/software/solaris/> にアクセスしてください。

■ セキュリティアップデートのみにアクセスする場合は、「Sun サブスクリプションキーを入力せずに続行」または「後で入力します」をクリックします。

サブスクリプションキーを指定すると、いつでもすべての Solaris アップデートにアクセスできます。59 ページの「サブスクリプションキーを指定する方法 (GUI)」を参照してください。

8 利用規約とソフトウェアライセンスの内容を確認します。

■ 同意する場合は、「契約に同意する」をクリックし、「次へ」をクリックします。

■ サブスクリプションキーを指定した場合は、「リモートソフトウェアのアップデートサービス」画面が表示されます。この画面から、Sun Update Connection System と Update Manager のデモを実行できます。

- サブスクリプションキーを指定しなかった場合は、「システムの登録」画面が表示されます。手順 11 に進みます。
 - 同意しない場合は、「キャンセル」をクリックして登録ウィザードを終了します。利用規約とソフトウェアライセンスに同意しない場合は、Update Manager ソフトウェアを使用できません。
- 9 システムでアップデートをリモートで管理するのか、ローカルで管理するのかを決定します。
- アップデートをリモート管理する場合は、「**Sun Update Connection System** を使ってシステムデータを送信して、リモートアップデート管理を有効にします」をクリックします。
アップデートをリモート管理することを選択した場合でも、Update Manager を使用してシステムのアップデートをローカル管理することもできます。
「送信されるデータ内容」をクリックすると、Sun に送信されるシステム情報を確認できます。
Sun Update Connection Hosted Web アプリケーションを使用したシステムアップデートのリモート管理の詳細は、第 5 章を参照してください。
 - アップデートをローカル管理する場合は、「ローカルアップデート管理を有効にします」をクリックします。
「送信されるデータ内容」をクリックすると、Sun に送信されるシステム情報を確認できます。
- 10 「完了」をクリックするとシステムの登録が完了し、システムの情報が Sun へ送信されます。
入力した登録情報を破棄して登録ウィザードを閉じるには、「キャンセル」をクリックします。
「登録の確認」画面が表示されます。この画面から Sun Update Connection Hosted Web アプリケーションにアクセスできます。
- 11 「閉じる」をクリックして、登録ウィザードを閉じます。
「チェック中」ダイアログボックスに、システムのアップデート分析の進行状況が表示されます。
Update Manager アプリケーションの「有効なアップデート」画面に、システムにインストールできるアップデートが一覧表示されます。

注-クライアントシステムが正しく登録されていない場合は、インストールアプリケーションを実行すると、エラーメッセージが表示される場合があります。エラーを解消するには、登録プロセスを最初からやり直してください。

▼ Sun サブスクリプションキーを取得する方法

すべての Solaris アップデートにアクセスするには、Sun サブスクリプションキーを取得する必要があります。サブスクリプションキーがない場合は、セキュリティーアップデートしか表示できません。サブスクリプションキーは、Sun Update Connection Hosted Web アプリケーションを使用する際にも必要です。

サブスクリプションキーは、次のいずれかの Sun サービスに加入すると取得できます。

- ソフトウェアサポートサービスプラン
 - Solaris 10 サービスプラン
 - SunSpectrum Support サービス契約
- ▶ Sun サブスクリプションキーを取得していない場合は、次のいずれかのソフトウェアサポートプランに登録してください。
- Solaris 10 サービスプランの詳細については、<http://www.sun.com/service/solaris10/>にアクセスしてください。
 - 一般的な Solaris サポートプランの詳細については、<http://www.sun.com/service/support/software/solaris/> にアクセスしてください。

Update Manager GUI を使用した Solaris アップデートの管理

この章では、Update Manager GUI を使用したアップデートの管理方法について説明します。

注 - このタスクは、`smpatch` コマンドを使用して実行することもできます。`smpatch(1M)` のマニュアルページを参照してください。

この章で説明する内容は次のとおりです。

- 53 ページの「Update Manager GUI を使用した Solaris アップデートの管理 (作業マップ)」
- 54 ページの「Update Manager GUI にアクセスする」
- 56 ページの「GUI を使用してアップデート管理環境を設定する (作業マップ)」
- 61 ページの「GUI を使用したアップデートの管理 (作業マップ)」
- 66 ページの「GUI を使用してアップデート管理環境を調整する (作業マップ)」

Update Manager GUI を使用した Solaris アップデートの管理 (作業マップ)

次の表は Update Manager GUI を使用して実行できる作業の一覧です。

作業	説明	参照先
GUI へのアクセス	GUI を利用してアップデートを管理するには、Update Manager GUI を使用します。	54 ページの「Update Manager GUI にアクセスする」

作業	説明	参照先
システムのアップデート管理環境の設定	デフォルトでは、システムはインターネットに直接に接続されていて、Sun アップデートサーバーからアップデートを取得するように設定されていると仮定されています。 その仮定が正しくない場合は、システムの実際の環境に応じて設定を変更します。	56 ページの「GUI を使用してアップデート管理環境を設定する (作業マップ)」
システムでのアップデートの管理。	GUI を使用すると、システムの分析、1 つ以上のアップデートの適用、アップデートの依存パッチの確認、およびアップデートの削除を実行できます。	61 ページの「GUI を使用したアップデートの管理 (作業マップ)」
(省略可能) システムのアップデート管理環境の調整。	アップデートディレクトリの場所など、オプション設定を変更します。	66 ページの「GUI を使用してアップデート管理環境を調整する (作業マップ)」

Update Manager GUI にアクセスする



注意 - システム動作が不安定になる可能性があるため、Update Manager アプリケーションで、GUI とコマンド行によるアップデート処理を同時に実行することはできません。

Update Manager の進捗状況ダイアログから実行できる操作は、取り消しのみです。いったん開始した `smpatch update` の操作は、中断しないでください。必ず、この操作が完了するまで待ってから、次の操作を開始してください。

▼ Update Manager アプリケーションへのアクセス方法 (GUI)

Update Manager GUI は、GNOME デスクトップ、Sun Java Desktop System、CDE Application Manager、またはコマンド行から開始できます。

アプリケーションを初めて起動すると、Update Manager 登録ウィザードが表示されます。アップデートの管理に Update Manager を使用するには、このウィザードを使用して Solaris 10 システムを登録します。

- 1 Update Manager アプリケーションを開始します。
 - GNOME ユーザーの場合、次のいずれかの方法で Update Manager アプリケーションを起動します。

- **GNOME** パネルの通知領域で、**Update Manager** の通知アイコンをクリックします。

このアイコンは、疑問符の付いた青いアイコンです。このアイコンは、システムが登録されていないことを示しています。

この方法では、ソフトウェアをインストールしてもすぐには起動しません。**GNOME** デスクトップからログアウトして、ログインし直す必要があります。
 - **Sun Java Desktop System** の「起動」メニューから「アプリケーション」を選択します。

「アプリケーション」メニューから「ユーティリティ」を選択します。次に、「ユーティリティ」メニューから「Update Manager」を選択します。
 - シェルプロンプトで、`/usr/bin/updatesolver` コマンドを実行します。
 - **CDE** ユーザーの場合、次のいずれかの方法で **Update Manager** アプリケーションを起動します。
 - 「アプリケーションマネージャー」ウィンドウで、**Update Manager** アイコンをダブルクリックします。
 - シェルプロンプトで、`/usr/bin/updatesolver` コマンドを実行します。

「認証が必要です」ダイアログボックスが表示されます。
- 2 権限を持つユーザーのユーザー名を指定して「OK」をクリックします。
デフォルトで、ユーザー名は `root` です。
- Update Manager** アプリケーションを終了するには、「キャンセル」をクリックします。
「認証が必要です」ダイアログボックスが表示されます。
- 3 権限を持つユーザーのパスワードを指定して「OK」をクリックします。
Update Manager アプリケーションを終了するには「キャンセル」をクリックします。
- 初めて **Update Manager GUI** にアクセスすると、登録ウィザードが表示されます。このウィザードで登録プロセスを完了します。

[47 ページの「システムを登録する方法」](#) を参照してください。
 - システムの登録処理がすでに完了している場合は、**Update Manager GUI** を使用してアップデート管理環境の設定、管理、または調整を行うことができます。

[53 ページの「Update Manager GUI を使用した Solaris アップデートの管理 \(作業マップ\)」](#) を参照してください。

注 - Sun Update Connection System への登録が正しく完了したあと、GNOME デスクトップに root ユーザーとしてログインすると、Sun Update Connection System Update Manager アプリケーション (GUI) が自動的に開始されます。基本登録サービスが無効になっている場合や、ユーザーが Sun Update Connection System に登録されていない場合は、root ユーザー以外のユーザーがログインしても Update Manager は自動的に起動されません。Update Manager を起動すると、アップデートのためのシステム分析が自動的に開始されます。

GUIを使用してアップデート管理環境を設定する(作業マップ)

デフォルトで、アップデート管理環境は、Sun アップデートサーバーからアップデートが直接取得されるよう設定されています。したがって、次の少なくとも1つを実行するシステムの場合、環境をカスタマイズする必要があります。

- ネットワークプロキシによってインターネットに接続する
- ネットワークプロキシの認証で入力するユーザー名とパスワードを要求する
- Sun アップデートサーバー以外のアップデートソースからアップデートを取得する

次の表では、システムのアップデート管理環境を設定するときに実行する可能性のある作業を説明します。

smpatch コマンドを使用してアップデート管理環境を設定する方法については、smpatch(1M) のマニュアルページを参照してください。

作業	説明	参照先
(省略可能)使用するネットワークプロキシの指定。	ネットワークプロキシ経由でシステムをインターネットに接続する場合、Sun アップデートサーバーへのアクセスに使用するネットワークプロキシを指定する必要があります。 デフォルトでは、ネットワークプロキシは指定されていません。	57 ページの「ネットワークプロキシを指定する方法 (GUI)」

作業	説明	参照先
(省略可能) ネットワークプロキシの認証に必要なユーザーとパスワードの指定。	ネットワークプロキシに認証が必要な場合、認証が必要なネットワークプロキシユーザーを指定する必要があります。 デフォルトでは、ネットワークプロキシユーザーは指定されません。	57 ページの「ネットワークプロキシを指定する方法 (GUI)」
(省略可能) システムのアップデートソースの指定。	システムでは、次のソースのいずれかからアップデートを取得できます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ Sun アップデートサーバー (デフォルト) ■ イン트라ネット上のアップデートサーバー ■ ローカルシステム上のアップデートのコレクション 	58 ページの「アップデートソースを指定する方法 (GUI)」
(省略可能) Sun サブスクリプションキーの指定。	システムの登録情報にサブスクリプションキーを追加すると、システムはすべての Solaris アップデートにアクセスできるようになります。サブスクリプションがない場合は、セキュリティーアップデートのみにアクセスできます。	59 ページの「サブスクリプションキーを指定する方法 (GUI)」
(省略可能) Sun Update Connection Hosted Web アプリケーションを使用したシステム管理の有効化。	システム上のアップデートをリモート管理するには、Sun Update Connection Hosted Web アプリケーションを使用します。	60 ページの「Sun Update Connection Hosted Web アプリケーションを使用してシステムを管理する方法 (GUI)」

▼ ネットワークプロキシを指定する方法 (GUI)

ここでは、Update Manager アプリケーションからネットワークプロキシをアップデートする方法について説明します。インターネットへ接続するために、システムでネットワークプロキシが必要な場合、この手順を実行します。すでにシステムがインターネットに直接に接続されている場合、ネットワークプロキシを指定する必要はありません。

このネットワークプロキシ情報を登録ウィザードで指定する方法については、47 ページの「システムを登録する方法」の手順 5 を参照してください。

1 Update Manager GUI にアクセスします。

54 ページの「Update Manager アプリケーションへのアクセス方法 (GUI)」を参照してください。

- 2 「ファイル」メニューの「設定」を選択します。
「設定」ダイアログボックスが表示されます。
- 3 「ネットワークプロキシ」セクションで、「インターネット接続のためのプロキシの手動設定」を選択します。
- 4 「プロキシのホスト名」フィールドにネットワークプロキシのホスト名を入力します。
- 5 「プロキシのポート番号」フィールドにネットワークプロキシのポート番号を入力します。
- 6 (省略可能)プロキシの認証にユーザー名とパスワードが必要な場合は、「プロキシ認証を使用」をクリックして、次の手順に従います。
 - a. 「プロキシのユーザー名」フィールドに、ネットワークプロキシのユーザー名を入力します。
 - b. 「プロキシのパスワード」フィールドにネットワークプロキシのパスワードを入力します。
- 7 これらの値を設定してダイアログボックスを閉じるには、「OK」をクリックします。
設定した値を破棄してダイアログボックスを閉じるには、「キャンセル」をクリックします。

▼ アップデートソースを指定する方法 (GUI)

ここでは、Update Manager アプリケーションから、別のアップデートソースを指定する方法について説明します。デフォルトでは、システムは Sun からアップデートを取得します。

登録ウィザードからローカルのアップデートソースを指定する方法については、[47 ページの「システムを登録する方法」の手順4](#)を参照してください。

注-システムのアップデートソースを Sun Update Connection プロキシから Sun アップデートサーバーに変更する場合は、Update Manager にシステムを登録する必要があります。システムが登録されていない状態でこの変更を行うと、登録ウィザードが表示されます。ここでシステムの登録プロセスを完了できます。

1 Update Manager GUI へのアクセス

[54 ページの「Update Manager アプリケーションへのアクセス方法 \(GUI\)」](#)を参照してください。

- 2 「ファイル」メニューの「設定」を選択します。
「設定」ダイアログボックスの設定画面が表示されます。
- 3 「アップデートソース」セクションで、アップデートのソースを指定します。
 - Sun からアップデートを取得する場合は、「**Sun Update Connection** から」をクリックします。
デフォルトでは、Sun からアップデートを取得します。
 - 指定したアップデートソースからアップデートを取得する場合は、「ローカルソースから (**Sun Update Connection** プロキシまたは**CD**)」をクリックします。
テキストフィールドには、アップデートソースの URL を入力する必要があります。
 - イン트라ネット上の Sun Update Connection プロキシの URL は次の形式で入力します。
`http://server-name:3816/solaris/`
 - ディレクトリの場合は、次の形式の URL を入力します。
`file:/directory-name`
- 4 この値を設定してダイアログボックスを閉じるには、「**OK**」をクリックします。
設定した値を破棄してダイアログボックスを閉じるには、「キャンセル」をクリックします。

▼ サブスクリプションキーを指定する方法 (GUI)

この操作は、システムの登録を済ませてから実行してください。

セキュリティアップデートだけでなく、すべての Solaris アップデートにアクセスするには、Update Manager の登録情報に Sun サブスクリプションキーを追加します。Sun サブスクリプションキーを持っていない場合は、[52 ページの「Sun サブスクリプションキーを取得する方法」](#)を参照してください。

また登録プロセスでも、Sun サブスクリプションキーを指定できます。[47 ページの「システムを登録する方法」](#)を参照してください。

すべての有効なアップデートが、24～48時間以内に Update Manager に表示されます。Update Manager によるアップデート管理を開始するにあたり、すべてのプロセスが完了するまで24～48時間ほどかかります。Update Manager を使用しない場合は、Sun Update Connection Hosted Web アプリケーションを使用してシステムアップデートを管理してください。

1 Update Manager GUI へのアクセス

[54 ページの「Update Manager アプリケーションへのアクセス方法 \(GUI\)」](#)を参照してください。

- 2 「ファイル」メニューから「サブスクリプションの管理」を選択します。
「サブスクリプションの追加」ダイアログボックスが表示されます。
- 3 Sun オンラインアカウントの情報を入力します。
 - a. 「ユーザー名」フィールドにユーザー名を入力します。
 - b. 「パスワード」フィールドにパスワードを入力します。
- 4 「キー」フィールドにサブスクリプションキーを入力します。
- 5 変更内容を保存してダイアログボックスを閉じるには、「完了」をクリックします。
変更内容を破棄して登録ウィザードを閉じるには、「キャンセル」をクリックします。

▼ Sun Update Connection Hosted Web アプリケーションを使用してシステムを管理する方法 (GUI)

ここでは、Sun Update Connection System Web サイトからシステムを管理できるようにする方法について説明します。

- 1 Update Manager GUI にアクセスします。
54 ページの「Update Manager アプリケーションへのアクセス方法 (GUI)」を参照してください。
- 2 「Sun Update Connection で管理」をクリックします。
「ポータル管理の有効化」画面が表示されます。

注 - 「Sun Update Connection で管理」をクリックすると、「Web ブラウザを起動中」ウィンドウが表示されます。既存のウィンドウが開いている場合でも、Update Manager は新たに Web ブラウザウィンドウを起動します。

- 3 (省略可能) 「送信されるデータ内容」をクリックすると、Sun に送信されるシステム情報を確認できます。
「システムデータ」ダイアログボックスが表示されます。
「了解」をクリックして、ダイアログボックスを閉じます。
- 4 Sun オンラインアカウントに、ユーザー名とパスワードを指定します。
 - a. 「ユーザー名」フィールドにユーザー名を入力します。

- b. 「パスワード」フィールドにパスワードを入力します。
Sun オンラインアカウントのユーザー名やパスワードを忘れた場合は、「ユーザー名またはパスワードを忘れた場合」をクリックします。
- 5 「キー」フィールドに **Sun** サブスクリプションキーを指定します。
Sun サブスクリプションキーを持っていない場合に Sun Update Connection Hosted Web アプリケーションを使用する方法については、52 ページの「Sun サブスクリプションキーを取得する方法」を参照してください。
- 6 (省略可能) Sun サブスクリプションキーとして使用できるサブスクリプションキーを確認するには、「該当するキーとは」をクリックします。
- 7 「完了」をクリックします。
設定した値を破棄してダイアログボックスを閉じるには、「キャンセル」をクリックします。

GUI を使用したアップデートの管理 (作業マップ)

Update Manager GUI を使用して、次のような作業を実行できます。

- システムを分析して適切なアップデートの一覧を判断する
- アップデートでシステムを自動的にアップデートする
- システムからアップデートを削除する

上記の作業やそれ以外の作業を実行するには、コマンド行インタフェースを使用します。smpatch(1M) のマニュアルページを参照してください。

次の表では、一般的なアップデート管理タスクを説明します。

作業	説明	参照先
システムを分析してアップデートの一覧を判断する	適切なアップデートの一覧を取得するには、システムを分析する必要があります。この分析に基づいて、一覧内の1つ以上のアップデートでシステムをアップデートできます。 GUI には適切なアップデートの一覧が表示されます。分析を実行するたびに、必要な新しいアップデートが追加されて、アップデートの一覧が変更されます。	62 ページの「アップデートのためにシステムを分析して利用可能なアップデートの一覧を表示する方法 (GUI)」

作業	説明	参照先
一度の処理で1つまたは複数のアップデートを適用する	システムに適したアップデートをダウンロードして適用できます。アップデートの一覧は、Update Manager がシステムを分析して判断します。	62 ページの「システムにアップデートを適用する方法 (GUI)」
システムからアップデートを削除する	システムに適用したアップデートの削除またはバックアウトを実行できます。	65 ページの「インストールしたアップデートを表示してシステムからアップデートを削除する方法 (GUI)」

▼ アップデートのためにシステムを分析して利用可能なアップデートの一覧を表示する方法 (GUI)

システムにふさわしいアップデートを判断するため、この手順を用いて、システム分析を手動で開始します。

デフォルトでは、システムは1日に1回分析されます。自動分析機能が無効になっている場合は、この機能を有効にできます。67 ページの「毎日のアップデート分析を有効にする方法 (GUI)」を参照してください。

1 Update Manager GUI へのアクセス

54 ページの「Update Manager アプリケーションへのアクセス方法 (GUI)」を参照してください。

- 「有効なアップデート」画面で、「アップデートをチェック」をクリックします。「システムを分析」ダイアログボックスに、分析の進捗状況が表示されます。そのあと、「有効なアップデート」画面に適切なアップデートが一覧表示され、アップデートの種類に応じて並べ替えられます。Sun Update Connection System Updates は、有効なアップデートの一覧の先頭に一覧表示されます。

▼ システムにアップデートを適用する方法 (GUI)

この手順を使用し、1つまたは複数のアップデートをシステムに適用します。

インストールしたアップデートを有効にするためにシステムの再起動が必要な場合（「再起動が必要」）、アップデートのインストールは次のシステムシャットダウン時に行われます。再起動が必要なアップデートを適用するには、次のコマンドのいずれかを使用してシステムシャットダウンを開始する必要があります。

- システムの電源オフ - `init 0` または `shutdown -i 0`
- ファームウェアプロンプトへの移動 - `init 5` または `shutdown -i 5`

- システムの再起動 - `init 6` または `shutdown -i 6`

注 - `reboot` コマンド、`halt` コマンド、`uadmin` コマンドや、リセットまたは電源ボタンを使用して、シャットダウンを開始しないでください。これらの操作を行うと、必要なシャットダウン処理が省略され、アップデートはそのあとインストールされなくなります。仮に必要なシャットダウン処理を省略しても、アップデートのインストールはシステムの再起動時に行われます。

1 Update Manager GUI にアクセスします。

54 ページの「[Update Manager アプリケーションへのアクセス方法 \(GUI\)](#)」を参照してください。

2 「有効なアップデート」画面へ移動します。

この画面には、システムに適したアップデートの一覧が表示されます。

3 (省略可能) 「アップデートをチェック」をクリックして、システムのアップデート分析を実行します。

毎日のアップデート分析を無効にした場合は、この分析を行なってください。

4 インストールする1つ以上のアップデートを選択します。

インストールできるのは、チェックボックスがあるアップデートのみです。アップデートIDの横にダッシュがあるアップデートは、次に予定されているシステムシャットダウン時にインストールするように設定されています。

インストールボタンの名前は、選択したアップデートの数で変わります。たとえば、1つのアップデートを選択すると、ボタン名は「1項目を今すぐアップデート」になります。2つのアップデートを選択すると、ボタン名は「2項目を今すぐアップデート」になります。

5 「1項目を今すぐアップデート」をクリックします。

「インストール中」ダイアログボックスに、システム分析の進捗状況が表示されます。選択したアップデートが、システムにインストールされているほかのアップデートに依存するかどうかを判断するために、この分析が実行されます。このダイアログには、アップデートのダウンロードおよびインストール操作の進捗状況も表示されます。「キャンセル」をクリックすると、この操作を取り消すことができます。

「インストール概要」ダイアログボックスに、選択したアップデートのインストール状況が表示されます。緑色のチェックマークが表示されている場合は、インストールが正常に完了したことを示しています。インストールに失敗した場合は、アップデートIDの左に黄色の警告マークが表示され、アップデートIDの右に「失敗」マーク (赤い円の中に感嘆符) が表示されます。エラーメッセージには、インストールの失敗原因が表示されます。

6 「OK」をクリックすると、インストール概要ボックスが閉じます。

- 7 (省略可能)1つまたは複数の依存パッチを持つアップデートを選択した場合、それらの依存パッチのインストールに同意します。

「必要な追加アップデート」ダイアログボックスに、インストールする必要のあるその他のアップデートが表示されます。

- 「次へ」をクリックして、アップデートをインストールします。
アップデートがインストールされます。
- インストールを取り消す場合は「キャンセル」をクリックします。
操作を取り消すと、アップデートはインストールされません。

- 8 (省略可能)システムの再起動が必要なアップデートを選択した場合は、今すぐシステムを再起動するかあとで再起動するかを決定します。

「インストール完了」ダイアログボックスに、インストールされたアップデートおよび、インストールが成功したか失敗したかが表示されます。システムの再起動が必要な(「再起動が必要」)アップデートをインストールする必要がある場合、アップデートをインストールするためにシステムを再起動するかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。

- ただちにシステムを再起動する場合は、「今すぐシステムを再起動」をクリックし、「OK」をクリックします。
システムを再起動する必要がないアップデートは、すぐにインストールされます。
「システムの再起動」ダイアログボックスに、システムを今すぐ再起動するかどうかを確認するメッセージが表示されます。
 - システムを再起動するには「はい」をクリックします。
Update Manager がシステムを再起動し、再起動が必要なアップデートがインストールされます。
 - 「システムの再起動」ダイアログボックスを閉じるには「いいえ」をクリックします。
- あとでシステムを再起動する場合は、「OK」をクリックします。

注-システムの再起動には、init コマンドまたは shutdown コマンドのみを使用してください。それ以外の方法でシステムを再起動すると、再起動が必要な待機中のアップデートがインストールされません。

システムの再起動を必要としないアップデートはすぐにインストールされます。一方、再起動が必要なアップデートは待機状態になり、次のシステム再起動時にインストールされます。

▼ インストールしたアップデートを表示してシステムからアップデートを削除する方法 (GUI)

この手順を使用して、システムにインストールされているアップデートを一覧表示し、1つまたは複数のアップデートを削除します。

1 Update Manager GUI へのアクセス

54 ページの「Update Manager アプリケーションへのアクセス方法 (GUI)」を参照してください。

2 「有効なアップデート」画面で、「インストール済みアップデート」をクリックします。

「インストール済みアップデート」画面に、システムにインストールされたアップデートの一覧が表示されます。

3 削除する1つ以上のアップデートを選択します。

削除できるのは、チェックボックスがあるアップデートのみです。アップデート ID の横にダッシュが表示されているアップデートは削除できません。

アンインストールボタンの名前は、選択したアップデートの数で変わります。たとえば、1つのアップデートを選択すると、ボタン名は「1項目を今すぐアンインストール」になります。2つのアップデートを選択すると、ボタン名は「2項目を今すぐアンインストール」になります。

4 「1項目を今すぐアンインストール」をクリックします。

「アンインストールの確認」ダイアログボックスに、削除するアップデートが表示されます。同時に削除する必要がある依存パッチも表示されます。

5 選択したアップデートをアンインストールするには、「次へ」をクリックします。

「アンインストール中」ダイアログボックスに、操作の進捗状況が表示されます。「キャンセル」をクリックすると、アンインストールの操作を取り消すことができます。

アップデートがアンインストールされると、「アンインストール完了」ダイアログボックスに、アンインストールされたアップデートおよびそのアンインストール処理が成功したか失敗したかが表示されます。「了解」をクリックして、ダイアログボックスを閉じます。

GUIを使用してアップデート管理環境を調整する(作業マップ)

次の表は、GUIを使用してシステムのアップデート管理環境を調整する際に実行する可能性のある作業(省略可能)の一覧です。

smpatch コマンドを使用してアップデート管理環境を調整する方法については、smpatch(1M)のマニュアルページを参照してください。

作業	説明	参照先
(省略可能)別のディレクトリの場所を設定する。	デフォルトの場所に十分な容量がない場合、ダウンロードディレクトリまたはバックアウトディレクトリとして別の場所を指定します。	66 ページの「アップデートディレクトリの場所を変更する方法(GUI)」
(省略可能)定期的なアップデート分析のスケジュールを設定して適切なアップデートの一覧を判断する。	システムを定期的に分析して、適切なアップデートの一覧を判断します。 デフォルトでは、分析は毎日実行されます。	67 ページの「毎日のアップデート分析を有効にする方法(GUI)」
(省略可能)システムを別の Sun オンラインアカウントに割り当て直します。	登録済みシステムの所有者を、別の Sun オンラインアカウントに変更します。	68 ページの「システムを別の Sun オンラインアカウントに割り当て直す方法(GUI)」
(省略可能)GNOME デスクトップに Update Manager の通知アイコンとメニューを表示する。	これらのアイコンを使用して、Update Manager GUI と Sun Update Connection Hosted Web アプリケーションにアクセスします。また、これらのアイコンでは、使用しているシステムで利用可能なアップデートの情報、およびそのタイプの情報が得られます。	68 ページの「GNOME デスクトップで通知アイコンとメニューを表示する方法(GUI)」

▼ アップデートディレクトリの場所を変更する方法(GUI)

ここでは、ダウンロードディレクトリ、バックアウトデータディレクトリのいずれか一方または両方の代替的な場所を指定する方法について説明します。デフォルトのダウンロードディレクトリは `/var/sadm/spool` です。

1 Update Manager GUI へのアクセス

54 ページの「Update Manager アプリケーションへのアクセス方法 (GUI)」を参照してください。

2 「ファイル」メニューの「設定」を選択します。

「設定」ダイアログボックスの設定画面が表示されます。

3 使用可能な代替ディレクトリの場所があれば、「ディレクトリ」セクションでその場所を指定します。

- 「ダウンロード用ディレクトリ」フィールドに、ダウンロードディレクトリの代替的な場所を入力します。
- 「バックアウトデータ用ディレクトリ」フィールドに、バックアウトデータディレクトリの代替的な場所を指定します。

4 一方または両方の場所を設定してダイアログボックスを閉じるには、「OK」をクリックします。

設定した値を破棄してダイアログボックスを閉じるには、「キャンセル」をクリックします。

▼ 毎日のアップデート分析を有効にする方法 (GUI)

デフォルトで、自動アップデート分析は毎日1回実行されます。この分析では、指定したアップデートソースを使用します。分析操作のあとで、「有効なアップデート」画面のリストに表示されるのは、システム登録とサブスクリプションキーに基づいてアクセスを許可されたアップデートのみです。

1 Update Manager GUI にアクセスします。

54 ページの「Update Manager アプリケーションへのアクセス方法 (GUI)」を参照してください。

2 「ファイル」メニューの「設定」を選択します。

「設定」ダイアログボックスの設定画面が表示されます。

3 「通知」をクリックします。

「設定」ダイアログボックスの「通知」画面が表示されます。

4 「アップデート分析」セクションで、システムに対して自動アップデート分析を実行するかどうかを指定します。

- 自動分析操作を有効にするには、「アップデート分析を毎日実行する」を選択します(推奨)。
- 自動分析操作を無効にするには、「アップデート分析を実行しない」を選択します。

- 5 この値を設定してダイアログボックスを閉じるには、「OK」をクリックします。
設定した値を破棄してダイアログボックスを閉じるには、「キャンセル」をクリックします。

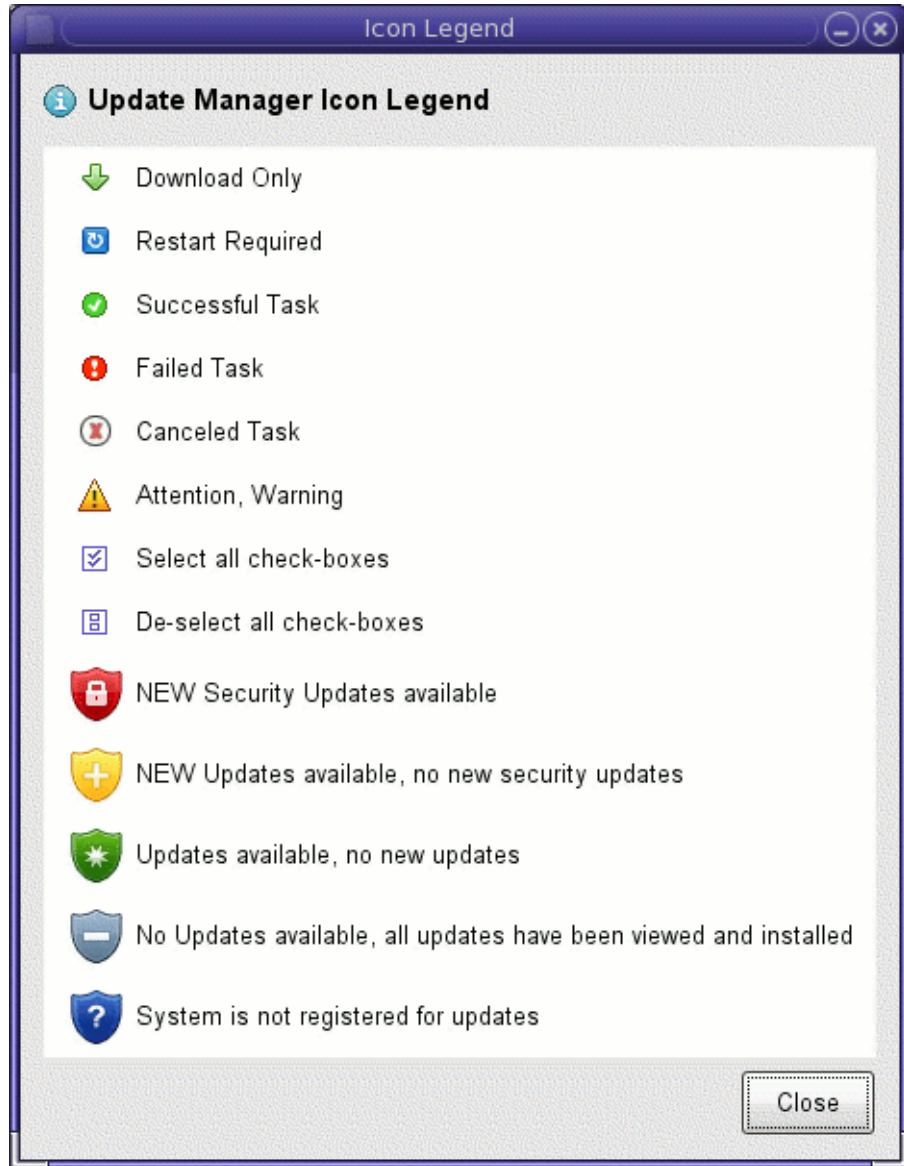
▼ システムを別の **Sun** オンラインアカウントに割り当て直す方法 (GUI)

この操作は、システムの登録を済ませてから実行してください。

- 1 **Update Manager GUI** にアクセスします。
54 ページの「**Update Manager アプリケーションへのアクセス方法 (GUI)**」を参照してください。
- 2 「ファイル」メニューから「サブスクリプションの管理」を選択します。
「サブスクリプションの追加」ダイアログボックスが表示されます。
- 3 別の **Sun** オンラインアカウントの情報を入力します。
 - a. 「ユーザー名」フィールドに別のユーザー名を入力します。
 - b. 「パスワード」フィールドにパスワードを入力します。
- 4 (省略可能) 「キー」フィールドにサブスクリプションキーを入力します。
- 5 変更内容を保存してダイアログボックスを閉じるには、「完了」をクリックします。
変更内容を破棄して登録ウィザードを閉じるには、「キャンセル」をクリックします。

▼ **GNOME** デスクトップで通知アイコンとメニューを表示する方法 (GUI)

「アイコンの説明」ウィンドウには、Update Manager で使用されるアイコンと、その簡単な説明が一覧表示されます。



「アイコンの説明」ウィンドウの下から5つのアイコンは、GNOME デスクトップにのみ表示されます。これらのアイコンから、Update Manager GUI や Sun Update Connection Hosted Web アプリケーションにアクセスできます。これらのアイコンを使用して、システムで有効なアップデートに関する追加情報を入手することもできます。アイコンを右クリックすると、各通知アイコンにリンクしているメニュー項目が表示されます。アイコンを左クリックすると、Update Manager アプリケーションが起動します。

GNOME デスクトップの各アイコンの意味は、次のとおりです。

- 鍵マークの付いた赤色のアイコン。システム向けに新しいセキュリティーアップデートがあることを示します。このアイコンは、システムが登録されており、Update Manager サブスクリプションがある場合のみ表示されます。また、この通知を受け取るには、毎日のシステム分析を有効にしておく必要があります。アイコンメニューから Update Manager アプリケーションを起動して Sun Update Connection System Web サイトにアクセスできます。
- プラスマークの付いた黄色いアイコンセキュリティーアップデート以外の新しいアップデートがあることを示します。この通知を受け取るには、毎日のシステム分析を有効にしておく必要があります。アイコンメニューから Update Manager アプリケーションを起動して Sun Update Connection System Web サイトにアクセスできます。
- 星マーク付いた緑色のアイコン利用可能なアップデートはあるが、システム向けの新規アップデートはないことを示します。毎日のアップデート分析を無効にした場合に、この状態インジケータが表示されることがあるので注意してください。アイコンメニューから Update Manager アプリケーションを起動して Sun Update Connection System Web サイトにアクセスできます。
- ダッシュマークの付いたグレーのアイコン利用可能なアップデートはないことを示します。すべてのアップデートは、すでに表示されていて、システムにインストールされています。アイコンメニューから Update Manager アプリケーションを起動して Sun Update Connection System Web サイトにアクセスできます。
- 疑問符の付いた青色のアイコンシステムが登録されていないことを示します。アイコンメニューから登録ウィザードを開いて、Update Manager および Sun Update Connection System ツールの詳細を確認できます。

1 Update Manager GUI へのアクセス

54 ページの「Update Manager アプリケーションへのアクセス方法(GUI)」を参照してください。

- 2 「ファイル」メニューの「設定」を選択します。
「設定」ダイアログボックスの設定画面が表示されます。
- 3 「通知」をクリックします。
「設定」ダイアログボックスの「通知」画面が表示されます。
- 4 「通知のアイコンとメニュー」セクションで、通知のアイコンとメニューを表示するかどうかを指定します。
 - 通知のアイコンとメニューを表示するには、「通知のアイコンとメニューの表示」を選択します。この機能を有効にするには、「通知」ダイアログボックスの「アップデート分析」セクションで、「アップデート分析を毎日実行する」を選択します。
 - アップデート分析をバックグラウンドで実行する必要がない場合は、「アップデート分析を実行しない」を選択します。このオプションを選択すると、通知のアイコンとメニューが表示されなくなります。

- この機能を無効にするには、「通知のアイコンとメニューの表示」の選択を解除します。

- 5 「適用」をクリックして値を設定し、選択を保存します。

注-通知のアイコンは、GNOME パネルが動作している場合にのみ有効になります。
Update Manager アプリケーションをリモートで実行している場合、通知のアイコンは表示されません。

- 6 「OK」をクリックするとダイアログボックスが閉じます。「キャンセル」をクリックすると、設定した値が破棄され、ダイアログボックスが閉じます。

Sun Update Connection Hosted ブラウザインタフェースを使用した Solaris アップデートの管理

この章では、Sun Update Connection System ブラウザインタフェースを使用してアップデート管理ジョブを実行する方法について説明します。この章は、次の各節で構成されています。

- 73 ページの「Sun Update Connection Hosted Web アプリケーションを使用した Solaris アップデートの管理方法 (作業マップ)」
- 75 ページの「Sun Update Connection System へのアクセス (作業マップ)」
- 80 ページの「Sun Update Connection System を使用したシステムの管理 (作業マップ)」
- 85 ページの「Sun Update Connection System を使用したアップデートの管理 (作業マップ)」
- 89 ページの「ジョブの管理 (作業マップ)」

Sun Update Connection Hosted Web アプリケーションを使用した Solaris アップデートの管理方法 (作業マップ)

Sun Update Connection Hosted Web アプリケーションを使用するには、まず、Update Manager 登録ウィザードで Solaris 10 システムを登録する必要があります。登録では、Update Manager サブスクリプションキーを入力し、Sun Update Connection Hosted Web アプリケーションを使用してシステムをリモート管理することを指定します。

注 - Sun Update Connection Hosted Web アプリケーションを使用する場合でも、引き続き、Update Manager アプリケーションを使用して、ローカルでアップデート管理ジョブを実行できます。

ページ最上部のタブをクリックすると、概要ページ、システムページ、アップデートページ、ジョブページにアクセスできます。

概要ページは、Sun Update Connection System Web サイトにログインするたびに表示されます。ここには、システム、アップデート、およびジョブに関する概要の情報が表示されます。

このページから、次の各セクションでシステム、アップデート、およびジョブに関する情報を表示することができます。

- システム。このセクションには、最近の 24 時間以内に Sun にチェックインしていないシステムの数が表示されます。また、管理対象の総システム数も表示されます。
- アップデート。このセクションには、管理対象の全システムで有効なアップデートの総数も表示されます。また、このセクションには、システムに対して有効な次の種類のアップデートも表示されます。
 - セキュリティーアップデート
 - Sun Alert および推奨するアップデート
 - 機能アップデート
 - クリティカルでないアップデート
- ジョブ。このセクションには、ジョブステータスが表示されます。表示される情報には、成功したジョブの総数、失敗したジョブの総数、システムチェックインの実行を待機中のジョブの総数、処理中のジョブの総数があります。

各ページの「ジョブ概要」サイドバーには、このセッションで作成されたジョブが最大 25 個表示されます。「ジョブ概要」のキューがいっぱいのときに新しいジョブを作成すると、最初のジョブがリストから削除されます。サイドバーからジョブの詳細にアクセスできます。

セッションで 20 分以上操作が行われないと、自動的にログアウトになります。操作が行われなまま 15 分が経過すると、Web アプリケーションによって警告が表示されます。この場合は、もう 20 分セッションを延長できます。

次の表は Sun Update Connection Hosted Web アプリケーションから実行できる作業の一覧です。

作業	説明	参照先
Web アプリケーションへのアクセス。	ブラウザインタフェースにログインし、自分の Sun オンラインアカウントを管理します。	75 ページの「 Sun Update Connection System へのアクセス (作業マップ) 」
システムの管理。	ブラウザインタフェースからは、システムのチェックイン間隔の設定、システム名の変更、システムの表示、適用可能なアップデートの表示を実行できるほか、Sun Update Connection System による管理対象のシステム一覧からシステムを削除することもできます。	80 ページの「 Sun Update Connection System を使用したシステムの管理 (作業マップ) 」

作業	説明	参照先
アップデートの管理。	アップデートおよびアップデート依存パッチのインストール、アップデートのアンインストール、およびアップデート詳細の表示。	85 ページの「Sun Update Connection System を使用したアップデートの管理 (作業マップ)」
ジョブの管理。	ジョブおよびジョブ詳細の表示、ジョブの作成、実行中のジョブの追跡、ジョブのアーカイブ、ジョブステータスの表示、および保留中のジョブのキャンセル。	89 ページの「ジョブの管理 (作業マップ)」

Sun Update Connection System へのアクセス (作業マップ)

次の表は、Sun Update Connection Hosted Web アプリケーションから実行できる作業の一覧です。

作業	説明	参照先
Sun Update Connection System Web サイトへのログイン。	Sun Update Connection Hosted Web アプリケーションにアクセスし、1 つまたは複数のシステムのアップデートを管理します。	76 ページの「Sun Update Connection System Web サイトへのログイン方法 (ブラウザインタフェース)」
(省略可能) Sun オンラインアカウントのユーザー名を忘れた場合の、ユーザー名の回復。	Sun オンラインアカウントのユーザー名を忘れた場合に、ユーザー名の送付を依頼できます。	76 ページの「ユーザー名を忘れた場合の回復方法 (ブラウザインタフェース)」
(省略可能) Sun オンラインアカウントのパスワードを忘れた場合の、パスワードの回復。	Sun オンラインアカウントのパスワードを忘れた場合に、パスワードの送付を依頼できます。	77 ページの「パスワードを忘れた場合の回復方法 (ブラウザインタフェース)」
(省略可能) Sun オンラインアカウントのパスワードの変更。	アカウントのセキュリティを強化するため、パスワードは定期的に変更してください。	78 ページの「パスワードの変更方法 (ブラウザインタフェース)」
(省略可能) Sun オンラインアカウントの作成。	Sun オンラインアカウントを持っていない場合は、Sun Update Connection System Web サイトから作成できます。	78 ページの「Sun オンラインアカウントの作成方法 (ブラウザインタフェース)」
(省略可能) Sun オンラインアカウント情報の変更。	システムの登録情報を変更できます。	80 ページの「Sun オンラインアカウント情報の変更方法 (ブラウザインタフェース)」

▼ Sun Update Connection System Web サイトへのログイン方法 (ブラウザインタフェース)

- 1 ブラウザを開きます。
次のブラウザがサポートされます。
 - Mozilla 1.3 以降
 - Internet Explorer 5.0 以降
 - Firefox 1.0 以降
- 2 <http://updates.sun.com> に進みます。
接続できない場合は、ネットワークプロキシとポート設定をネットワーク管理者に確認してもらってください。
- 3 **Sun** オンラインアカウントのユーザー名とパスワードを入力し、「ログイン」をクリックします。
ユーザー名を忘れた場合の措置については、76 ページの「ユーザー名を忘れた場合の回復方法 (ブラウザインタフェース)」を参照してください。
パスワードを忘れた場合の措置については、77 ページの「パスワードを忘れた場合の回復方法 (ブラウザインタフェース)」を参照してください。

▼ ユーザー名を忘れた場合の回復方法 (ブラウザインタフェース)

Sun には、各 Sun オンラインアカウントの電子メールアドレスと、関連付けられているユーザー名が保存されています。1つの電子メールアドレスには、1つまたは複数のユーザー名を関連付けることができます。Sun は、リンクしているユーザー名をその電子メールアドレスに送信します。

ユーザー名はわかるがパスワードを忘れた場合の措置については、77 ページの「パスワードを忘れた場合の回復方法 (ブラウザインタフェース)」を参照してください。

- 1 **Sun Update Connection System** のログイン画面で、「ユーザー名またはパスワードを忘れた」をクリックします。
「既存の Sun Update Connection System ユーザー」ウィンドウが表示されます。
- 2 「ユーザー名またはパスワードを忘れた場合」のリンクをクリックします。
「ユーザー名またはパスワードを忘れた場合」ウィンドウが表示されます。
- 3 電子メールアドレスを入力します。
このアドレスは、Sun オンラインアカウントで Sun に登録した電子メールアドレスです。

4 「送信」をクリックします。

Sun では、電子メールアドレスが有効な Sun オンラインアカウントに関連付けられていることを確認します。

- 電子メールアドレスの検証が完了すると、Sun はその電子メールアドレスに関連するユーザー名をユーザーに送信します。
- 電子メールが見つからない、または無効である場合は、次のいずれかのエラーメッセージが届きます。
 - 電子メールが Sun オンラインアカウントと一致しません
 - 電子メールとユーザー名が Sun オンラインアカウントと一致しません
 - 電子メールとユーザー名が同じ Sun オンラインアカウントと一致しません確認画面から、送付された電子メールにアクセスできます。

5 Sun Update Connection System ログイン画面に戻ります。

6 Sun オンラインアカウントのユーザー名とパスワードを入力し、「ログイン」をクリックします。

▼ パスワードを忘れた場合の回復方法 (ブラウザインタフェース)

1 Sun Update Connection System のログイン画面で、「ユーザー名またはパスワードを忘れた」をクリックします。

「既存の Sun Update Connection System ユーザー」ウィンドウが表示されます。

2 「ユーザー名またはパスワードを忘れた場合」のリンクをクリックします。

「ユーザー名またはパスワードを忘れた場合」ウィンドウが表示されます。

3 電子メールアドレスを入力します。

このアドレスは、Sun オンラインアカウントで Sun に登録した電子メールアドレスです。

4 ユーザー名を入力します。

5 「送信」をクリックします。

Sun では、電子メールアドレスが有効な Sun オンラインアカウントに関連付けられていることを確認します。

- 電子メールアドレスの検証が完了すると、パスワードはシステムで生成されたパスワードにリセットされ、生成されたパスワードがユーザーに電子メール送信されます。

- 電子メールが見つからない、または無効である場合は、次のいずれかのエラーメッセージが届きます。
 - 電子メールが Sun オンラインアカウントと一致しません
 - 電子メールとユーザー名が Sun オンラインアカウントと一致しません
正しい電子メールアドレスを入力して、「提出」をクリックします。
確認画面から、送付された電子メールにアクセスできます。

6 Sun Update Connection System ログイン画面に戻ります。

7 Sun オンラインアカウントのユーザー名とパスワードを入力し、「ログイン」をクリックします。

▼ パスワードの変更方法 (ブラウザインタフェース)

1 「アカウント」をクリックします。

2 「パスワードの変更」をクリックします。
Sun オンラインアカウントのユーザー名が表示されます。

3 現在のパスワードを入力します。

4 新しいパスワードを入力します。
新しいパスワードは大文字と小文字を区別し、6～8文字で入力する必要があります。

5 新しいパスワードを再入力します。

6 「送信」をクリックします。

- パスワードの変更が成功したら、「次へ」をクリックします。
- パスワードの変更に失敗したら、パスワードを再入力して、「提出」をクリックします。

▼ Sun オンラインアカウントの作成方法 (ブラウザインタフェース)

以前に Sun オンラインアカウントを作成していない場合は、ログイン画面でアカウントを作成できます。

注-各クライアントシステムを登録するには、Sun オンラインアカウントが必要です。ここで Sun オンラインアカウントを作成する場合には、これまで Update Manager アプリケーションでリモートアップデート管理対象に Sun システムを登録していないことになります。Sun Update Connection System サービスを使用してシステムを表示および管理するには、各クライアントシステムにログインし、Sun Update Connection System の管理対象として各システムを登録する必要があります。

- 1 パネル内の既存のユーザーログの、「未登録:アカウントの作成」リンクをクリックします。

「登録」ウィンドウが表示されます。

注-Sun オンラインアカウントを作成するには、ログインしているシステムがインターネットに接続している必要があります。フィールドに入力した情報はローカルに保存され、Sun に送信されます。フィールドには英文字で情報を入力してください。

- 2 すべてのフィールドを入力します。
一部のフィールドは必須です。これらのフィールドを空欄にすると、アカウントは作成されません。

- 3 「次へ」をクリックして Sun に接続し、入力したデータの検証を行います。
必須フィールドが空欄だったり、無効なエントリが検出された場合には、画面が再表示され、エラーを修正するか、空欄のフィールドに入力するように要求されます。

データが検証され、次の項目が確認されます。

- ユーザー名が Sun に登録されていない。
- 必須フィールドがすべて入力されている。
- 入力したすべてのデータがフィールド検証ロジックを満たしている。

- 4 「次へ」をクリックします。
「利用規約」ウィンドウが表示されます。

- 5 Sun 利用規約を確認します。

- 利用規約に同意する場合は、「同意する」をクリックして「提出」をクリックします。

登録が完了し、ホームページが表示されます。

- 利用規約について疑問点や質問がある場合は、「キャンセル」をクリックしてアカウントの変更内容を破棄します。

疑問点や質問がありましたら、Sun の担当者にお問い合わせください。

概要ページが表示されますが、システムが登録されていないので、システム情報は表示されません。

- 6 Update Manager アプリケーションを起動して、システムを登録します。

▼ Sun オンラインアカウント情報の変更方法 (ブラウザインタフェース)

Sun Update Connection System Web サイトから、Sun オンラインアカウントを管理できます。登録情報を変更したりパスワードを変更することができます。

- 1 「アカウント」をクリックします。
「アカウント」ボタンは、画面の最上部にあります。
- 2 「登録情報の更新」をクリックします。
Sun オンラインアカウント登録フォームに現在値が表示されます。
- 3 該当するフィールドの値を変更します。
- 4 パスワードを入力します。
- 5 「次へ」をクリックします。
アカウント情報が変更され、成功したことを確認するメッセージが表示されます。

Sun Update Connection System を使用したシステムの管理 (作業マップ)

次の表に示す一般的なシステム関連の作業を実行できます。

作業	説明	参照先
システムの表示。	管理しているシステムが表示されます。システムのアップデートステータスが表示されます。	81 ページの「システムを表示する方法 (ブラウザインタフェース)」
管理している各システムの詳細を表示。	各システムの設定情報が表示されます。	82 ページの「システムの詳細を表示する方法 (ブラウザインタフェース)」
1つまたは複数のシステムに適用できるアップデートを表示。	1つまたは複数のシステムに適用できるアップデートが一覧表示されます。	82 ページの「1つまたは複数のシステムに適用できるアップデートを表示する方法 (ブラウザインタフェース)」

作業	説明	参照先
システム設定の変更。	システム設定の一部を変更します。	82 ページの「システムの設定を編集する方法(ブラウザインタフェース)」
システムのチェックイン間隔の設定。	各システムが Sun Update Connection System Web サイトにチェックインしてジョブを実行する間隔を指定します。	83 ページの「システムのチェックイン間隔を設定する方法(ブラウザインタフェース)」
システム名の変更。	1 つまたは複数のシステムの名前を変更します。	84 ページの「システム名を変更する方法(ブラウザインタフェース)」
システムの削除。	Sun Update Connection Hosted Web アプリケーションで管理していないシステムを削除します。システムを削除しても、登録は解除されません。	84 ページの「システムを削除する方法(ブラウザインタフェース)」

▼ システムを表示する方法(ブラウザインタフェース)

- 1 システムページで、「フィルタ」メニューから「すべて」を選択します。
Sun オンラインアカウントにリンクされているすべてのシステムが表示されます。
- 2 (省略可能)システムが表示されない場合は、**Sun Update Connection Hosted Web** アプリケーションでのリモートアップデート管理対象としてシステムを登録します。
Update Manager アプリケーションで、次の操作を行います。
 - 「**Sun Update Connection System** で管理」をクリックします。
システムがリモート管理対象として登録されていない場合、登録画面が表示されます。この画面に、Sun オンラインアカウントのユーザー名とパスワードを入力します。
 - リモート管理対象として登録します。
Sun Update Connection Hosted Web アプリケーションを開くかどうかを尋ねる確認ウィンドウが表示されます。

▼ システムの詳細を表示する方法 (ブラウザインタフェース)

- ▶ システムページで、システムの名前をクリックします。
システムの詳細を表示するポップアップウィンドウが開きます。この情報は、Update Manager アプリケーションでシステムを登録したときに Sun に送信されたものです。

▼ 1つまたは複数のシステムに適用できるアップデートを表示する方法 (ブラウザインタフェース)

有効なアップデートの一覧は、システムが Sun にチェックインするときに自動的に更新されます。次にシステムがチェックインするまでアップデートはリストに入っているため、リストには変更がリアルタイムで反映されません。

- 1 システムページで、有効なアップデートを表示するシステムのチェックボックスをオンにします。
- 2 「有効なアップデートを表示」をクリックします。
選択したシステムに有効なアップデートがすべて表示されます。

注-アンインストールされたアップデートは、システムがチェックインして、そのシステムの分析が実行されるまで表示されません。アンインストールされたアップデートは適切でない場合があるので、有効なアップデートの一覧には自動的に追加されません。

▼ システムの設定を編集する方法 (ブラウザインタフェース)

- 1 システムページの「システム名」列にある履歴アイコンをクリックします。
履歴アイコンをクリックすると、システムの履歴データにアクセスできます。
選択したシステムのインストール済みアップデートのページが表示されます。
- 2 「システム設定の編集」をクリックします。
このボタンは、ページ名の下、インストール済みアップデートのリストの上にあります。
- 3 次のうちから編集する設定を選択します。
 - システムのチェックイン間隔の変更

83 ページの「システムのチェックイン間隔を設定する方法(ブラウザインタフェース)」を参照してください。

- システムの一般名の変更

84 ページの「システム名を変更する方法(ブラウザインタフェース)」を参照してください。

- システムの削除

84 ページの「システムを削除する方法(ブラウザインタフェース)」を参照してください。

▼ システムのチェックイン間隔を設定する方法(ブラウザインタフェース)

- 1 システムページの「システム名」列にある履歴アイコンをクリックします。
履歴アイコンをクリックすると、システムの履歴データにアクセスできます。
選択したシステムのインストール済みアップデートのページが表示されます。
- 2 「システム設定の編集」をクリックします。
このボタンは、ページ名の下、インストール済みアップデートの一覧の上にあります。
- 3 **Sun Update Connection System** でチェックインするシステムを設定します。
- 4 メニューからチェックイン間隔を選択します。
デフォルトのチェックイン間隔は2時間です。ドロップダウンリストから選択して、間隔を変更します。

もともと予定されていた間隔の次の時刻に、システムがチェックインします。そのチェックイン後に、新しく設定した間隔がアクティブになります。
- 5 「変更を保存」をクリックします。
変更を保存すると、「システム設定の編集」ウィンドウに戻ります。

注-変更を保存しないでこの画面を終了するには、このステップをスキップし、ナビゲーションボタンをクリックします。

- 6 システム設定ページを終了します。
このページを終了するには、次のいずれかのボタンをクリックします。
 - 有効なアップデートの表示
 - インストール済みアップデートの表示
 - すべてのジョブの表示

▼ システム名を変更する方法(ブラウザインタフェース)

選択したシステムの名前を変更できます。入力されている名前は、システムの登録中に Sun へ送信された名前です。

- 1 システムページで、システム名と同じ行にある履歴アイコンをクリックします。
システムページの「システム名」列にはアイコンが表示されています。このアイコンは、システムの履歴データへのリンクです。
選択したシステムのインストール済みアップデートのページが表示されます。
- 2 「システム設定の編集」をクリックします。
このボタンは、ページ名の下、インストール済みアップデートの一覧の上にあります。
- 3 システム名を入力します。
デフォルトの名前は、システムを登録したときに使用した名前です。管理するシステムには、それぞれ固有の名前が付いている必要があります。

注-すでに自分に割り当てられている使用中のシステム名を入力すると、システム名の再入力を要求するエラーメッセージがポップアップウィンドウに表示されます。

- 4 「変更を保存」をクリックします。
変更を保存すると、「システム設定の編集」ウィンドウに戻ります。

注-変更を保存しないでこの画面を終了するには、このステップをスキップし、ナビゲーションボタンをクリックします。

- 5 システム設定のページを終了します。
このページを終了するには、次のいずれかのリンクをクリックします。
 - 有効なアップデートを表示
 - インストール済みアップデートを表示
 - すべてのジョブを表示

▼ システムを削除する方法(ブラウザインタフェース)

リモートアップデート管理からシステムを削除するには、「システムを削除」をクリックします。ポップアップウィンドウに確認メッセージが表示されます。「OK」をクリックすると、すべてのジョブ情報を含むシステム情報が Sun Update Connection System

の記録から削除されます。削除されたシステムのジョブキューも削除されるため、保留中のジョブは開始されません。また、自動システム分析プロセスとチェックインプロセスが停止します。

削除したシステムの管理は、Update Manager アプリケーションで行うことができます。Update Manager クライアントアプリケーションで、システムをリモート管理対象として再登録することができます。

- 1 システムページで、システム名と同じ行にある履歴アイコンをクリックします。
システムページの「システム名」列にはアイコンがあります。このアイコンは、システムの履歴データへのリンクです。
選択したシステムのインストール済みアップデートのページが表示されます。
- 2 「システム設定の編集」をクリックします。
このボタンは、ページ名の下、インストール済みアップデートの一覧の上にあります。
- 3 「システムを削除」を選択します。
このシステムを Sun Update Connection System でのリモート管理対象として登録した際に Sun に送信した情報が表示されます。この情報は読み取り専用です。
- 4 「変更を保存」をクリックします。

注-変更を保存しないでこの画面を終了するには、このステップをスキップし、ナビゲーションボタンをクリックします。

変更を保存すると、「システム設定の編集」ウィンドウに戻ります。

- 5 システム設定のページを終了します。
このページを終了するには、次のいずれかのリンクをクリックします。
 - 有効なアップデートを表示
 - インストール済みアップデートを表示
 - すべてのジョブを表示

Sun Update Connection System を使用したアップデートの管理 (作業マップ)

次の表に、実行可能な一般的なアップデート管理作業を示します。

作業	説明	参照先
アップデートのインストール。	1つまたは複数のシステムにアップデートをインストールします。	86 ページの「アップデートのインストール方法(ブラウザインタフェース)」
ほかのアップデートが依存するアップデートのインストール。	ほかのアップデートが依存するアップデートをインストールします。	87 ページの「依存性のあるアップデートを、選択したアップデートとともにインストールする方法(ブラウザインタフェース)」
1つまたは複数のシステムからのアップデートの削除。	1つまたは複数のシステムからアップデートを削除します。	88 ページの「アップデートをアンインストールする方法(ブラウザインタフェース)」
アップデートの詳細の表示。	アップデートの README ファイルに記載されているアップデートに関する詳細が表示されます。	88 ページの「アップデートの詳細を表示する方法(ブラウザインタフェース)」

▼ アップデートのインストール方法(ブラウザインタフェース)

ここでは、1つまたは複数のシステムに1つのアップデートをインストールするジョブを作成する方法について説明します。ジョブを作成すると、各システムは Sun または Sun Update Connection プロキシにチェックインして、待機中のジョブを実行します。

インストールしたアップデートを有効にするためにシステムを再起動する必要がある場合は、次のシステムシャットダウン時にアップデートがインストールされます。システムシャットダウンを開始するには、次のいずれかのコマンドを使用する必要があります。

- システムの電源オフ - `init 0` または `shutdown -i 0`
- ファームウェアのプロンプトに戻る - `init 5` または `shutdown -i 5`
- システムの再起動 - `init 6` または `shutdown -i 6`

注-reboot コマンド、halt コマンド、uadmin コマンドや、リセットボタンまたは電源ボタンを使用して、シャットダウンを開始しないでください。これらの操作を行うと、必要なシャットダウン処理が省略され、アップデートはそのあとインストールされなくなります。

- 1 アップデートページで、1つまたは複数のシステムを選択し、「有効なアップデートを表示」をクリックします。

選択した各システムに対するすべてのアップデートのリストを示すウィンドウが表示されます。

- 2 選択したシステムにインストールする1つまたは複数のアップデートを選択します。
このウィンドウには、各システムの次回チェックイン時間が表示されます。これは、システムが Sun または Sun Update Connection プロキシにチェックインして、自身の待機中のジョブを実行する時間です。

作成したジョブの詳細を示す確認ウィンドウが表示されます。

注- 選択したアップデートをインストールするために別のアップデートをインストールする必要がある場合は、ダイアログボックスが表示され、この「依存性」が示されます。最初に選択したアップデートを正常にインストールするには、依存パッチのインストールに同意する必要があります。同意しないと、ジョブは作成されません。

- 3 ジョブを作成するには、「アップデートを適用」をクリックします。
ジョブは、次のチェックイン時に実行するためにキューに入れられます。1つまたは複数のシステムにインストールするアップデートごとに1つのジョブが作成されます。
- 4 ジョブの情報を破棄するには、「キャンセル」をクリックします。

▼ 依存性のあるアップデートを、選択したアップデートとともにインストールする方法 (ブラウザインタフェース)

- 1 システムページで、アップデートをインストールするシステムのチェックボックスを1つまたは複数選択します。
- 2 「有効なアップデートを表示」をクリックします。
- 3 インストールするアップデートのチェックボックスを選択し、「アップデートを適用」をクリックします。

Sun Update Connection System は選択したアップデートの情報を検索し、選択したアップデートをインストールする前に1つまたは複数のアップデートをインストールする必要がある場合は、「インストールの依存パッチと確認」ウィンドウに依存パッチが表示されます。

注- 依存パッチがある場合はすべてインストールする必要があります。インストールしないと、選択したアップデートをインストールするジョブを作成できません。

- 4 一覧表示された依存パッチと選択したアップデートのインストールに同意する場合は、「上記のアップデートをすべてインストール」ボタンをクリックします。
ジョブが作成され、確認ウィンドウが表示されます。

依存パッチをインストールしない場合は、「キャンセル」をクリックしてウィンドウを閉じ、アップデートのインストール要求を破棄します。

- 5 タブをクリックして、確認ウィンドウから移動します。

▼ アップデートをアンインストールする方法(ブラウザインタフェース)

コア Solaris の機能に影響を及ぼすアップデートはアンインストールできません。アップデートページでは、これらのアップデートはチェックボックス列にダッシュが表示されており、選択することはできません。

システムページから、完了したジョブをクリックして、選択したシステムにすでにインストールされているアップデートのリストと各アップデートのインストール日を表示できます。

- 1 アップデートページで、アンインストールするアップデートを選択します。
- 2 「選択したアップデートのアンインストール」をクリックします。

注-1つまたは複数の依存パッチ(選択したアップデートと一緒にアンインストールする必要のあるアップデート)を持つアップデートをアンインストールしようとする、ダイアログボックスが開き、依存パッチの一覧とアップデートの依存パッチの詳細が表示されます。アンインストールを続行するには、選択したアップデートと一緒に依存パッチをアンインストールすることに同意する必要があります。「OK」をクリックして同意します。

アンインストール処理が実行されます。アンインストール処理が正常に完了した場合には、確認のダイアログボックスが表示されます。処理が失敗した場合には、失敗したことを説明する確認のダイアログボックスが表示されます。

▼ アップデートの詳細を表示する方法(ブラウザインタフェース)

- ▶ アップデートページで、詳細を表示するアップデートのアップデートIDをクリックします。
アップデートの README ファイルがポップアップウィンドウに表示されます。

ジョブの管理 (作業マップ)

ジョブは4つのアクティブステータスのいずれか、またはアーカイブ済みにすることができます。

- 保留中。ジョブは作成されていますが、実行されていません。ジョブがシステムのチェックインや再起動、それ以外の手動操作を待機しています。保留中のジョブはキャンセル可能です。
- 実行中。ジョブは開始されていますが、まだ完了していません。ジョブは、システムのチェックインや再起動、それ以外の手動操作で開始できます。
- 失敗。ジョブの完了時に異常が発生しました。失敗したジョブはアーカイブできません。
- 成功。ジョブが正常に完了しました。成功したジョブはアーカイブできます。
- アーカイブ済み。完了したジョブが、Sun Update Connection System ページのデフォルトのジョブリストから削除されています。アーカイブ済みのジョブを見るには、フィルタを「アーカイブ済み」に設定します。

次の表に示す一般的なジョブ関連の作業を実行できます。

作業	説明	参照先
ジョブの表示。	1つまたは複数のシステム上で実行するために作成したジョブが表示されます。	90 ページの「ジョブを表示する方法 (ブラウザインタフェース)」
作成した各ジョブの詳細を表示。	作成したジョブの詳細情報が表示されます。	90 ページの「ジョブの詳細を表示する方法 (ブラウザインタフェース)」
システムページからジョブを作成。	1つまたは複数のシステムにアップデートをインストールするジョブを作成します。	91 ページの「システムページからジョブを作成する方法 (ブラウザインタフェース)」
アップデートページからジョブを作成。	1つまたは複数のシステムにアップデートをインストールするジョブを作成します。	92 ページの「アップデートページからジョブを作成する方法 (ブラウザインタフェース)」
実行中のジョブの追跡。	システムで実行中のジョブを確認します。	93 ページの「実行中のジョブを追跡する方法 (ブラウザインタフェース)」
完了したジョブのアーカイブ。	完了したジョブをアーカイブに移動します。	93 ページの「完了したジョブをアーカイブする方法 (ブラウザインタフェース)」

作業	説明	参照先
ジョブのステータスを表示。	ジョブのステータスを確認します。	94 ページの「ジョブのステータスを表示する方法(ブラウザインタフェース)」
保留中のジョブのキャンセル。	作成したジョブを実行しないようにします。キャンセルできるのは、スケジュール済みで実行されていない保留中のジョブのみです。	94 ページの「保留中のジョブをキャンセルする方法(ブラウザインタフェース)」

▼ ジョブを表示する方法(ブラウザインタフェース)

ジョブページからは、あらゆるステータスのジョブを表示できます。「フィルタ」メニューを使用して、次のいずれかのカテゴリを選択します。

- すべてのジョブ。アーカイブ済みのジョブを除く、すべてのジョブを一覧表示します。
- アーカイブ済みのジョブ。アーカイブ済みの完了したジョブを一覧表示します。
- 完了済み。ステータスが成功または失敗になっており、アーカイブされていないジョブを一覧表示します。
- アクティブ。ステータスが保留中または処理中のジョブを一覧表示します。

- 1 ジョブページで、「フィルタ」メニューから表示するジョブの値を選択します。
- 2 「選択したジョブを表示」ボタンをクリックすると、ジョブの詳細が表示されます。このページは自動更新されません。画面を更新して進捗状況を表示するには、ブラウザの再ロードボタンまたは更新ボタンをクリックします。

▼ ジョブの詳細を表示する方法(ブラウザインタフェース)

- 1 ジョブページで、1つまたは複数のジョブを選択します。詳細を表示する各ジョブのチェックボックスを選択します。表示されるジョブは、フィルタの選択内容によって異なります。該当するジョブが表示されない場合は、フィルタの選択を「すべてのジョブ」に変更します。
- 2 「選択したジョブを表示」をクリックします。選択したジョブの詳細が表示されます。この画面のリンクでは、システム名やアップデートの概要をクリックして、システムおよびアップデートの詳細を表示することができます。

- 3 (省略可能) システム名をクリックして、システムの詳細を表示します。
- 4 (省略可能) アップデートの概要をクリックして、アップデートの詳細を表示します。

▼ システムページからジョブを作成する方法(ブラウザインタフェース)

ジョブを使用して、アップデートをインストールおよびアンインストールできます。アップデートページからジョブを作成する方法については、[92 ページの「アップデートページからジョブを作成する方法\(ブラウザインタフェース\)」](#)を参照してください。

- 1 システムページで、1つまたは複数のシステムを選択します。
- 2 「有効なアップデートの表示」をクリックします。
選択した各システムに有効なアップデートの一覧が表示されます。選択した各システムは、そのシステムに有効なアップデートと一緒に表示されます。
- 3 表示されたシステムに対して1つまたは複数のアップデートを選択します。
表示されているシステムのすべてのアップデートを選択するには、システムのチェックボックスをオンにします。
- 4 「アップデートを適用」をクリックします。
選択したアップデートは、選択したシステムにすでにインストールされているアップデートと照合され、選択したアップデートに依存パッチがないかが判断されます。
- 5 (省略可能) 1つまたは複数の依存パッチが検出された場合は、依存パッチのインストールに同意します。
ジョブを作成して、キューに挿入するには、選択したアップデートと一緒に、表示された依存パッチをインストールすることに同意する必要があります。ウィンドウを閉じて選択内容を破棄したり、ジョブを作成しない場合は、「依存パッチ」ウィンドウの「キャンセル」をクリックします。
- 6 作成され、予定されているジョブを一覧表示した確認画面をチェックします。
確認画面には、インストールするアップデート、アップデートをインストールするシステムのホスト名、および予定インストール日時が一覧表示されます。

注-ジョブの予定日時は、アップデートをインストールするシステムの次のチェックイン予定日時です。

これらのジョブは待機状態になり、各関連システムの次回チェックイン時に実行されます。

▼ アップデートページからジョブを作成する方法 (ブラウザインタフェース)

ジョブは、選択した1つまたは複数のシステムにインストールされる1つのアップデートです。インストールジョブやアンインストールジョブの作成は、システムページまたはアップデートページで行います。91 ページの「システムページからジョブを作成する方法(ブラウザインタフェース)」を参照してください。

- 1 アップデートページで、1つまたは複数のアップデートを選択します。
関連システムの数に関係なく、インストールするアップデートごとに1つのジョブが作成されます。複数のアップデートを選択すると、複数のジョブが作成されます(各アップデートに1つのジョブが作成される)。
- 2 「関連システムの表示」をクリックします。
選択した各アップデートに有効なシステムの一覧が表示されます。選択した各システムは、そのシステムで有効なアップデートと一緒にグループ形式で表示されます。
- 3 表示されたシステムに対して1つまたは複数のアップデートを選択します。
表示されているシステムのすべてのアップデートを選択するには、システムのチェックボックスをオンにします。
- 4 「アップデートを適用」をクリックします。
選択したアップデートは、選択したシステムにすでにインストールされているアップデートと照合され、選択したアップデートに依存パッチがないかどうか判断されます。
- 5 (省略可能)1つまたは複数の依存パッチが検出された場合は、依存パッチのインストールに同意します。
ジョブを作成して、キューに挿入するには、選択したアップデートと一緒に、表示された依存パッチをインストールすることに同意する必要があります。ウィンドウを閉じて選択内容を破棄したり、ジョブを作成しない場合は、「依存パッチ」ウィンドウの「キャンセル」をクリックします。
- 6 作成され、予定されているジョブを一覧表示した確認画面をチェックします。
確認画面には、インストールするアップデート、アップデートをインストールするシステムのホスト名、および予定インストール日時が一覧表示されます。

注-ジョブの予定日時は、アップデートをインストールするシステムの次のチェックイン予定日時です。

予定されたジョブは待機状態になり、関連システムの次のチェックイン時に実行されます。

▼ 実行中のジョブを追跡する方法 (ブラウザインタフェース)

実行中のジョブとは、ステータスが実行中になっているジョブです。

ジョブページから、任意のステータスのジョブを表示できます。「フィルタ」メニューを使用して、次のいずれかのカテゴリを選択します。

- すべてのジョブ。アーカイブされたものを除く、すべてのジョブが一覧表示されます。
- アーカイブ済みジョブ。アーカイブ済みの完了したジョブが一覧表示されます。
- 完了済み。ステータスが成功または失敗になっており、アーカイブされていないジョブが一覧表示されます。
- アクティブ。ステータスが保留中または処理中のジョブが一覧表示されます。

1 ジョブページの「フィルタ」メニューで「実行中」を選択します。

開始されているがまだ完了していないジョブが、一覧に表示されます。ジョブが表示されない場合は、そのジョブが完了または保留中になっている場合があります。

2 「選択したジョブを表示」ボタンをクリックすると、ジョブの詳細が表示されます。

このページは自動更新されません。画面を更新して進捗状況を表示するには、ブラウザの再ロードボタンまたは更新ボタンをクリックします。

▼ 完了したジョブをアーカイブする方法 (ブラウザインタフェース)

完了した各ジョブのステータスは、失敗または成功になっています。完了したジョブのみアーカイブすることができます。このアイコンのあるジョブはアーカイブできます。

1 ジョブページで、「フィルタ」メニューから「すべて」を選択します。

現在の (アーカイブされていない) ジョブがすべて表示されます。

2 アーカイブする完了したジョブを1つまたは複数選択します。

失敗または成功ステータスになっている完了したジョブのチェックボックスをオンにします。

3 「選択したジョブをアーカイブ」をクリックします。

ポップアップウィンドウに、選択した完了済みのジョブのアーカイブ処理を確認するメッセージが表示されます。保留中または処理中ステータスのジョブはアーカイブできません。

▼ ジョブのステータスを表示する方法(ブラウザインタフェース)

- ▶ ジョブページで、「フィルタ」メニューから「すべてのジョブ」を選択します。
現在の(アーカイブされていない)全ジョブの一覧が、各ジョブのステータスと一緒に表示されます。この一覧にはアーカイブ済みジョブは表示されません。

▼ 保留中のジョブをキャンセルする方法(ブラウザインタフェース)

保留中ステータスのジョブのみキャンセルすることができます。「選択したシステムのアップデートをキャンセル」ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、キャンセルするように要求したジョブのアップデートの詳細とシステムの詳細が表示されます。

- 1 ジョブページの「フィルタ」メニューで、「保留中」(「アーカイブ」の下)を選択します。
- 2 キャンセルするジョブのチェックボックスをオンにします。
- 3 キャンセルする1つまたは複数のジョブを選択します。
- 4 「選択したジョブのキャンセル」をクリックします。
- 5 ジョブをキャンセルすることを確認します。
 - ジョブをキャンセルするには、「OK」をクリックします。
ジョブのステータスが「失敗」になり、実行予定のキューからジョブが削除されません。
 - ジョブのキャンセル要求を破棄するには、「キャンセル」をクリックします。
ウィンドウが閉じ、要求が破棄されて、「ジョブ詳細」ウィンドウに戻ります。

Sun Update Connection プロキシの設定

この章では、Solaris 10 システムでの Sun Update Connection プロキシ(「ローカルパッチサーバー」ともいう)の設定方法について説明します。次の作業に関連した情報が対象となります。

- 95 ページの「Sun Update Connection プロキシの設定(作業マップ)」
- 96 ページの「Sun Update Connection プロキシの設定」

Sun Update Connection プロキシは、Sun Update Connection Hosted 製品と Sun Patch Manager 2.0 製品を使用するクライアントシステムをサポートします。Sun Update Connection System クライアントシステムには、Sun Patch Manager 2.0 製品に関連した旧バージョンのローカルパッチサーバーの機能との互換性はありません。

注 - Sun Update Connection プロキシはオプション機能で、Sun Service Plan に加入していれば無料で取得できます。Sun Service Plan の取得方法については、Solaris オペレーティングシステムソフトウェアサポート (<http://www.sun.com/service/support/software/solaris/>) にアクセスし、適切なレベルを選択してください。

プロキシのインストール方法については、38 ページの「Update Manager の機能アップデートをインストールする方法」または39 ページの「Update Manager クライアントソフトウェアをインストールする方法」を参照してください。

Sun Update Connection プロキシの設定(作業マップ)

次の表は、イントラネット上のアップデートサーバーの設定時、`patchsvr setup` コマンドを使って実行できる作業を示したものです。`patchsvr(1M)` のマニュアルページを参照してください。

これらの作業を実行するには、Sun Update Connection プロキシソフトウェアをインストールする必要があります。プロキシのインストール方法については、38 ページ

の「Update Manager の機能アップデートをインストールする方法」または39 ページの「Update Manager クライアントソフトウェアをインストールする方法」を参照してください。

作業	説明	参照先
Sun Update Connection プロキシを初めて設定する。	<p>システムを Sun Update Connection プロキシとして使用するには、その前に、次の作業を行う必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ プロキシソフトウェアがシステムにインストールされていることを確認します。 ■ (省略可能) ネットワークプロキシの指定方法など、システムの設定を変更します。 ■ システムが Sun Update Connection プロキシとして機能できるよう設定します。 ■ クライアントシステムを設定し、Sun Update Connection プロキシをアップデートソースとして指定します。 	98 ページの「Sun Update Connection プロキシを初期設定する方法(コマンド行)」
(省略可能) Sun Update Connection プロキシの設定に関する情報を取得する。	この情報を取得すれば、問題を診断しやすくなるほか、指定された設定内容を確認できます。	102 ページの「Sun Update Connection プロキシの設定を表示する方法(コマンド行)」
(省略可能) Sun Update Connection プロキシの設定を変更する。	<p>デフォルトでは、プロキシは直接インターネットに接続して、Sun アップデートサーバーからアップデートを取得します。</p> <p>デフォルトの設定と実際のアップデート管理環境が合わない場合は、適切な設定に変更します。</p>	102 ページの「Sun Update Connection プロキシの設定を変更する方法(コマンド行)」

Sun Update Connection プロキシの設定

クライアントシステムはデフォルトで、Sun アップデートサーバーからアップデートを取得するように設定されています。次の場合には、Sun Update Connection プロキシが必要です。

- クライアントシステムがインターネットへの接続を許可されていない。
- クライアントシステムと Sun アップデートサーバーの間で、インターネットトラフィックを最小限に抑えたい。

注 - Sun Update Connection プロキシはオプション機能で、Sun Service Plan に加入していれば、無料で取得できます。Sun Service Plan の取得方法については、Solaris オペレーティングシステムソフトウェアサポート (<http://www.sun.com/service/support/software/solaris/>) にアクセスし、必要なレベルのサービスを選択します。

詳細は、24 ページの「Sun Update Connection プロキシ」を参照してください。

Sun Update Connection プロキシが含まれるようにアップデート管理環境を設定する

Sun Update Connection プロキシが含まれるようにアップデート管理環境を設定し、そのプロキシが使用されるようにクライアントシステムを設定するには、次の作業を実行します。

1. Sun Update Connection プロキシを設定し、起動します。
98 ページの「Sun Update Connection プロキシを初期設定する方法(コマンド行)」を参照してください。
2. Sun Update Connection プロキシからアップデートを取得するよう、クライアントシステムを設定します。
58 ページの「アップデートソースを指定する方法(GUI)」を参照してください。

これらの作業が完了すると、クライアントシステムは Sun Update Connection プロキシからアップデートを取得できるようになります。第4章を参照してください。

Sun Update Connection プロキシログは、`/var/patchsvr/logs` ディレクトリに保存されます。

設定の要件

Sun Update Connection プロキシは、次のソースからアップデートおよびアップデートデータを取得する必要があります。

- アップデートサーバーアップデートサーバーは、Sun アップデートサーバー、または一連のアップデートサーバーに組み込まれた別の Sun Update Connection プロキシのいずれかです。Sun アップデートサーバーが、デフォルトのアップデートソースです。
- アップデートのローカルコレクションローカルシステムで使用可能なディレクトリに保存されているアップデートおよびアップデートデータのコレクション。このディレクトリには、ローカルディレクトリや共有ネットワークディレクトリ、ローカルシステムにマウントされた CD などがあります。

Sun Update Connection プロキシの設定が完了したら、そのプロキシと通信するよう、各クライアントシステムを設定する必要があります。これで、クライアントシステムを使用してこのプロキシからアップデートを取得できるようになります。

注 - Sun Update Connection プロキシのクライアントであるシステムをイントラネット上でローカル管理している場合は、そのクライアントシステムを登録する必要はありません。プロキシとして動作させるシステムは、登録する必要があります。ただし、Sun Update Connection Hosted Web アプリケーションによって、クライアントシステムがリモートでも管理されている場合は、そのクライアントシステムも登録する必要があります。

コマンド行インタフェースを用いた Sun Update Connection プロキシの設定

patchsvr コマンドを使用して、Sun Update Connection プロキシを設定し、有効化します。patchsvr(1M) のマニュアルページを参照してください。

▼ Sun Update Connection プロキシを初期設定する方法(コマンド行)

システムを Sun Update Connection プロキシとして使用するには、まず、確実にプロキシソフトウェアをインストールし、プロキシを設定して起動したあと、そのプロキシと通信できるようにクライアントを設定する必要があります。

プロキシのインストール方法については、[38 ページの「Update Manager の機能アップデートをインストールする方法」](#)または[39 ページの「Update Manager クライアントソフトウェアをインストールする方法」](#)を参照してください。

注 - Sun Update Connection プロキシは、Sun Update Connection Hosted 製品および Sun Patch Manager 2.0 製品を使用するクライアントシステムをサポートします。Sun Update Connection System クライアントシステムには、Sun Patch Manager 2.0 製品に関連する旧バージョンのローカルパッチサーバーの機能との互換性はありません。

イントラネット上で Sun Update Connection System プロキシとして動作させるシステムは、次のソフトウェア要件を満たしている必要があります。

- Solaris 10 システムで、少なくとも開発者システムサポート (SUNWCdev)、全体ディストリビューション (SUNWCa11)、または全体ディストリビューションと OEM サポート (SUNWCXa11) のソフトウェアグループが搭載されているシステム
ソフトウェアグループとは、Solaris の初回インストール時にのみインストールされる Solaris パッケージの論理コレクションです。開発者システムサポートソフトウェアグループには、ソフトウェア開発のサポートに必要なパッケージが含まれています。
- Sun Update Manager ソフトウェア
Update Manager ソフトウェアのインストール手順については、[37 ページの「Sun Update Connection System ソフトウェアのインストール\(作業マップ\)」](#)を参照してください。

注 - Sun Update Connection プロキシがネットワークプロキシを使用してインターネットに接続している場合は、ネットワークプロキシに関する情報を指定する必要があります。102ページの「Sun Update Connection プロキシの設定を変更する方法(コマンド行)」を参照してください。

1 **Sun Update Connection** プロキシとして使用する予定のシステムに、スーパーユーザーとしてログインします。

2 パッケージ `SUNWpsvru` と `SUNWpsvrr` がシステムにインストールされているかどうかを確認します。

```
# pkginfo | grep SUNWpsvrssystem      SUNWpsvrr      Patch Server Deployment (Root)
system      SUNWpsvru      Patch Server Deployment (Usr)
```

3 パッケージがインストールされていない場合、この作業を継続する前にパッケージをインストールする必要があります。

4 **Update Manager** にこのシステムを登録します。

45ページの「Update Manager によるシステムの登録(作業マップ)」を参照してください。

5 必要に応じて、**Sun Update Connection** プロキシがインターネットへの接続に使用するネットワークプロキシを指定します。

```
# patchsvr setup -x network-proxy-name:port
```

ネットワークプロキシ情報が不明な場合は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

6 アップデートソースを指定します。

Sun Update Connection プロキシには、さまざまなアップデートソースを指定できます。このアップデートソースは、プロキシが実行できないアップデートダウンロード要求を実行するために使用されます。デフォルトでは、Sun Update Connection プロキシのアップデートソースは Sun アップデートサーバーです。

- Sun Update Connection の連鎖内で次のアップデートサーバーを指定するには、次のように入力します。

```
# patchsvr setup -p http://server-name:3816/solaris/
```

プロキシサーバーに使用するポートは、3816 です。

- Sun Update Connection プロキシ上のアップデートのコレクションを指定するには、次のように入力します。

```
# patchsvr setup -p file:///directory-name
```

アップデートのローカルコレクションは、ディレクトリ、CD、またはリモートファイルシステムに格納できます。

- デフォルトの Sun アップデートサーバーを指定するには、次のように入力します。

```
# patchsvr setup -p https://getupdates1.sun.com/
```

- 7 Sun Update Connection プロキシを起動します。

```
# patchsvr start
```

- 8 (省略可能) システムがブートされるたびに Sun Update Connection プロキシが起動されるよう、Sun Update Connection プロキシを有効にします。

```
# patchsvr enable
```

例: Sun Update Connection プロキシの初期設定

次の各例では、Sun Update Connection プロキシソフトウェアがシステムにインストールされていることを確認しています。

- 次の例では、連鎖内にある別のプロキシを指定するように Sun Update Connection プロキシを設定する方法を説明します。2つの建物にあるシステムにサービスを提供するため、2つのプロキシを設定すると仮定します。

Sun アップデートサーバーからアップデートが取得されるよう、psvr1を設定します。また、psvr1では、インターネットへの接続にネットワークプロキシが使用されています。この Sun Update Connection プロキシを使用できる状態にするには、まずネットワークプロキシのホスト名 networkproxy1 とポート番号 2010 を指定する必要があります。psvr1を設定したら、これを起動します。システムの起動時に自動的に再起動するように設定することもできます。

```
psvr1 # pkginfo | grep SUNWpsvr
system      SUNWpsvrr      Patch Server Deployment (Root)
system      SUNWpsvru      Patch Server Deployment (Usr)
psvr1 # patchsvr setup -x networkproxy1:2010
psvr1 # patchsvr setup -p https://getupdates1.sun.com/
psvr1 # patchsvr start
Starting Local Patch Server
psvr1 # patchsvr enable
```

psvr2はpsvr1からアップデートを取得するよう設定します。それには、そのサーバーへのURL (<http://psvr1:3816/solaris/>) を指定します。psvr2の設定が完了したら、そのサーバーを起動する必要があります。システムの起動時に自動的に再起動するように設定することもできます。

```
psvr2 # pkginfo | grep SUNWpsvr
system      SUNWpsvrr      Patch Server Deployment (Root)
system      SUNWpsvru      Patch Server Deployment (Usr)
psvr2 # patchsvr setup -p http://psvr1:3816/solaris/
```

```
psvr2 # patchsvr start
Starting Local Patch Server
psvr2 # patchsvr enable
```

両方のアップデートサーバーの設定と起動が完了したら、これらのサーバーを使用するようにクライアントシステムを設定します。58 ページの「[アップデートソースを指定する方法 \(GUI\)](#)」を参照してください。

- 次の例では、/export/updates ディレクトリにあるアップデートのローカルコレクションからアップデートが取得されるよう、Sun Update Connection プロキシを設定する方法を説明します。このディレクトリの URL は file:///export/updates です。プロキシの設定が完了したら、そのプロキシを起動する必要があります。システムの起動時に自動的に再起動するように設定することもできます。

```
# pkginfo | grep SUNWpsvr
system      SUNWpsvrr      Patch Server Deployment (Root)
system      SUNWpsvru      Patch Server Deployment (Usr)
# patchsvr setup -p file:///export/updates
# patchsvr start
Starting Local Patch Server
# patchsvr enable
```

アップデートサーバーの設定と起動が完了したら、これを使用するようにクライアントシステムを設定します。58 ページの「[アップデートソースを指定する方法 \(GUI\)](#)」を参照してください。

- 次の例では、プライマリ CD-ROM ドライブの CD 上にあるアップデートのローカルコレクションからアップデートが取得されるよう、Sun Update Connection プロキシを設定する方法を説明します。この CD の URL は file:///cdrom/cdrom0 です。プロキシの設定が完了したら、プロキシを起動します。システムの起動時に自動的に再起動するように設定することもできます。

```
# pkginfo | grep SUNWpsvr
system      SUNWpsvrr      Patch Server Deployment (Root)
system      SUNWpsvru      Patch Server Deployment (Usr)
# patchsvr setup -p file:///cdrom/cdrom0
# patchsvr start
Starting Local Patch Server
# patchsvr enable
```

アップデートサーバーの設定と起動が完了したら、これを使用するようにクライアントシステムを設定します。58 ページの「[アップデートソースを指定する方法 \(GUI\)](#)」を参照してください。

- 次の例では、リモートシステムにあるアップデートのコレクションからアップデートが取得されるように Sun Update Connection プロキシを設定する方法を説明します。このディレクトリの URL は /net/mars/export/updates です。プロキシの設定が完了したら、そのプロキシを起動する必要があります。システムの起動時に自動的に再起動するように設定することもできます。

```
# pkginfo | grep SUNWpsvr
system      SUNWpsvrr    Patch Server Deployment (Root)
system      SUNWpsvru    Patch Server Deployment (Usr)
# patchsvr setup -p file:///net/mars/export/updates
# patchsvr start
Starting Local Patch Server
# patchsvr enable
```

アップデートサーバーの設定と起動が完了したら、これを使用するようにクライアントシステムを設定します。58 ページの「[アップデートソースを指定する方法 \(GUI\)](#)」を参照してください。

▼ Sun Update Connection プロキシの設定を表示する方法 (コマンド行)

Sun Update Connection プロキシの設定を確認することにより、問題を診断したり、サーバーのアップデート関連の設定を確認したりできます。

表示される情報は次のとおりです。

- アップデートコレクションの場所。アップデートのソースです。要求したアップデートがローカルサーバーで有効にならない場合は、ここを確認します。
- ネットワークプロキシ情報。インターネットに接続する際に使用されるネットワークプロキシのホスト名とポートです。
- アップデートキャッシュの場所。アップデートがキャッシュされているディレクトリです。

- 1 Sun Update Connection プロキシにスーパーユーザーとしてログインします。
- 2 プロキシの設定のリストを表示します。

```
# patchsvr setup -l
Patch source URL: https://getupdates1.sun.com
Cache location: /var/sadm/spool/patchsvr
Web proxy host name: mars
Web proxy port number: 8080
```

▼ Sun Update Connection プロキシの設定を変更する方法 (コマンド行)

Sun Update Connection プロキシの設定を変更するには、まずプロキシを停止する必要があります。patchsvr setup コマンドを使用して設定を変更したら、プロキシを再起動してください。

変更可能な設定の詳細については、patchsvr(1M) のマニュアルページを参照してください。

1 **Sun Update Connection** プロキシとして使用する予定のシステムに、スーパーユーザーとしてログインします。

2 プロキシを停止します。

```
# patchsvr stop
```

3 コマンド行ごとに1つ設定を変更し、これを繰り返します。

たとえば、ネットワークプロキシに *network-proxy-name*、ポートに *port* を指定する場合、次のように入力します。

```
# patchsvr setup -x network-proxy-name:port
```

4 プロキシを起動します。

```
# patchsvr start
```

例: Sun Update Connection プロキシの設定の変更

この例では、Sun Update Connection プロキシの一部の設定を変更する方法を説明します。Sun Update Connection プロキシは、ネットワークプロキシを使用してインターネットに接続しています。まず Sun Update Connection プロキシを停止し、次にネットワークプロキシのホスト名 *networkproxy1* とポート番号 *2010* を指定します。

そのあと、連鎖内での次の Sun Update Connection プロキシを指定します。2つの建物にあるシステムにサービスを提供するため、2つのプロキシを設定すると仮定します。psvr1 サーバーは、Sun アップデートサーバーからアップデートを取得します。第2のサーバーである psvr2は、psvr1からアップデートを取得します。psvr1 からアップデートを取得するように psvr2 を設定するには、そのサーバーへの URL (<http://psvr1:3816/solaris/>) を指定します。

```
# patchsvr stop
```

```
Shutting down Local Patch Server
```

```
# patchsvr setup -x networkproxy1:2010
```

```
# patchsvr setup -p http://psvr1:3816/solaris/
```

```
# patchsvr start
```

```
Starting Local Patch Server
```


Sun Update Connection System のナビゲーション

この付録では、Sun Update Connection Hosted Web アプリケーションのユーザーインターフェースと、インターフェースによるナビゲート方法について説明します。

概要、システム、アップデート、およびジョブのページには、アップデート情報を表示したり、システムのアップデートを管理する、さまざまな方法が用意されています。これらのページにアクセスするには、該当するタブをクリックします。

この付録は次の主要なセクションから構成されています。

- 105 ページの「概要ページ」
- 108 ページの「システムページ」
- 116 ページの「アップデートページ」
- 120 ページの「ジョブページ」

概要ページ

概要ページは、Sun Update Connection System にログインすると表示されるページです。このページには、Sun Update Connection System のほかのページで使用可能な情報がまとめて表示されます。

このセクションでは、このページからのナビゲーションおよびページに含まれる情報について説明します。

How To Buy | My Sun | Worldwide Sites Search Go

Sun Connection English dhallest connected ACCOUNT LOG OUT HELP

Sun Update Connection

Summary Systems Updates Jobs

Welcome back, David

Find out whether your systems have checked in with the Sun Update Connection, view the latest updates for your systems and monitor the status of recent jobs.

Systems		Updates		Jobs	
Not Checked-In	0	Security	1	Failed	0
Total Systems	1	Recommended Sun recommends these updates.	0	Succeeded	2
		Feature Update	0	Total Completed Jobs	2
		Non-Critical	31	Total Active Jobs	0
		Total Updates	32		

Company Info | Contact | Terms of Use | Privacy | Trademarks | Copyright 1994-2005 Sun Microsystems, Inc.

システムの表

この表の各項目で値がゼロより大きいものは、システム情報へのリンクです。

- 未チェックイン。システムは、デフォルトまたはユーザーが選択したチェックイン間隔に従って Sun にチェックインします。デフォルトのチェックイン間隔は2時間です。詳細については、83 ページの「システムのチェックイン間隔を設定する方法(ブラウザインタフェース)」を参照してください。システムが Sun に接続していない状態で、予定のチェックイン時間が2回以上過ぎた場合、システムは未チェックインとみなされます。

アラートアイコンは、重大な問題とみなされる状況が発生していることを示しています。システムが予定された間隔で Sun にチェックインしていないことは、システムがダウンしているか、ほかに対処が必要な状況であることを意味します。

「未チェックイン」リンクをクリックすると、フィルタが「未チェックイン」に設定されているシステムページが開きます。

- システムの合計数。次の条件に一致するシステムの合計数。
 - Sun Update Connection System を使用したリモートアップデート管理対象として、Update Manager アプリケーションでシステムが登録されている。

- システムが、このセッションで使用する Sun オンラインアカウントと関連している。

「システムの合計数」リンクをクリックすると、フィルタが「すべて」に設定されているシステムページが開きます。

- すべてを参照。フィルタが「すべて」に設定されているシステムページを開きます。Sun Update Connection System を使用したりリモートアップデート管理対象として Update Manager アプリケーションで登録されているすべてのシステム、およびこのセッションで使用する Sun オンラインアカウントと関連したすべてのシステムが一覧表示されます。
「すべてを参照」をクリックすると、フィルタが「すべて」に設定されているシステムページが開きます。

アップデートの表

この表の各列には、アップデートのカテゴリとそのカテゴリに入っている有効なアップデートの数、およびすべてのカテゴリのアップデートの合計数が一覧表示されます。有効なアップデートが1つまたは複数あるカテゴリはそれぞれリンクになっており、リンクをクリックするとフィルタがそのアップデートのカテゴリに設定されているアップデートページが開きます。

- アップデートカテゴリこの表には、Sun から取得した有効なアップデートに含まれる各アップデートカテゴリが表示されています。また、カテゴリの中で登録したシステムに有効なアップデートの数が、カテゴリとともに表示されます。
この数が1つまたは複数のカテゴリ名をクリックすると、フィルタがカテゴリ名に設定されているアップデートページが開きます。
- アップデートの合計数。アップデートカテゴリの合計数です。この Sun Update Connection System セッションに含まれる、すべての登録済みシステムで使用できるアップデートの合計数を表します。
この数が1以上の見出しをクリックすると、フィルタが「すべて」に設定されているアップデートページが表示されます。
- すべてを参照。このボタンをクリックすると、フィルタが「すべて」に設定されたアップデートページが開きます。

ジョブの表

この表には、完了したジョブのステータス、および完了したジョブの合計数とアクティブなジョブの合計数が一覧表示されます。

- 失敗。正常に完了しなかったジョブの数。この数が1以上の「失敗」をクリックすると、フィルタが「失敗」に設定されているジョブページが表示されます。
- 成功。正常に完了したジョブの数。この数が1以上の「成功」をクリックすると、フィルタが「成功」に設定されているジョブページが表示されます。

- 完了したジョブの合計数。ステータスが失敗または成功で、アーカイブされていないジョブの合計数。この数が1以上の「完了したジョブの合計数」をクリックすると、フィルタが「完了したジョブ」に設定されたジョブページが表示されます。
- アクティブなジョブの合計数。ステータスが「保留中」または「処理中」になっている現在のジョブの数。この数が1以上の「アクティブなジョブの合計数」をクリックすると、フィルタが「アクティブなジョブ」に設定されたジョブページが表示されます。
- すべてを参照。このボタンをクリックすると、フィルタが「すべて」に設定されたジョブページが開きます。

システムページ

このウィンドウには、管理対象システムのリストと、各管理対象システムで有効なすべてのアップデートとジョブの要約情報が表示されています。「フィルタ」フィールドを使用すると、未チェックイン、チェックイン済み、すべてのシステムなど、システムのサブセットを表示して、すべての管理対象システムのリストを参照することができます。

Sun Update Connection



Systems

View the status of each system you have registered with Sun Update Connection to find out when your systems last checked in. You can also view the number of updates available for each system and the status of any recent jobs. Begin the update process by selecting the boxes next to the systems you wish to update and then click "View Available Updates."

Systems (1 - 1 of 1 results)

View Available Updates | Filter: All (1)

<input type="checkbox"/>	System	Last Checked-In	Updates Available	Job Status
<input checked="" type="checkbox"/>	swupqa-e4500	16:09, 2005/06/10	32	2 - 1

View Available Updates

Jobs Summary

Added this Session (1)

119252-02: SunOS 5.10:
System Administration
Applications Patch
1 System

All Jobs (3)

Failed	0
Succeeded	2
In Progress	0
Pending	1

View All

この画面の主な機能は、システムを表示し、そのシステムのアップデートにドリルダウンして、そのシステムにインストールするアップデートを決定することです。システム名、有効なアップデートの数、またはジョブの数をクリックすると、各システム、各アップデート、または各ジョブの詳細が表示されます。

注-ジョブは、1つまたは複数のシステムにインストールされる1つのアップデートです。1つのシステムに複数のアップデートをインストールするように要求した場合には、インストールするアップデートごとに1つのジョブが生成されます。複数のシステムに1つのアップデートをインストールするように要求した場合には、複数のステップを持つ1つのジョブになります。

システム画面は、Sun Update Connection System での管理対象として登録された Sun システムを管理するための出発点です。このウィンドウには、ほかの機能に移動するためのワンクリックリンクが複数あります。アップデートを表示および適用するボタンも、このウィンドウにあります。

それぞれ複数の特徴と機能を持った「システム」ウィンドウがいくつかあります。各ページで使用できる機能については、このセクションで詳しく説明します。

システム

メインのシステムページには登録済みのシステムが表示されます。ここでは、1つまたは複数のアップデートを任意のシステムにインストールすることができます。この画面では、複数のナビゲーションパスが使用できます。

注-システムの表示についての詳細および手順は、81ページの「システムを表示する方法(ブラウザインタフェース)」を参照してください。

- 「有効なアップデートを表示」ボタン。「システム:有効なアップデート」の画面が表示され、選択した各システム(システム画面のチェックボックスがオンになっている)およびそのシステムで有効なアップデートが一覧表示されます。
- システム名。システム名をクリックすると、「システム詳細」ポップアップウィンドウが開きます。
- ジョブステータス番号。ゼロより大きな数字をクリックすると、システム画面が開き、特定のシステムで選択したステータスのジョブがすべて一覧表示されます。このウィンドウからのナビゲーションには、次のようなものがあります。
 - システム名リンク。システム名をクリックすると、「システム詳細」ポップアップウィンドウが開きます。
 - 選択したジョブをキャンセル。1つまたは複数の保留中のジョブをキャンセルするには、1つまたは複数のジョブのチェックボックスをオンにしてから、「選択したジョブをキャンセル」ボタンをクリックします。保留中以外のステータスのジョブはキャンセルできないため、選択できません。
 - リストに戻る。ここをクリックすると、メインのシステム画面に戻ります。
- 「ジョブの概要」サイドバーリンク。「ジョブの概要」サイドバーのデータの一部は、次のリンクになっています。
 - ジョブステータス番号。ゼロより大きな任意の数字をクリックすると、ジョブページが開き、そのステータスのジョブのうち、このセッションで作成されたすべてのジョブが一覧表示されます。
 - 「すべてを表示」ボタン。「すべてを表示」をクリックすると、メインのジョブページが開きます。
- 「概要」タブ。「概要」タブをクリックすると概要ページが開きます。
- 「アップデート」タブ。「アップデート」タブをクリックすると、メインのアップデートページが開き、すべての登録済みシステムで有効なすべてのアップデートが一覧表示されます。
- 「ジョブ」タブ。「ジョブ」タブをクリックすると、メインのジョブページが開き、アーカイブされていないすべてのジョブが一覧表示されます。

システム - 有効なアップデート

この画面では、各システムで有効なアップデートに関する情報を見ることができます。この情報には、アップデートのタイプ、アップデートを手動でインストールする必要があるか、システムの再起動が必要か、アップデートのリリース日、および各アップデートの依存パッチ数などがあります。

注-1つまたは複数のシステムに有効なアップデートの表示についての詳細および手順は、82ページの「1つまたは複数のシステムに適用できるアップデートを表示する方法 (ブラウザインタフェース)」を参照してください。

各システムに使用するアップデートを選択し、「アップデートを適用」をクリックします。すると、1つまたは複数のジョブが作成され、次の操作が実行されます。

- 依存パッチがないかをチェックする。
- 依存パッチを一覧表示する確認ウィンドウが表示される。
- この画面で選択されたジョブを含む、待機中のすべてのジョブを示す確認ウィンドウが表示される。
- アップデートがダウンロードされ、各関連システムの次のチェックイン時にインストールされるように待機状態になる。

システム - すべてのジョブ

この画面にアクセスするには、システムのジョブステータス番号をクリックするか、「システム名」フィールドの履歴アイコンをクリックします。「すべてのジョブ」画面には、選択したシステムで行うジョブが表示されます。この画面では、複数のナビゲーションパスが使用できます。

- 「ジョブステータス」リンク「ジョブ詳細」ウィンドウを開きます。
- 「摘要」リンク。「アップデートの詳細」ポップアップを開きます。ポップアップを閉じるには「閉じる」をクリックします。
- 「インストール済みアップデートを表示」リンク「インストール済みアップデート」ウィンドウを開きます。このページでは、このシステムにインストールされているすべてのアップデートを表示できます。また、各アップデートがインストールされた日付、各アップデートの依存パッチの数、およびアップデートのインストール方法も表示されます。アップデートをアンインストールするには、アンインストールするアップデートの横にあるチェックボックスをオンにして、「選択したアップデートをアンインストール」をクリックします。
- 「有効なアップデートを表示」リンク。「システム - 有効なアップデート」ウィンドウが表示されます。このページには、各システムで有効なアップデートに関する情報が表示されます。この情報には、アップデートのタイプ、アップデートを手動でインストールする必要があるか、システムの再起動が必要か、アップデートのリリース日、および各アップデートの依存パッチ数などがあります。「摘要」または「アップ

デート ID」をクリックすると、アップデートに関する詳細な情報を見ることができます。システムへのアップデートの適用を開始するには、適用するアップデートの横にあるチェックボックスをオンにして、「アップデートを適用」をクリックします。

- 「システム設定を編集」リンク。「システム設定を編集」ウィンドウを開きます。このウィンドウでは、次の操作を実行できます。
 - システムの名前(一般名)の編集
84 ページの「システム名を変更する方法(ブラウザインタフェース)」を参照してください。
 - システムのチェックイン間隔の変更
83 ページの「システムのチェックイン間隔を設定する方法(ブラウザインタフェース)」を参照してください。
 - Sun が保管しているシステムの詳細情報の表示
- 「詳細情報の表示」ボタン。「ジョブ詳細」ウィンドウを開きます。このウィンドウから、各システムで最近実行したジョブのステータスや、作業の失敗原因に関する情報を確認できます。ジョブが成功または失敗したら、ジョブのアーカイブを選択し、履歴に保存してこの表示から削除することができます。
- 「リストに戻る」ボタン。システムのメインウィンドウを開きます。
- 「戻る」ボタン。このウィンドウの直前に開いていたウィンドウに戻ります。

選択したシステムにすでにインストールされているすべてのアップデートのリストを表示します。この情報は、選択したシステムのキャッシュから取り出されます。

システム-インストール済みアップデート

このページから、このシステムにインストールされているすべてのアップデートを表示できます。また、各アップデートがインストールされた日付、各アップデートの依存パッチの数、およびアップデートのインストール方法も表示されます。アップデートをアンインストールするには、アンインストールするアップデートの横にあるチェックボックスをオンにして、「選択したアップデートをアンインストール」をクリックします。この画面では、複数のナビゲーションパスが使用できます。

- 「すべてのジョブを表示」リンク。「システム-すべてのジョブ」ウィンドウが表示されます。詳細については、前述の説明を参照してください。
- 「有効なアップデートを表示」リンク。「システム-有効なアップデート」ウィンドウが表示されます。詳細については、前述の説明を参照してください。
- 「システム設定を編集」リンク。「システム設定を編集」ウィンドウを開きます。詳細については、前述の説明を参照してください。
- 「選択したアップデートのアンインストール」ボタン。「依存パッチのアンインストールと確認」ページを開きます。
- 「リストに戻る」ボタン。メインのシステムページを開きます。

データ列

Sun Update Connection Hosted Web アプリケーションのシステム機能領域には、4つの機能ウィンドウがあります。各ウィンドウには、システムアップデートやジョブ情報がさまざまな方法で表示され、すべてのシステム、アップデート履歴、待機中のジョブ、有効なアップデートなどを確認できます。ここでは、各ウィンドウのデータ列について、ウィンドウごとに1つの表にして説明します。

システム(メイン)

次の一覧は、メインのシステム画面に表示される列です。データの説明、列のコンテンツからのリンク、このデータからのアップデート管理を実行する方法も示されています。

注-このウィンドウのデータは、ブラウザの更新ボタンを使用して更新できます。更新または再ロードを要求するまで、セッション中のデータは変更されません。

列の見出し行に三角形のアイコンが付いている列を、並べ替えキーとして使用することができます。フィールドの多くは、システム詳細へのリンクです。

- チェックボックス。各システムには、そのシステムと、そのシステムに対して表示されている全アップデートを選択するためのチェックボックスが付いています。
「すべて選択」ボタンと「すべてクリア」ボタンを使用して、リスト内の全チェックボックスを選択または非選択にすることができます。
- システム。Sun Update Connection Hosted Web アプリケーションによって管理されるよう、Update Manager アプリケーションに登録されている管理対象システムのホスト名。
リンク:
 - システム名をクリックすると、ポップアップウィンドウに、システムの詳細が表示されます。具体的には、Update Manager へのシステムの登録時に Sun に送信されたシステムデータが表示されます。
 - この列の右側にあるアイコンで、システムのジョブ履歴ウィンドウを開くことができます。
- 最終チェックイン。システムが Sun Update Connection System を介して最後に Sun に接続したときの日付スタンプ。システムを選択し、システムのリストの上にあるシステムプリファレンスの編集ボタンをクリックして、システム画面の各システムのチェックインプリファレンスをカスタマイズすることができます。
 - 今日チェックインしたシステムの場合には、時刻と日付が表示されます。
 - 今日より前にチェックインしたシステムの場合には、日付のみが表示されます。
 - 未チェックインは、システムが1回または2回以上連続してチェックインサイクルに失敗したことを意味します。

最終チェックインのタイムスタンプの左側にアラートアイコンが表示されている場合は、システムが未チェックイン状態にあることを示しています。システムは、予定のチェックイン時間に1回以上チェックインできなかったことを意味します。

- 有効なアップデート。システムに対して、Update Manager 分析エンジンが検出したアップデートの数。

リンク:

数字は、表示されたカウントに含まれるアップデートを一覧表示するウィンドウを開くためのリンクです。数字をクリックすると、システムの有効なアップデートのウィンドウが表示されます。

- ジョブステータス:保留中。現在保留中ステータスのジョブの数。保留中のジョブは、システムがチェックインして、アップデートを Sun からシステムにダウンロードするのを待機しています。ジョブが開始されると、ステータスは保留中から処理中に変わります。保留中のジョブだけをキャンセルできます。

リンク:

- 数字は、このカウントに含まれるジョブの詳細を表示するためのリンクです。

- 「システム:すべてのジョブ」の画面は、「保留中」フィルタを適用して開くので、保留中のジョブのみが表示されます。

「ジョブの概要」ウィンドウには、このセッションで作成されたばかりのジョブの追加情報と、4つのステータスに分類されたジョブの内訳が表示されます。

- ジョブステータス:処理中。現在処理中ステータスのジョブの数。再起動が必要なアップデートをインストールするジョブは、アップデートをシステムにダウンロードすると処理中になります。ジョブは、次のシステム再起動時にアップデートがインストールされて有効になるまで処理中のままです。処理中のジョブはキャンセルできません。

注-再起動待ちのアップデートのステータスは、再起動して、インストールが成功または失敗したあとでも処理中のままです。アップデートをアーカイブして、アクティブなアップデートのリストと数から削除することができます。

リンク:

- 数字は、このカウントに含まれるジョブの詳細を表示するためのリンクです。

- 「システム:すべてのジョブ」の画面は、「処理中」フィルタを適用して開くので、処理中のジョブのみが表示されます。

- ジョブの詳細には、各ジョブの現在の実行段階が含まれています。この詳細は、手動操作が必要かどうかを判断するときに役立ちます。

- ジョブステータス:成功。正常に完了したジョブの数。ジョブが完了したとみなされる2つのステータスの内の1つです。「成功」および「失敗」ステータスとともに、ジョブが完了したとみなされます。

リンク:

- 数字は、このカウントに含まれるジョブの詳細を表示するためのリンクです。

- 「システム:すべてのジョブ」の画面は、「成功」フィルタを適用して開くので、成功したジョブのみが表示されます。
 - ジョブステータス:失敗。正常に完了しなかったジョブの数。ジョブの詳細には、失敗したジョブのインスタンスと原因を追跡できるログエントリが含まれています。失敗したジョブは再開できません。もう一度やり直すには、新しいジョブを作成してください。
- リンク:
- 数字は、このカウントに含まれるジョブの詳細を表示するためのリンクです。
 - 「システム:すべてのジョブ」の画面は、「失敗」フィルタを適用して開くので、失敗したジョブのみが表示されます。
 - ジョブの詳細には、各ジョブの現在の実行段階が含まれています。この詳細は、手動操作が必要かどうかを判断するときに役立ちます。

システム:有効なアップデート

見出しの列には、フィールドとリンクが含まれます。次に、画面のすべてのフィールド、リンクとジャンプ先を含む各フィールドの説明を一覧します。

- チェックボックス。各システムには、システムおよびそのシステムのすべてのアップデートを選択するためのチェックボックスがあります。
 - システム名。Sun Update Connection Hosted Web アプリケーションによって管理されるよう、Update Manager アプリケーションに登録されている管理対象システムのホスト名。
- リンク:
- システム名をクリックすると、ポップアップウィンドウにシステムの詳細: Update Manager へのシステムの登録時に Sun に送信されたシステムデータが表示されます。
 - この列の右側にあるアイコンで、システムのジョブ履歴ウィンドウを開くことができます。
 - 次のチェックイン。システムの次の予定チェックイン日時。チェックインの頻度は、システム設定(システム:すべてのジョブ:「システム設定の変更」ボタン)で変更できます。

各行にはチェックボックスとリンクが含まれます。次に、画面のすべてのフィールド、リンクとジャンプ先を含む各フィールドの説明を一覧します。

- チェックボックス。各アップデートには、そのアップデートを選択するためのチェックボックスが付いています。
- アップデート ID。アップデートに Sun が割り当てた固有の ID。ID をクリックすると、アップデートの詳細を表示するポップアップウィンドウが開きます。
- 摘要。アップデートの簡単な説明。摘要をクリックすると、アップデートの詳細を表示するポップアップウィンドウが開きます。
- リリース日。顧客のインストール用に Sun がアップデートをリリースした日付。

- 依存パッチ。表示されているアップデートのインストール前にインストールが必要な、ほかのアップデートの数。数字をクリックすると、依存パッチのID、摘要、および詳細を表示するポップアップウィンドウが開きます。

アップデートページ

「アップデート」タブをクリックすると、全管理対象システムのすべての有効なアップデートのリストが表示されます。

アップデートページは、Sun Update Connection Hosted Web アプリケーションでの管理対象として登録されているシステムの Sun アップデートを管理するための出発点です。このページには、ほかの機能に移動するためのワンクリックリンクがいくつかあります。アップデートを表示および適用するボタンもこのページにあります。

The screenshot shows the Sun Update Connection web interface. At the top, there's a navigation bar with 'Sun Connection', a language dropdown set to 'English', and user information 'dhrallest connected' with links for 'ACCOUNT', 'LOG OUT', and 'HELP'. Below this is a header with the 'Sun Update Connection' logo and a navigation menu with 'Summary', 'Systems', 'Updates', and 'Jobs' tabs. The 'Updates' tab is active, displaying a list of updates available for systems. The list has columns for 'Update ID', 'Synopsis', 'Type', 'Systems Affected', and 'Release Date'. A sidebar on the right shows a 'Jobs Summary' with a table of job statuses: Failed (0), Succeeded (2), In Progress (0), and Pending (1). At the bottom of the update list, there's a pagination control showing 'Page: 1 of 2'.

Update ID	Synopsis	Type	Systems Affected	Release Date
119564-01	SunOS 5.10: liblgrp Patch	Non-Critical	1	2005/04/26
118992-02	SunOS 5.10: /kernel/misc/scsi patch	Non-Critical	1	2005/05/27
118711-01	SunOS 5.10: M64 Graphics Patch	Non-Critical	1	2005/04/26
119252-02	SunOS 5.10: System Administration Applications Patch	Non-Critical	1	2005/05/13
119284-01	CDE 1.6: sdwinfo patch	Non-Critical	1	2005/05/18
118852-01	SunOS 5.10: patch kernel/misc/sparcv9/libcm	Non-Critical	1	2005/05/24
119075-04	SunOS 5.10: ip patch	Non-Critical	1	2005/05/19
119685-01	SunOS 5.10: lib/svc/bin/svc.startfd Patch	Non-Critical	1	2005/05/24
119683-01	SunOS 5.10: lib/svc/bin/svc.configd Patch	Non-Critical	1	2005/05/27
118550-01	SunOS 5.10: pcipsy Patch	Non-Critical	1	2005/04/11
119145-02	SunOS 5.10: usrsnadm/lib Patch	Non-Critical	1	2005/05/27
118371-03	SunOS 5.10: elfsign Patch	Non-Critical	1	2005/05/24
119143-02	SunOS 5.10: patch lib/libinetutil.so.1	Non-Critical	1	2005/04/05
117463-02	SunOS 5.10: passwdutil Patch	Non-Critical	1	2005/04/01
119715-01	SunOS 5.10: patch kernel/drv/sparcv9/scsi_vhci	Non-Critical	1	2005/05/26
118557-01	SunOS 5.10: patch platform/sun4u/kernel/drv/sparcv9/su	Non-Critical	1	2005/05/24
119418-01	GNOME 2.6.0: Gnome On-screen Keyboard Patch	Non-Critical	1	2005/05/10
118822-02	SunOS 5.10: Kernel Patch	Non-Critical	1	2005/04/15
117461-01	SunOS 5.10: Id Patch	Non-Critical	1	2005/04/29
118812-01	SunOS 5.10: patch platform/SUNW,Netra-T12/kernel/drv/sparcv9/ntwtd	Non-Critical	1	2005/05/24
118346-01	SunOS 5.10: libnsi Patch	Non-Critical	1	2005/05/12
118996-02	SunOS 5.10: patch usr/sbin/format	Non-Critical	1	2005/05/24
118370-02	SunOS 5.10: librmf Patch	Non-Critical	1	2005/05/31
119117-02	Evolution 1.4.6 patch	Non-Critical	1	2005/04/26
118373-01	SunOS 5.10: mpstat Patch	Non-Critical	1	2005/04/25

それぞれ複数の特徴と機能を持った「アップデート」ウィンドウがいくつかあります。

各ウィンドウについては、このセクションで詳しく説明します。

アップデート

メインのアップデートページには、すべての有効なアップデート、および各アップデートに関連する登録済みシステムの数が表示されます。このページでは、システムで使用できるさまざまなアップデートを、ID、名前、タイプ、関連するシステムの数、およびアップデートのリリース日別に表示できます。

このウィンドウでは、複数のナビゲーションパスが使用できます。

- 「関連システムの表示」ボタン。「アップデート-関連システム」ウィンドウに、アップデート、およびそのアップデートに関連する各システムの一覧が表示されます。
- 「IDのアップデート」リンク。アップデートの README ファイルをポップアップウィンドウで開きます。ポップアップを閉じるには「閉じる」をクリックします。
- 「摘要」リンク。アップデートの README ファイルをポップアップウィンドウで開きます。ポップアップを閉じるには「閉じる」をクリックします。
- 「概要」タブ。「概要」タブをクリックすると概要ページが開きます。[105 ページの「概要ページ」](#)を参照してください。
- 「システム」タブ。「システム」タブをクリックすると、メインのシステムページが開き、すべての登録済みシステムの一覧が表示されます。[106 ページの「システムの表」](#)を参照してください。
- 「ジョブ」タブ。「ジョブ」タブをクリックすると、メインのジョブページが開き、アーカイブされていないすべてのジョブが一覧表示されます。

アップデート-関連システム

このページから、各アップデートと、アップデートの影響を受けるシステムを確認できます。また、システムのステータス、各アップデートの依存パッチ、および各システムに現在インストールされているアップデートのバージョンも表示されます。システムへのアップデートの適用を開始するには、適用するアップデートの横にあるチェックボックスをオンにして、「アップデートを適用」をクリックします。

このウィンドウでは、複数のナビゲーションパスが使用できます。

- 「アップデートを適用」ボタン。Sun Update Connection System に、次のアクションを完了するジョブの作成を指示します。
 - 依存パッチがないかをチェックする。
 - すべての依存パッチのリストを含む確認ウィンドウを表示する。
 - この画面で選択されたジョブを含む、待機中のすべてのジョブを示す確認ウィンドウが表示される。

87 ページの「依存性のあるアップデートを、選択したアップデートとともにインストールする方法(ブラウザインタフェース)」を参照してください。

- リストに戻る。メインのアップデートページを開きます。

依存パッチと確認

選択したアップデートをインストールする際、1つまたは複数の(選択されていない)アップデートをインストールする必要がある場合に、ウィンドウが表示されます。ウィンドウの見出しは次のようになります。

host-name:update-ID 依存パッチ

本文で依存パッチについて説明されています。

- 「上記のアップデートをすべてインストール」をクリックして、依存パッチを含めたアップデートのインストールを実行します。
- このウィンドウを閉じて、アップデートをインストールするために作成されたジョブを一覧表示した「予定されているジョブの確認」ウィンドウを開きます。

アップデートのインストールが予定されたジョブの確認

いくつかのジョブを正常に予定したことを確認します。このページは、ブラウザの印刷オプションを使用して記録のために印刷することができます。予定されたアップデートをキャンセルするには、ジョブリストを表示します。システムのメインページまたはアップデートのメインページで、引き続き新しいアップデートを待機中にできます。

このページからのナビゲーションは、「概要」、「システム」または「ジョブ」タブ、および「リストに戻る」ボタンで行います。

データ列

Sun Update Connection Hosted Web アプリケーションのアップデート機能領域には2つの主要な機能ウィンドウが含まれています。各ウィンドウには、システムアップデートおよびジョブ情報がさまざまな方法で表示され、システムのすべての有効なアップデートを確認できます。ここでは、各ウィンドウのデータ列について、ウィンドウごとに1つの表にして説明します。

アップデート

次の一覧は、メインのアップデート画面に表示される列です。データの説明、列のコンテンツからのリンク、このデータからのアップデート管理を実行する方法も示されています。

注-このウィンドウのデータは、ブラウザの更新ボタンを使用して更新できます。更新または再ロードを要求するまで、セッション中のデータは変更されません。

列の見出し行に三角形のアイコンが付いている列で並べ替えることができます。データのほとんどはリンクです。

- チェックボックス。各アップデートには、そのアップデートを選択するためのチェックボックスが付いています。
 - 「すべて選択」ボタンと「すべてクリア」ボタンを使用して、リスト内の全チェックボックスを選択または非選択にすることができます。
- アップデート ID。アップデートに Sun が割り当てた固有の ID。
- 摘要。アップデートを簡単に説明したテキスト識別子。
 - リンク:
 - 摘要をクリックすると、アップデートの詳細を表示するポップアップウィンドウが開きます。
 - 摘要の右側にあるアイコンは、アップデートのインストールに再起動が必要かどうか、またはインストールに手動操作が必要かどうかを示します。アップデートにアイコンが表示されていない場合、次のウィンドウで選択する各システムが次回チェックインするときに、アップデートをそのシステムにインストールすることができます。
- タイプ。:アップデートのカテゴリ。選択できるタイプは次のとおりです。
 - セキュリティー
 - 推奨
 - 重要ではない
 - 機能
- 関連システム。Update Manager 分析エンジンによって、このアップデートに関連していると検出されたシステムの数。
 - リンク:
 - 番号をクリックすると、「アップデート」ウィンドウが表示されます。関連システム。
- リリース日。表示されているアップデートが Sun からリリースされた日付。このフィールドはリンクではありません。

アップデート:関連システム

見出し行には、フィールドとリンクが含まれます。次に、画面のすべてのフィールド、リンクとジャンプ先を含む各フィールドの説明を一覧します。

- チェックボックス。各アップデートにチェックボックスが付いています。そのボックスをオンにすると、アップデートとそのアップデートに関連するすべてのシステムが選択されます。

- **アップデート ID:摘要。**アップデートにSunが割り当てた固有のID。IDをクリックすると、アップデートの詳細を表示するポップアップウィンドウが開きます。ここではアップデートについて簡単に説明されています。摘要をクリックすると、アップデートの詳細を表示するポップアップウィンドウが開きます。

各行には、選択チェックボックスとリンクが含まれます。次に、画面のすべてのフィールド、リンクとジャンプ先を含む各フィールドの説明を一覧します。

- **チェックボックス。**各システムのチェックボックスをオンにすると、その登録済みシステムに表示されているアップデートのインストール先としてシステムが選択されます。
- **システム状態。**表示されているシステムのステータス。表示されるステータスは、チェックイン済みまたは未チェックインです。システムが3回連続でチェックイン時間にSunに接続できなかった場合、未チェックインとみなされます。
- **システム名。**Sun Update Connection Hosted Web アプリケーションによって管理されるよう、Update Manager アプリケーションに登録されている管理対象システムのホスト名。
- **依存パッチ。**表示されているアップデートのインストール前にインストールが必要な、ほかのアップデートの数。数字をクリックすると、依存パッチのID、摘要、および詳細を表示するポップアップウィンドウが開きます。
- **インストール済みバージョン。**表示されているシステムにインストール済みとして、現在検出されているアップデートIDとバージョン。

「依存パッチ」ウィンドウはシステムの場合と同じです。

ジョブページ

このページには、各システムで待機状態になっているジョブが表示されます。表示内容にはアップデートのステータス、関連するシステムの数、およびジョブが予定または完了された日付が含まれます。依存パッチや発生した問題など、アップデートの詳細を表示するには、アップデートIDまたは摘要をクリックします。ジョブの詳細を表示するには、表示するジョブそれぞれのチェックボックスをオンにして、「選択したジョブを表示」をクリックします。

Sun Connection English dhalltest connected ACCOUNT LOG OUT HELP

Sun Update Connection

Summary Systems Updates **Jobs**

Jobs

View the jobs queued for each of your systems including the status of updates, how many systems are affected and the date the job was scheduled or completed. You can view update details including dependencies and any problems encountered by clicking on the "Update ID" or "Synopsis." You can view the job details by selecting the check boxes for each job you wish to view and then clicking "View Selected."

Jobs (1 - 3 of 3 results)

View Selected Archive Selected Filter: All (3)

<input type="checkbox"/>	Job Status	Update ID	Synopsis	Systems Affected	Time/Date
<input type="checkbox"/>	Succeeded	119317-01	SunOS 5.10: SVr4 Packaging Commands (usr) Patch	1	00:10, 2005/06/08
<input type="checkbox"/>	Succeeded	119015-03	WITHDRAWN PATCH SunOS 5.10: Packaging Commands Patch	1	00:10, 2005/06/08
<input type="checkbox"/>	Pending	119252-02	SunOS 5.10: System Administration Applications Patch	1	17:28, 2005/06/10

View Selected Archive Selected

Jobs Summary

Added this Session (1)

119252-02: SunOS 5.10: System Administration Applications Patch
1 System

All Jobs (3)

Failed	0
Succeeded	2
In Progress	0
Pending	1

View All

「ジョブ」タブをクリックすると、登録済みシステムの作成済みおよび待機中の現在のすべてのジョブが一覧表示されます。このウィンドウからジョブを表示して管理することができます。メインの「ジョブ」ウィンドウでは、次のジョブを実行できます。

- 現在の全ジョブのリストを表示する
- アーカイブ済みジョブ
- ジョブをクリックしてジョブの詳細を表示する
- チェックボックスをオンにして複数のジョブを選択し、ジョブの詳細を表示する
- 「関連システム」列の数字をクリックして、ジョブに含まれているシステムの詳細を表示する
- アップデート ID をクリックして、アップデートの README ファイルの入ったポップアップウィンドウを表示する
- データ列を基準に並び替える
- 1つまたは複数の保留中のジョブを選択し、「選択したジョブを表示」をクリックして「ジョブ詳細」ウィンドウを開き、1つまたは複数の保留中のジョブをキャンセルする

このページでは、複数のナビゲーションパスが使用できます。

- 「選択したジョブを表示」ボタン。「ジョブ詳細」ページを開きます。このページから、各システムで最近実行したジョブのステータスや、ジョブの失敗原因に関する情報を確認できます。ジョブが成功または失敗したら、ジョブのアーカイブを選択し、履歴に保存してこの表示から削除することができます。保留中または処理中のジョブをアーカイブすることはできません。アーカイブされたジョブを表示するには、アーカイブ済みジョブのリストを表示します。
- 「選択したジョブをアーカイブ」ボタン。「アーカイブ済みジョブの詳細」ウィンドウを開きます。選択したジョブが、グループ別に一覧表示されます。ジョブ ID ヘッダーには、関連する各システムのジョブのステータスが表示されます。
 - 完了したジョブのみをアーカイブすることができます。
 - 完了したジョブは、失敗または成功ステータスのジョブです。
- 「ジョブステータス」リンク。「ジョブ詳細」ページを開きます。このページから、各システムで最近実行したジョブのステータスや、ジョブの失敗原因に関する情報を確認できます。
- 「アップデート ID」リンク。アップデートの README ファイルがポップアップウィンドウに表示されます。ポップアップを閉じるには「閉じる」をクリックします。
- 「摘要」リンク。アップデートの README ファイルをポップアップウィンドウで開きます。ポップアップを閉じるには「閉じる」をクリックします。
- 「関連システム」リンク。「ジョブ詳細」ページを開きます。このページから、各システムで最近実行したジョブのステータスや、ジョブの失敗原因に関する情報を確認できます。

データ列

「ジョブ」ウィンドウには、次のようなものがあります。

- ジョブ
- ジョブ詳細
- アーカイブ済みジョブの詳細
- 予定されているジョブの確認

各ウィンドウには、ジョブ情報がさまざまな方法で表示され、使用可能なすべてのジョブ、有効なすべてのアップデート、およびすべての関連システムを確認できます。ここでは、各ウィンドウのデータ列について、ウィンドウごとに1つの表にして説明します。

ジョブ

次に、メインのジョブ画面の列にある、データの説明、列の内容からのリンク、このデータからジョブの管理に移動する方法を一覧します。

注-このウィンドウのデータは、ブラウザの更新ボタンを使用して更新できます。更新または再ロードを要求するまで、セッション中のデータは変更されません。

列の見出し行に三角形のアイコンが付いている列で並べ替えることができます。データのほとんどはリンクです。

- チェックボックス。各アップデートには、そのアップデートを選択するためのチェックボックスが付いています。
 - 「すべて選択」ボタンと「すべてクリア」ボタンを使用して、リスト内の全チェックボックスを選択または非選択にすることができます。
- ジョブステータス。ジョブの現在のステータス。
 - 保留中-関連システムの次のチェックイン時またはシステムの再起動時に実行されるまで待機しているジョブ
 - 処理中-実行されているが、まだ完了していないジョブ
 - 失敗-完了はしたが、正常に完了しなかったジョブ
 - 成功-正常に完了したジョブ
- アップデート ID。アップデートに Sun が割り当てた固有の ID。
- 摘要。アップデートを簡単に説明したテキスト識別子。
 - リンク:
 - 摘要をクリックすると、アップデートの詳細を表示するポップアップウィンドウが開きます。
 - 摘要の右側にあるアイコンは、アップデートのインストールに再起動が必要かどうか、またはインストールに手動操作が必要かどうかを示します。アップデートにアイコンが表示されていない場合、次のウィンドウで選択する各システムが次回チェックインするときに、アップデートをそのシステムにインストールすることができます。
- 関連システム。Update Manager 分析エンジンによって、このアップデートに関連していると検出されたシステムの数。
 - リンク:
 - 数字をクリックすると、「アップデート:関連システム」ウィンドウが表示されます。
- 日付/時刻。表示のジョブが最後に処理され、現在のステータスになった日付と時刻。
 - このフィールドはリンクではありません。

ジョブ詳細

次に、「ジョブ詳細」ウィンドウの列にある、データの説明、列の内容からのリンク、このデータからジョブの管理に移動する方法を一覧します。

注-このウィンドウのデータは、ブラウザの更新ボタンを使用して更新できます。更新または再ロードを要求するまで、セッション中のデータは変更されません。

列の見出し行に三角形のアイコンが付いている列で並べ替えることができます。データのほとんどはリンクです。

- チェックボックス。各アップデートには、そのアップデートを選択するためのチェックボックスが付いています。
 - 「すべて選択」ボタンと「すべてクリア」ボタンを使用して、リスト内の全チェックボックスを選択または非選択にすることができます。
- ジョブステータス。ジョブの現在のステータス。
 - 保留中-関連システムの次回のチェックイン時またはシステムの再起動時に実行されるまで待機しているジョブ
 - 処理中-実行されているが、まだ完了していないジョブ
 - 失敗-完了はしたが、正常に完了しなかったジョブ
 - 成功-正常に完了したジョブ
- システム名。ジョブが実行中または実行される予定のシステムの一般名。
- コメント。ジョブが失敗または成功した理由を説明するテキスト。
- 日付/時刻。表示されているジョブが最後に処理されて、現在のステータスになった日付と時刻。

このフィールドはリンクではありません。

アーカイブ済みジョブの詳細

次に、「アーカイブ済みジョブの詳細」ウィンドウの列にある、データの説明、列の内容からのリンク、このデータからジョブの管理に移動する方法を一覧します。

注-このウィンドウのデータは、ブラウザの更新ボタンを使用して更新できます。更新または再ロードを要求するまで、セッション中のデータは変更されません。

列の見出し行に三角形のアイコンが付いている列で並べ替えることができます。データのほとんどはリンクです。

- アーカイブ済みジョブのステータス。アーカイブジョブの現在のステータス。
 - 保留中-関連システムの次回のチェックイン時に実行されるまで待機しているジョブ
 - 処理中-実行されているが、まだ完了していないジョブ
 - 失敗-完了はしたが、正常に完了しなかったジョブ
 - 成功-正常に完了したジョブ
- システム名。ジョブが実行中または実行される予定のシステムの一般名。

-
- コメント。アーカイブジョブが失敗または成功した理由を説明するテキスト。
 - 日付/時刻。表示されているジョブが最後に処理されて、現在のステータスになった日付と時刻。

このフィールドはリンクではありません。

用語集

このマニュアルでは、次の用語を使用します。

PatchPro	Sun ネットワークストレージが開発した製品であり、Sun Update Manager で使用する自動的なアップデート管理テクノロジーを提供します。
Sun Update Connection Hosted Web アプリケーション	Sun Web サイト上で提供される Web アプリケーションで、これを使用することにより1つまたは複数の Solaris システム上でアップデートをリモート管理できます。
Sun Update Connection Hosted プロキシ	アップデートのデータにアクセスできる、イントラネット上のシステムです。Sun アップデートサーバーの代わりにこのプロキシを使用することができます。このプロキシでは、アップデートソースからダウンロードしたアップデートをキャッシュします。「ローカルパッチサーバー」ともいいます。
Sun オンラインアカウント	Sun Update Manager を使用するためにシステムを登録したり、システムのアップデートを管理できる Sun Update Connection System Web サイトにログインしたりするときに必要なアカウントです。
Web プロキシ	「 ネットワークプロキシ 」を参照してください。
アップデート	(名詞) 既存の問題を訂正したり、特定の機能を導入したりするために適用する、ソフトウェアへの変更。 (動詞) システムにアップデートを適用するために必要な手順を実行すること。システムを分析して、アップデートをダウンロードし、最後にアップデートを適用します。 「 パッチ 」ともいいます。
アップデート ID	アップデートベースコード、ハイフン、アップデートリビジョン番号で構成される固有の英数字です。
アップデート管理のプロセス	このプロセスには、システムを分析して適切なアップデートを判断する処理、アップデートをシステムにダウンロードする処理、アップデートを適用する処理があります。アップデート管理のプロセスでは、任意にアップデートを削除する場合があります。

アップデートサーバー	システムがアップデート分析を実行するために使用する Solaris アップデートのソースであり、このソースから適切なアップデートを取得します。アップデートサーバーには、Sun アップデートサーバーや、イントラネット上のサーバー(「 Sun Update Connection プロキシ 」と呼ばれる)を指定できます。
アップデート適用のポリシー	ユーザーが設定できるポリシーであり、システムのアップデート時に適用できるアップデートのタイプを指定します。
アップデートの依存性	システム上のアップデートがほかのアップデートの存在に依存する状況のことです。1つまたは複数のアップデートに依存するアップデートは、依存するほかのアップデートがすでに適用されているシステムにのみ適用できます。
アップデートの旧バージョン化	特定のアップデートで古いアップデートを置き換える状況のことです。その時点で、古いアップデートがシステムに適用されているかどうかは関係ありません。バージョンが1つ以上新しくなるアップデートは、古いアップデートをまとめて置き換えます。新しいアップデートを適用する前に、古いアップデートが適用されている必要はありません。
アップデートの非互換性	同じシステムに2つのアップデートを適用できないまれな状況のことです。これらの2つのアップデートは相互に排他的な関係にあります。システムにすでに特定のアップデートが適用されており、これと互換性のない別のアップデートを適用する場合、システムにすでにあるアップデートを最初に削除する必要があります。削除すると、新しいアップデートを適用できます。
アップデート分析	システムに適したアップデートを判断するために、システムをチェックする処理です。
アップデートリスト	1行に1アップデートIDの形式で、アップデートのリストを保存したファイルです。アップデート操作の実行に、このリストを利用できます。システムの分析やユーザーの入力に応じて、このリストを生成できます。 アップデートリストの各行には、2つの列があります。最初の列はアップデートIDであり、2番目の列はアップデートの摘要です。
依存性	「 アップデートの依存性 」を参照してください。
解決	アップデートのリストに対して必要なアップデートの依存性を判断することです。ほかのアップデートをリストに追加する必要があるかどうかを判断するために、リスト内の各アップデートがチェックされます。特定のアップデートが必要とされる場合、これらのアップデートが順序に沿って並べられたアップデートリストに追加されます。
キーストア	署名されたアップデートの適用を試行するときに照会される証明書とキーのレポジトリです。
機能アップデート	システムに新しい機能を導入するアップデートです。
キャッシュ	一連のアップデートサーバーに組み込まれたサーバーが、ほかのサーバーからダウンロードしたアップデートを格納する機能です。

サブスクリプションキー	Sun Update Manager で Solaris システムを登録する際に使用する値です。このキーを使用して、セキュリティ関連以外のアップデートと Sun Update Connection Hosted Web アプリケーションにアクセスできます。
順序付け	アップデートの適用に適した順序で、アップデートをソートします。
ジョブ	Sun Update Connection Hosted Web アプリケーションを使用して管理している、1 台以上のシステムで実行されるアップデート管理アクティビティです。
署名付きアップデート	有効なデジタル署名で署名されたアップデートです。署名付きアップデートは、署名なしアップデートよりもセキュリティが強化されます。アップデートのデジタル署名は、アップデートをシステムに適用する前に検証できます。有効なデジタル署名は、署名の適用後に、署名付きアップデートが変更されていないことを保証します。署名されたアップデートは、Java Archive (JAR) 形式ファイルに保存されます。
署名なしアップデート	デジタル署名で署名されていないアップデートです。
ダウンロード	Sun Update Connection System プロキシまたは Sun アップデートサーバーなどのアップデートソースから、アップデートを適用するシステムに対して、1 つ以上のアップデートをコピーすることです。
ダウンロードディレクトリ	アップデートソースからダウンロードするときに、アップデートを格納するディレクトリです。またこのディレクトリからアップデートが適用されます。デフォルトの場所は <code>/var/sadm/spool</code> です。
チェックイン	システムが Sun Update Connection System Web サイトに接続して、待機状態になっているアップデートのインストールおよびアンインストールジョブを実行することです。
適用	システムにアップデートをインストールすることです。
デジタル署名	署名の適用後に、アップデートなどのドキュメントが変更されていないことを保証できる電子的な署名です。
登録	Sun Update Manager ソフトウェアを使用するために、Solaris システムを登録することです。
ネットワークプロキシ	システムをインターネットに接続するシステムです。ユーザーのシステムがインターネットに直接に接続できない場合、接続を確立するために、このネットワークプロキシを使用する必要があります。「 Web プロキシ 」ともいいます。
バックアウト	システムからアップデートを削除することです。
バックアウトディレクトリ	バックアウトデータを格納するディレクトリです。デフォルトでは、アップデートでインストールされた各パッケージの <code>save</code> ディレクトリです。

バックアウトデータ	アップデートを削除(バックアウト)するときに、以前の状態にシステムを戻すことができるよう、アップデートの適用時に作成されるデータです。
パッケージ	システムに配布してインストールするためのソフトウェア製品の形式。パッケージには、一連のファイルとディレクトリが一定の形式で収録されています。
パッチ	「 アップデート 」を参照してください。
分析	システムに適したアップデートのリストを判断するために、システムを検査することです。 Update Manager は、分析モジュールと Sun アップデートサーバーにある利用可能なアップデートのリストを使用して、使用している Solaris システムに適したアップデートのリストを生成します。
リモートモード	smpatch コマンドで使用できるモードです。このモードは、アップデートでほかのシステムをアップデートするために、ローカルシステム上で実行できます。このモードは、マルチユーザーモードで稼働しているシステムだけに使用できます。
ローカルパッチサーバー	「 Sun Update Connection System プロキシ 」を参照してください。
ローカルモード	smpatch コマンドを使用できるモード。そのローカルシステムだけで実行できます。システムがシングルユーザーモードまたはマルチユーザーモードのときに、アップデートを適用するために、このモードを使用できます。

索引

H

halt コマンド, 63, 86

I

init, 86

P

PatchPro 分析エンジン, 25

R

README, 88, 117, 122

S

smpatch コマンド

 コマンド行インタフェース, 19, 28

 リモートモードでの実行, 26

 ローカルモードでの実行, 26

Sun Update Connection プロキシの設定一覧, 102

Sun Update Connection プロキシ, 24-25, 86, 87

 可用性, 24-25

 使用上の利点, 24

 設定の一覧, 102

 設定の変更, 102

Sun Alert および推奨するアップデート, 74

Sun Update Connection Hosted Web アプリケー

 ション, 23

 アップデートソースの指定, 99

 可用性, 23

 システム管理, 60-61

Sun Update Connection Hosted Web アプリケーション

 へのアクセス, ブラウザインタフェースの使

 用, 75

Sun オンラインアカウント, 73, 76, 78

Sun オンラインアカウントの作成, 47-52

U

uadmin コマンド, 63, 86

Update Manager

 「Update Manager」を参照

 PatchPro 分析エンジン, 25

 smpatch コマンド, 28

 アップデートリストの操作, 27

 依存先のアップデート, 33

 インストール, 37

 インタフェースの比較, 13

 機能, 22

 機能の概要, 13

 グラフィカルユーザーインタフェース (GUI), 22, 28

 コマンド行インタフェース, 28

 サブスクリプションキーの取得, 52, 59-60, 68

 システム登録, 29

 システムの登録, 45

 必要な Solaris ソフトウェア, 22, 37

 ほかのツールとの比較, 17

 目的, 28

V

/var/sadm/patch ディレクトリ, 19

あ

アーカイブされていないジョブ, 90

アーカイブジョブ, 121

アーカイブ済み, 89,93

アカウントの作成, 79

アクセス, Sun Update Connection Hosted Web アプリ
ケーション, 75

アクセス方法

Update Manager GUI, 54

アップデート管理ツール, 54

アクティブ, 108

アクティブなジョブ, 90

アクティブなジョブの合計数, 108

アップグレード, プレビューリリース版から Sun
Update Connection System 1.0.8 へのアップグレー
ド, 41

アップデート, 74, 110

Solaris へのアクセス, 16

Update Manager が依存する, 33

アップデート README ファイル, 16

関連システム, 119-120

最良の適用方法の選択, 17, 19

署名付き, 16

署名なし, 16

ソース, 34

ダウンロード, 62

ツールおよびコマンド (概要), 17

定義, 15

適用ツール, 17-22

ナンバリングの規則, 16

アップデート一覧、表示, 62

アップデート管理環境の設定, 56

アップデート管理ツール

概要, 17

選択, 17, 19

アップデート管理プロセス

Update Manager を使用した, 31

システムアップデートのダウンロード, 32

システムからのアップデートの削除, 33

システムのアップデート分析, 32

システムへのアップデートの適用, 33

アップデートソース, 34

Sun Update Connection プロキシ, 34
指定, 99

アップデートサーバー, 34

指定, 34, 57, 58

アップデートのローカルコレクション, 34

アップデートディレクトリの場所、変更, 66

アップデートのインストール, 87, 91

アップデートの合計数, 107

アップデートの削除, 33, 65

アップデートのダウンロード, 32

アップデートのためのシステム分析, 62

毎日実行されるようスケジュール, 67

アップデートの適用, 33

グラフィカルユーザーインターフェースの使用, 62

コマンド行インターフェースの使用, 56

最良の方法の選択, 17, 19

ポリシー, 35

アップデートの適用ポリシー, 35

アップデートページ, 86

アップデートリストの操作, 27

アップデートを適用, 117

アップデートを用いたシステムの更新, 62

アラートアイコン, 106

い

依存性, 87, 88

依存パッチ, 120

依存パッチと確認, 118

インストール

Sun Update Connection プロキシ 機能アッパデー
ト, 40-41

Sun Download Center からの Update Manager のイ
ンストール, 39-40

Update Manager, 37

Update Manager 機能アップデート, 38-39

インストール済みアップデートの表示, 83

か

概要, 110, 117

管理

Sun Update Connection Hosted Web アプリケーションを使用したアップデート, 34

Sun Update Connection Hosted Web アプリケーションを使用したシステム管理, 60-61
システム、リモート, 60-61

完了, 108

完了したジョブ, 90

完了したジョブの合計数, 108

完了済み, 93

関連システムの表示, 92, 117

き

機能アップデート, 74

く

グラフィカルユーザーインターフェース (GUI)

Update Manager, 17-22, 22, 28

Update Manager へのアクセス方法, 54

アップデート管理環境の設定, 56

アップデート管理環境の調整, 66

アップデートの管理, 45, 53, 61

クリティカルでないアップデート, 74

こ

コア Solaris, 88

更新, 90, 93

コマンド行インターフェース

smpatch コマンド, 28

リモートモード, 26

ローカルモード, 26

Update Manager, 28

さ

サーバー

アップデート, 34

パッチ

ローカル, 24

再ロード, 90, 93

サブスクリプションキー, 73

サブスクリプションキーの取得, 52, 59-60, 68

し

システム - 有効なアップデート, 111

システム詳細, 110

システム設定, 83

システム設定の編集, 82-83, 83, 84

システム設定を編集, 112

システム登録, Update Manager の利用条件, 29

システムのアップデート分析, 32

システムの一般名, 82

システムの合計数, 106

システムの再起動, 86

システムの削除, 83, 84

システムの詳細, 82

システムの登録, 45, 47

システムページ, 108-116

システム名, 84, 110

システム名の変更, 84

システム要件

Sun Update Connection プロキシ, 24

Update Manager, 22, 37

実行中, 89, 93

失敗, 89, 93, 94, 107

詳細情報の表示, 112

ジョブ, 74, 110, 117

ジョブステータス, 94, 110

「ジョブ」タブ, 121

ジョブの概要, 110

ジョブの作成, 86, 87, 91

ジョブの詳細, 90, 94

ジョブページ, 90, 93, 94

署名付きアップデート, 15, 16

署名付きアップデートのデジタル署名, 15

署名なしアップデート, 16

処理中, 108

す

スケジュール, 毎日のアップデート分析, 67

すべてのジョブ, 90

すべてのジョブの表示, 83
すべてを参照, 107, 108
すべてを表示, 110

せ

成功, 89, 93, 107
セキュリティアップデート, 74
選択したアップデートのアンインストール, 88
選択したジョブのキャンセル, 94
選択したジョブをキャンセル, 110

た

待機中のジョブ, 87, 91
ダウンロードディレクトリ, アップデートの変更, 66

ち

チェックイン, 87
チェックイン間隔, 83
チェックイン対象のシステム, 83
調整、アップデート管理環境, 66

つ

ツール、概要, 17

て

摘要, 119
電子メールアドレス, 76

と

登録, 73
登録ウィザード, 45, 73
登録、サービスレベル, 29-31

ね

ネットワークプロキシ, 76

は

パスワード, 76
バックアウト, 「削除」を参照
バックアウトディレクトリ, アップデートの変更, 66
パッチ, 「アップデート」を参照

ひ

表示

Sun Update Connection プロキシの設定, 102
アップデートの一覧, 62

ふ

ファームウェアのプロンプト, 86
フィルタ, 90, 93, 107
「フィルタ」メニュー, 90
ブラウザ, 76
ブラウザインタフェース
Sun Update Connection Hosted Web アプリケー
ションへのアクセス, 75
アップデートの管理, 74, 85
システムの管理, 80
ジョブの管理, 89
プロキシ
Sun Update Connection System, 24
ネットワーク, 57

へ

変更

アップデートディレクトリの場所, 66
アップデートの適用ポリシー, 35
設定
Sun Update Connection プロキシ, 102

ほ

ポートの設定, 76
保留中, 89, 93, 108

み

未チェックイン, 106

も

戻る, 112

ゆ

有効なアップデート, 82
有効なアップデートの表示, 83, 91
有効なアップデートを表示, 110, 111
ユーザー名, 76, 79

り

リアルタイムでの変更, 82
リストに戻る, 110
リモートモード `smpatch`, 26
利用規約, 79
リリース日, 119
履歴, 82
履歴アイコン, 82, 83
履歴データ, 84, 85

ろ

ローカルパッチサーバー, 「Sun Update Connection プ
ロキシ」を参照
ローカルモード
 `smpatch`, 26
 シングルユーザーモード操作, 26

